

小学校英語教育に係る 学校ニーズへの対応

2020.3

山形県教育センター

は し が き

近年、わが国は、少子高齢化の進行、急速な社会・経済のグローバル化と技術革新など、変化が激しく予測が難しい時代を迎えている。このような時代にあって、学校教育には、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。

こうした状況を踏まえ、学校教育法施行規則の一部を改正する省令が制定され、平成 29 年 3 月に小学校学習指導要領が公示された。小学校は令和 2 年度から全面実施される。英語教育は、既に平成 30 年度から移行措置がとられているが、第 3 学年及び第 4 学年には「外国語活動」というカリキュラムとして、第 5 学年及び第 6 学年には「外国語」という教科として導入される。さらに、令和 2 年 3 月に策定された「第 6 次山形県教育振興計画」（後期計画）においても、主要施策の一つに「グローバル化等に対応する実践的な力の育成」を掲げ、外国語（英語）教育の推進を図ることとしている。

これまで英語教育では、幾多の議論を経て平成 20 年公示の学習指導要領が実施され、小学校・中学校・高等学校を通じて多くの取組みと成果が見られるところであるが、なお一層の充実が課題となっている。また、小学校英語教育必修化に向けては、授業準備等や ALT 等の外部人材との打合せの時間確保、指導力向上のための研修の実施、小・中連携の工夫等、学校教員がさらに忙しくなることも危惧されている。

そこで、当センターでは、平成 29 年度からの調査研究のテーマに「小学校英語教育に係る学校ニーズへの対応」を掲げ、3 か年計画で小学校における外国語教育の早期化、教科化に向けた基礎研究及び研修プログラムの開発に取り組んできた。新学習指導要領における小学校の外国語科及び外国語活動において育成を目指す資質・能力を子供の姿で具体化するとともに、調査研究協力校における実践事例をもとに、効果的な学習活動の在り方をハンドブックにまとめ、各学校に配付したところである。さらに、ハンドブックと連動させた研修プログラムの開発を進めてきており、次年度の研修講座や出前サポート等における講義内容に反映させていく計画である。本報告書は、本県の外国語教育の充実に向け、各学校における取組みの一助とすべく、研究の成果をまとめたものである。関係各位から忌憚のないご意見やご助言等を頂戴したい。

なお、この研究に際しては、調査研究協力校として、山形市立南小学校、新庄市立沼田小学校、南陽市立沖郷小学校、酒田市立南平田小学校の教職員の方々に授業実践と情報提供をいただいた。また、文部科学省初等中等教育局 山田誠志 教科調査官、国際教養大学 町田智久 准教授からは、ハンドブックの監修に当たり御指導を賜った。お世話になった方々に衷心より感謝申し上げる次第である。

令和 2 年 3 月

山形県教育センター
所 長 坂 尾 聡

小学校英語教育に係る学校ニーズへの対応

山形県教育センター

目次

はしがき

はじめに	1
1 国の動向	
2 研究の目的	
3 研究の年次計画	

第1章 小学校英語教育の推進に向けて 3

- 1 これまでの小学校英語教育
 - (1) 英語教育実施状況調査から
 - (2) 研修講座におけるアンケートから
 - (3) 県内の小学校における授業実践の視察から
- 2 これからの小学校英語教育
 - (1) 新学習指導要領において育成を目指す資質・能力
 - (2) 小学校英語教育で大切にしていきたいこと
 - (3) 県外の先進校における授業実践の視察から
 - (4) 「学校ニーズ」について

第2章 調査研究協力校における実践、検証 20

- 1 学習活動例の開発と実践、検証の進め方
- 2 調査研究協力校における実践、検証
 - (1) 学習活動例1－外国語活動「聞くこと」
「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力の育成を目指して
 - (2) 学習活動例2－外国語活動「話すこと[やり取り]」
「知識及び技能」の資質・能力の育成を目指して
 - (3) 学習活動例3－外国語科「書くこと」
「知識及び技能」の資質・能力の育成を目指して
 - (4) 学習活動例4－外国語科「話すこと[発表]」
「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力の育成を目指して

- 3 調査研究協力校における実践を通して明らかになったこと
 - (1) 育成を目指す資質・能力の明確化について
 - (2) 評価場面、評価の在り方について
 - (3) 言語活動とそれにつながる学習活動について
 - (4) ALT 等との連携について

第3章 ハンドブックによる支援 40

- 1 ハンドブックの作成について
 - (1) ハンドブックの趣旨と構成
 - (2) ハンドブック本編
- 2 ハンドブックの普及に向けて

第4章 研修講座による支援 67

- 1 小学校外国語活動・外国語の授業づくり講座（平成30年度）
 - (1) 講座の概要と構成について
 - (2) 講座における振り返りから
- 2 小学校外国語活動・外国語の授業づくり講座（令和元年度）
 - (1) 講座の概要と構成について
 - (2) 講座における振り返りから
- 3 研修講座による支援を通して明らかになったこと
 - (1) 育成を目指す資質・能力の明確化について
 - (2) 評価場面、評価の在り方について
 - (3) 言語活動とそれにつながる学習活動について
 - (4) ALT 等との連携について

今後に向けて 76

- 1 小学校英語教育に係る学校ニーズへの対応について
 - (1) 本研究において期待される山形県教育センターの役割
 - (2) 今後の展望

引用文献・参考文献 78

調査研究協力校・ハンドブック監修協力者・調査研究担当者

はじめに

1 国の動向

平成 10 年の学習指導要領の改訂で「総合的な学習の時間」が設定された。この総合的な学習の時間の活用等により、小学校で英語活動が広く行われることとなった。

平成 18 年に中央教育審議会外国語専門部会の報告で、小学校において英語教育の共通の教育内容を設定することが提言され、平成 20 年の学習指導要領（以下、現行学習指導要領とする）の改訂において第 5 学年及び第 6 学年に外国語活動が週 1 コマ位置付けられ、平成 23 年度より全面実施となった。

平成 28 年 12 月 21 日の中央教育審議会より出された「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（以下、答申とする）を踏まえ、平成 29 年の学習指導要領（以下、新学習指導要領とする）の改訂において、教育内容の主な改善事項の 1 つとして外国語教育の充実も図られ、小学校中学年に外国語活動が、高学年に外国語科が導入された。平成 30 年度、令和元年度の移行期間を経て、令和 2 年度から全面実施となる。

外国語教育の早期化、教科化は、これまでの外国語活動の成果と課題を踏まえている。

成果	<ul style="list-style-type: none">・外国語活動の充実により、児童の学習意欲の高まりが見られるようになった。・外国語活動の充実により、英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が見られるようになった。
課題	<ul style="list-style-type: none">・「読む」「書く」といった活動を小学校でもっと学習しておきたかったと考えている児童が多かった。・音声中心の小学校での学びから、中学校での文字への学習へと円滑に接続が図られないことがあった。

こうした成果と課題を踏まえ、中学年では「聞くこと」「話すこと」を中心とした言語活動を通して外国語に慣れ親しみ、学習への動機づけを高め、高学年では音声に「読むこと」「書くこと」の言語活動を加えることで、中学校への接続を意識しながら系統的に学習を行うこととしている。

2 研究の目的

小学校における外国語教育の早期化、教科化に対応するため、外国語活動・小学校外国語科において育成を目指す資質・能力を明確にするとともに、目指す資質・能力の育成に効果的な学習活動例を提案し、それらを『山形県小学校外国語教育ハンドブック』（以下、ハンドブックとする）に示すこととした。

ハンドブックを県内の学校に配付するとともに、ハンドブックと連動した研修プログラムを開発・実施することで、新学習指導要領における外国語活動・外国語科の目標や内容等の周知を図り、山形県の小学校外国語教育の推進を目指すこととした。（原則、外国語活動においては、言語活動を行う際は英語を扱い、外国語科においては、英語を履修させることとしている。そのため、本研究では、小学校英語教育という表現も用いることとする。）

3 研究の年次計画

(1) 第 1 年次（平成 29 年度）

① 基礎研究

- ア 『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 外国語活動・外国語編』の解
積
- イ 『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 外国語活動・外国語編』と『小
学校学習指導要領解説 外国語活動編』（平成 20 年 8 月）の目標、内容等の比
較
- ② 調査研究
 - ア 平成 28 年度英語教育実施状況調査【集計結果】の分析
 - イ 山形県教育センター（以下、県教育センターとする）専門研修受講者へのア
ンケートの実施と分析
 - ウ 県外の先進校における授業実践の視察
 - エ 県内の小学校における授業実践の視察

(2) 第 2 年次（平成 30 年度）

- ① 基礎研究
 - ア 『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 外国語活動・外国語編』の解
積
- ② 調査研究
 - ア 平成 29 年度英語教育実施状況調査【集計結果】の分析
 - イ 県教育センター専門研修受講者へのアンケートの実施と分析
 - ウ 県内の小学校における授業実践の視察
- ③ 実践研究
 - ア 学習活動例の開発
 - イ 調査研究協力校における実践、検証
 - ウ 「小学校外国語活動・外国語の授業づくり講座」における研修プログラムの
開発・実施
- ④ ハンドブックの作成

(3) 第 3 年次（令和元年度）

- ① 基礎研究
 - ア 『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 外国語活動・外国語編』の解
積
- ② 調査研究
 - ア 平成 30 年度英語教育実施状況調査【集計結果】の分析
 - イ 県教育センター専門研修受講者へのアンケートの実施と分析
 - ウ 県内の小学校における授業実践の視察
- ③ 実践研究
 - ア 学習活動例の開発
 - イ 調査研究協力校における実践、検証
 - ウ 「小学校外国語活動・外国語の授業づくり講座」における研修プログラムの
開発・実施
- ④ 研究報告書及びハンドブックの作成

4 その他

本研究には、平成 30 年度県教育センター長期研修生 1 名が共同研究者として加わり、6 か月間の研修期間において、実践研究（学習活動例の開発、調査研究協力校における実践、検証）に携わった。

第1章 小学校英語教育の推進に向けて

1 これまでの小学校英語教育

(1) 英語教育実施状況調査から

英語教育実施状況調査は、英語教育に係る状況について調査し、今後の施策の検討、各教育委員会における英語教育の充実や改善に役立てることを目的に、都道府県・指定都市教育委員会を通して文部科学省が実施している。なお、この調査は、全国調査であり、県内の調査結果の詳細は公表されていない。

各都道府県・市町村教育委員会及び全ての公立の小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校を調査対象とし、特に指定がない場合は、各年度の12月1日を調査基準日としている。

本研究では、県内の小学校の英語教育に係る実態を把握することを目的に、平成28、29、30年度の英語教育実施状況調査の集計結果から、小学校等に係る①主として担当する教員別の学級数 ②外国語指導助手等の年間活用総授業時数 ③校内研修の実施状況、小学校・中学校等に係る ④小中連携の実施の有無に着目し、考察した。

〈調査対象学校数（山形県）〉

	小学校・義務教育学校（前期課程）数	中学校・義務教育学校（後期課程）数
平成28年度	252	98
平成29年度	248	98
平成30年度	242	98

① 主として担当する教員別の学級数

第5学年及び第6学年の外国語活動又は教科としての外国語科について、主として担当する教員の区分ごとの学級数の割合を図に示した（図1-1-1）。なお、平成30年度の調査から、「教員」という項目名が「教師」に変更された。本研究では、比較するため、同項目と捉えて示した。

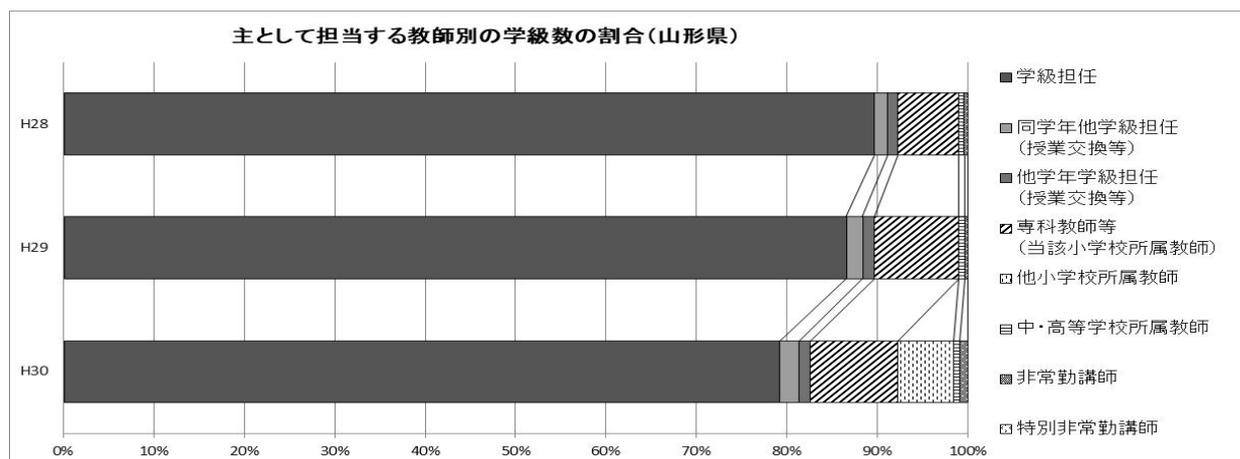


図1-1-1

広義の専科指導（「専科教師等、他小学校所属教師、中・高等学校所属教師、非常勤講師、特別非常勤講師」が主として担当するもの）の割合が年々増加傾向にある。移行措置が始まった平成30年度より専科加配措置が取られるようになったことも影響していると考えられる。ただし、平成30年度においても、全国で80.5%、山形県でも79.2%の学級で学級担任が自身の学級の小学校英語教育を主として担当している。

② 外国語指導助手（以下、ALT とする）等の年間活用総授業時数

外国語活動又は教科としての外国語科において、ALT 等（計画的・継続的に授業で活用されている任用・契約形態を問わない ALT 及び留学生や日本人で英語に堪能な地域人材）が活用されている授業時数の割合を表に示した（表 1-1-1）。なお、この項目は、前年度の実績数をもとにした割合を表した。

表 1-1-1
ALT 等の年間活用総授業時数の割合
(山形県)

H27	49.3%
H28	53.5%
H29	55.1%

ALT 等を活用した授業の割合は増加傾向にある。県内の小学校等における英語教育の半数の授業で ALT 等を活用した授業がなされている。平成 29 年度の実績数で見ると、全国における ALT 等の年間活用総授業時数の割合は、71.4%である。

③ 校内研修の実施状況（調査日以降に実施が予定されている研修を含む）

該当年度に実施した（する）英語教育に関する校内研修の実施回数と調査対象学校数をもとに、1 校当たりの校内研修の回数の平均を算出し示した（表 1-1-2）。なお、平成 30 年度の調査にこの項目がないため、2 か年分の結果を示した。

表 1-1-2
1 校当たりの校内研修の平均回数
(山形県)

H28	0.57回
H29	1.13回

平成 28 年度から平成 29 年度にかけて、県内の小学校等における英語教育に関する校内研修が増加した。新学習指導要領が告示され、その理解の基に次年度からの移行措置に向かえるよう校内研修が設けられたと考えられる。平成 29 年度の全国の平均回数は、1.71 回である。

④ 英語教育に関する小中連携の状況

英語教育に関する小中連携の実施の有無と調査対象学校数をもとに、小中連携の実施状況の割合を示した（図 1-1-2）。なお、この項目は、各中学校等が接続する小学校と確認した上で回答した。

③の項目と同様の理由により、平成 28 年度から平成 29 年度にかけて小中連携の取組みが増加したと考えられる。平成 30 年度にかけては、やや減少した。実施した（する）と回答した学校間では、90%以上が授業参観や年間指導計画の交換等の情報交換を、70%以上が授業参観後に研究協議を行う等の交流を行っていた。

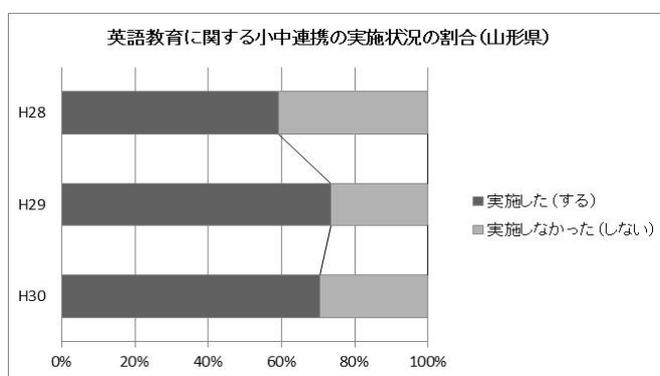


図 1-1-2

平成 30 年度の全国で実施した（する）割合は、80.6%である。

以上より、児童の実態、小学校英語教育の特性を踏まえ、各学校の実態に応じながら、学級担任による指導と専科指導、ALT 等との連携を効果的にいかすことができるように組織立てていくことが大切だと言える。教員一人一人の指導力向上も含め、校内研修や小中連携の取組みをさらに充実させるための支援が必要だと考える。

(2) 研修講座におけるアンケートから

県教育センターにおいて、平成 29 年度に「探究型学習推進講座Ⅱ－B（外国語活動）」、平成 30 年度と令和元年度に「小学校外国語活動・外国語の授業づくり講座」を開催した。受講後、これらの専門研修の受講者を対象にアンケートを実施した（図 1－1－3）。

① アンケートのねらい

本アンケートは、県内の教員の小学校外国語教育に係る関心事や困り感を把握し、それらを支援するための手立てを検討することを目的とする。

② アンケートの概要

本アンケートは、意欲的に県教育センターの専門研修に参加した限られた人数へのアンケートである（表 1－1－3）。

このアンケート結果が県内の教員の実態を適切に反映しているものとは言えないが、現在、小学校の英語教育に携わっている教員の声として考える。

「小学校外国語活動・外国語」に関するアンケート

山形県教育センター

本日は、「小学校外国語活動・外国語の授業づくり講座」に参加いただき、誠にありがとうございました。

現在、県教育センターでは、小学校外国語活動・外国語に係る学校ニーズへの対応について調査研究を行っております。
そして、今後さらに先生方の実践のお役に立てるような手立てを考えていく方針です。

そこで、先生方が学びたい・知りたい内容（小学校外国語活動・外国語に係る学校ニーズ）を教えてください。あてはまる項目に○を付けてください。（複数可）
※特に学びたい・知りたい内容（2つまで）には◎を付けてください。

① () 小学校外国語活動・外国語で目指すべき資質・能力（実践例を含む）

② () 小学校外国語活動・外国語における評価（実践例を含む）

③ () 小学校外国語活動・外国語における探究型学習（実践例を含む）

④ () 小学校外国語活動・外国語に関するカリキュラム・マネジメント
(実践例を含む)

⑤ () 小学校外国語活動・外国語における一単位時間と短時間学習の効果的な運用（実践例を含む）

⑥ () ALTとの連携をいかした小学校外国語活動・外国語（実践例を含む）

⑦ () 地域素材をいかした小学校外国語活動・外国語（実践例を含む）

⑧ () 外国語教育における小中連携（実践例を含む）

⑨ () その他

具体的に書いていただくと有り難いです。

ご協力ありがとうございました。

図 1－1－3 研修講座におけるアンケート

表 1－1－3

実施日	対象者の総数	校種、職名ごとの内訳
平成 29 年 7 月 13 日	29 名	小学校：教頭 1 名、教諭 27 名、講師 1 名
平成 30 年 7 月 11 日	20 名	小学校：教諭 18 名、講師 2 名
令和 元 年 9 月 25 日	11 名	小学校：教諭 8 名、講師 1 名、中学校：教諭 2 名

③ アンケート結果

アンケートにおいて、特に学びたい・知りたい内容として◎を付けた項目についてまとめた（図 1－1－4）。

④ アンケートの考察

アンケート結果から、次のように考察した。

- ・「評価」への関心が高い反面、「目指すべき資質・能力」については関心が低い傾向が続いている。現行学習指導要領とは目標の観点が異なるので、育成を目指す資質・能力については熟考が必要であるが、関心は低い。活動そのもの、活動で表れる児童の様子への関心は高いが、そもそもその活動が適切な目標に向かって組まれているのかということを見つめ直すことが重要だと

考える。

- ・「探究型学習」は、本県の主要施策の1つとして推進・普及しているものであり、小学校外国語教育においても他の教科と同様に取り入れようとしている表れだと考える。
- ・「ALTとの連携」については、年々関心度が上がっている。授業時数が増え、ALT等の配置が拡充する中で、継続的にティーム・ティーチングの体制で指導することが増えていると予想できる。そうした中、ALT等との効果的な連携の在り方を改めて模索していると考ええる。
- ・「小中連携」についての関心の高まりには、対象者に中学校教員が含まれていることも関係していると考えられる。外国語教育においても「小中連携」の必要性は重視されており、更なる関心の高まりを目指したい。

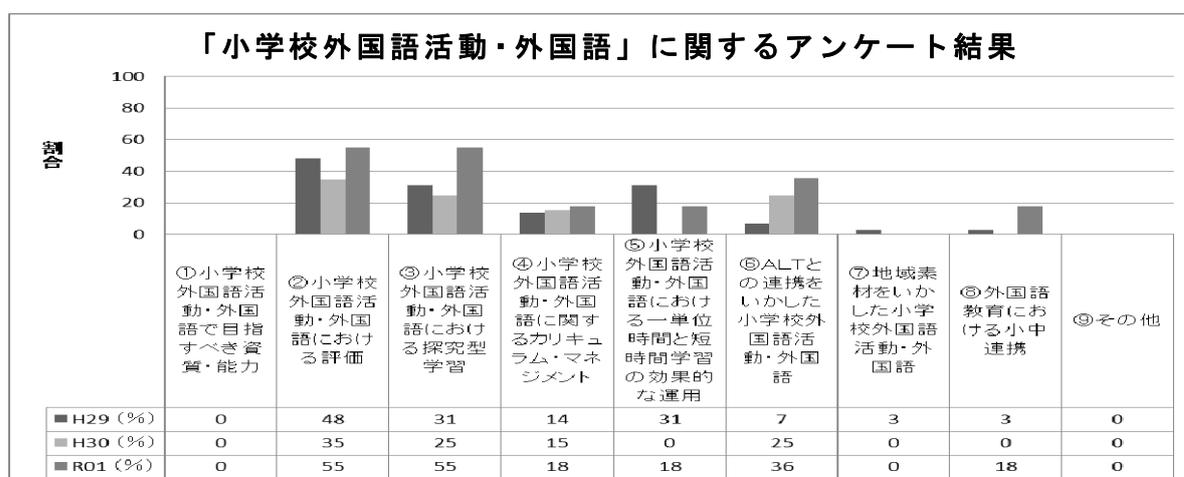


図1-1-4

(3) 県内の小学校における授業実践の視察から

平成29年度から令和元年度の3か年に県内の20の小学校で29実践を参観した。授業実践と事後研究会等から、小学校英語教育について次のような感想をもった。

- ・児童の興味・関心があることを題材にした授業づくりが進められていた。
- ・総合的な学習の時間と関連付け、児童が外国人と交流する機会を設ける等し、相手意識をもって学習に取り組めるように単元構成が工夫されていた。
- ・学級担任が一人で、またはティーム・ティーチングにおいても学級担任が主導して、授業が実践されていた。活用されているクラスルーム・イングリッシュには幅があった。
- ・外国語活動・小学校外国語科のそれぞれで育成を目指す資質・能力以上のものを求められ、児童が戸惑う様子も見られたため、育成を目指す資質・能力を適切に設定し、明確に示す必要がある。事後研究会においても、その姿が育成を目指す資質・能力を身に付けた姿か検討することで、理解が深まると考えられる。適切な評価とも関わることである。
- ・発問をすることで、児童自身が本時で何を学ぶかという課題意識をもつことができ、英語教育においても課題意識の共有は重要である。
- ・児童が知識・技能を活用しながら、思考・判断して表現するために、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等の明確化が欠かせないと考える。
- ・言語活動と練習等のつながりを児童にも意識させることで、効果的な学習活動が展開できると考える。

2 これからの小学校英語教育

答申においては、「生きる力」をより具体化し、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を、「何を理解しているか、何ができるか」（生きて働く「知識・技能」の習得）、「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」の3つの柱に整理するとともに、各教科等の目標や内容についても提言がなされた。

この答申を踏まえ、外国語活動・外国語科の目標は、育成を目指す資質・能力を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱に再整理され、各学校段階の学びを継続させるとともに、「外国語を使って何ができるようになるか」を明確にするという観点から設定されている（図1-2-1）。

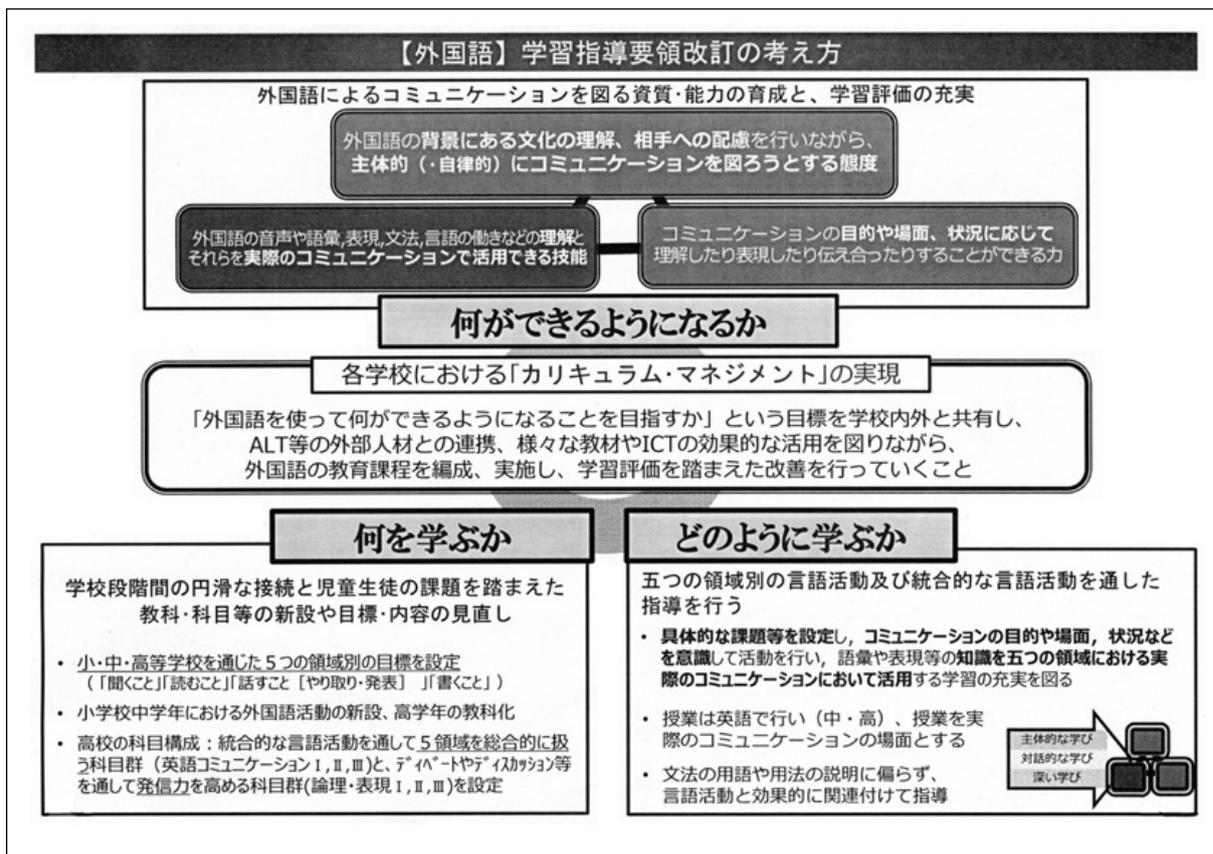


図1-2-1¹⁾

(1) 新学習指導要領において育成を目指す資質・能力

① 現行学習指導要領と新学習指導要領における外国語活動の目標の比較

外国語活動において育成を目指す資質・能力について考える。次の表は、現行学習指導要領と新学習指導要領における外国語活動の目標である（表1-2-1）。

比較してみると、現行学習指導要領でも新学習指導要領でも、外国語活動とは、言語や文化を体験的に理解する学習で、外国語の音声への慣れ親みを大事にし、コミュニケーションを図る素地を育成する学習であることに変わりない。新学習指導要領の外国語活動では、目標がより明確になったと言える。

表 1 - 2 - 1 外国語活動の目標の比較

現行学習指導要領（平成 20 年告示） ²⁾	新学習指導要領（平成 29 年告示） ³⁾
<p>外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。</p>	<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。</p> <p>(2) 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。</p> <p>(3) 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p>

新学習指導要領の目標には「聞くこと」「話すこと」と領域が明記され、表 1 - 2 - 1 の(1)には、現行学習指導要領の目標にもある「言語や文化について体験的に理解」「外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみ」という文言に加え、「日本語と外国語の音声の違い等への気付き」が示された。(2)には、コミュニケーションを図る素地を身に付けた姿が明らかにされている。(3)の「相手への配慮」は、中学年の児童の発達段階を考慮して用いられている。また、「主体的に」と改訂されているのは、授業における積極的な態度のみならず、生涯にわたって継続的に外国語の習得に取り組む態度の育成を目指してのことである。

より明確になった資質・能力の育成を目指し、体験学習を重視した外国語活動において、「聞くこと」「話すこと」の言語活動を通して英語に慣れ親しむ活動を、今後もしっかり継続していかなければならないと考える。

② 新学習指導要領における外国語活動と小学校外国語科の目標の比較

外国語活動と小学校外国語科の目標の比較から、育成を目指す資質・能力を考えていく（表 1 - 2 - 2）。

比較から見えてくる共通点は、外国語活動でも小学校外国語科でも、気付きや音声、表現への慣れ親しみ、言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地／基礎となる資質・能力を育成することを目標にしているということである。この「言語活動」については、第 1 章の 2 の(2)で詳しく触れることとする。

相違点としては、領域の違いがあげられる。外国語活動では、「聞くこと」「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」の 3 つの領域を扱う。外国語科では、さらに「読むこと」「書くこと」も加わり、5 領域となる。ただし、ここで十分に留意しなければならないことは、読むことや書くことについては、慣れ親しみに留めているという点である。聞くことや話すことについては、外国語活動での素地がある。一方、読むことや書くことは外国語科から始まる学習である。そうした段階を考慮し、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を読んだり書いたりすることを目指している点を意識していく必要がある。

また、「相手への配慮」と「他者への配慮」の違いもある。外国語活動では、聞くことや話すことを中心に活動を行う上、児童の発達段階も踏まえ、対象は目の前の「相手」になる。小学校外国語科では、読むことや書くことも扱うことから対象が必ず

目の前にいる相手とは限らないので「他者」と示されている。

コミュニケーションを図る資質・能力については、外国語活動では「素地」を、小学校外国語科では「基礎」を育成することとしている。これまでの外国語活動の課題として、中学校への円滑な接続があげられた。児童のコミュニケーションを図る資質・能力を中学年から高学年へ、小学校から中学校へ、そして、高等学校へ、緩やかに確実に育んでいくことが重要である。

外国語活動と小学校外国語科において、共通する目標があり、外国語活動での十分な慣れ親しみのもとに外国語の教科学習が始まっていくということを改めて認識する必要がある。

③ 新学習指導要領における外国語科の小学校と中学校の接続

育成を目指す資質・能力から、外国語科における小学校と中学校との接続を考える。

新学習指導要領は、現行学習指導要領のもとで行われた外国語活動の成果と課題を踏まえて改訂されたことは先に触れた。今回の改訂は、育成を目指す資質・能力が系統的に並べられ、第5学年及び第6学年から5領域を総合的に扱う教科学習を行い、中学校へ円滑に接続できるように考えられた。

小学校においても中学校においても、大切にしなければならないのは、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確にし、それに応じた言語活動を通して目指す資質・能力を育成することである。実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につけるために、小学校では身近で簡単な事柄について、それを受けて中学校ではもう少し広がりのある日常的な話題や社会的な話題について、目的や場面、状況等を明確にしながら言語活動に取り組んでいく必要がある。小学校で扱う題材については、第1章の2の(2)で述べることとする。

また、小学校外国語科の内容の(1)には「文字」という文言がある。「読むこと」の領域別の目標には「ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音できるようにする。」⁴⁾とあり、たとえば、「A」という文字を見て「/ei/」とその名称を発音できることを目指す。「書くこと」の領域別の目標には、「ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。」⁵⁾とあり、大文字と小文字を正しく書き分け、それぞれの文字の高さを意識できることを表している。こうした「文字」の指導が小学校で行われることになるが、これは小学校段階で綴りを覚えて活用するということを目指しているわけではない。あくまでも、発音と綴りとを関連付ける指導は中学校で行うものである。

他に、小学校外国語科の内容の(1)には文構造を扱うことと示されており、文法事項は扱わない。文法事項については、中学校での学習となる。

小学校外国語科に新たに加わる読むことや書くことは、慣れ親しみから始まり、細かなステップを踏み、ゆっくりと時間をかけて繰り返し行うことが大切である。

小学校に外国語が教科として入ることになるが、小学校の外国語科は決して「中学校の前倒し」ではないことを念頭に置く必要がある。小学校から中学校への系統性を大切にしながら、児童の実態、小学校文化に即した学習を築いていくことが大切である。

最後に、小学校・中学校・高等学校全ての段階において、英語では、外国語活動・外国語科の目標を踏まえ、次のように目標⁶⁾を設定している。

(前略) 領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、(1)に示す「知識及び技能」と(2)に示す「思考力、判断力、表現力等」を一体的に育成するとともに、その過程を通して(3)に示す「学びに向かう力、人間性等」を育成する

ことを目指す。

従って、目指す資質・能力の育成に当たり、外国語活動・外国語科の目標と領域別の目標との関係性を認識し、領域別の目標への理解も欠かせないものとなる。

表1-2-2 「外国語活動・外国語の目標」の学校段階別一覧表⁷⁾

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方				
外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること				
外国語科の目標				
	小学校第3学年及び第4学年 外国語活動	小学校第5学年及び第6学年 外国語	中学校 外国語	高等学校 外国語
	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(知識及び技能)	(1) 外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。	(1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付く、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。	(1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。	(1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。
(思考力、判断力、表現力等)	(2) 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。	(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。	(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
(学びに向かう力、人間性等)	(3) 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

(2) 小学校英語教育で大切にしていきたいこと

① 言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地／基礎となる資質・能力を育成することを目指す

令和2年度からの全面実施に向け、移行期間に重点的に取り組むことについて、文部科学省の直山木綿子視学官は次の4点を挙げている⁸⁾。

- ・「言語活動を通して」の理解と実践
- ・指導者の英語力向上
- ・「読むこと」「書くこと」の指導の在り方の理解
- ・小中連携の一層の推進

この中の特に1つ目の視点に着目したい。

外国語教育においては、外国語活動・小学校外国語科のみならず、中学校・高等学校の外国語科においても、言語活動を通して、資質・能力の育成を目指すことを目標としている(表1-2-2)。

文部科学省から出されている『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』(以下、研修ガイドブックとする)には、言語活動が次のように記されている⁹⁾。

学習指導要領の外国語活動や外国語科においては、言語活動は、「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」活動を意味する。(中略)実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うという言語活動の中では、情報を整理しながら考えなどを形成するといった「思考力、判断力、表現力等」が活用されると同時に、英語に関する「知識及び技能」が活用される。つまり、英語を用いず、日本語だけで情報を整理しながら考えなどを形成する活動は、外国語活動や外国語科においては言語活動とは言い難い。一方で、英語を用いているが、考えや気持ちを伝え合うという要素がない活動も言語活動であるとは言い難い。

直山氏は、「練習は、言語活動が成り立つためには必要であるが、練習だけで授業が終わることがないように十分に留意する必要がある。」とも述べている¹⁰⁾。

英語を用いて伝え合う体験を通して、普段は何気なく交わしている言葉に意識を向けることができるようにしていくことが重要である。発達段階を考え、まず身近な相手から、英語で自分の考えや気持ちを伝えたり相手の考えや気持ちを知ったりする体験を通して、言葉を介して伝え合う楽しさ、難しさ、そして言葉の豊かさに気付かせていきたい。児童は、試行錯誤しながら英語で伝え合う体験を積み重ねることで、「多様な人に自分の考えや気持ちを伝えたい。」「相手の考えや気持ちを知らりたい。」との思いを膨らませる。その実現に向けて、「語句や表現を学びたいな。」「どのように伝え合うと分かり合えるかな。」等の児童の思いに沿う言語活動を意図的に設定することが大切である。児童が自身の考えや気持ちの伝え合いを積み重ねるからこそ、目指す資質・能力が育成されるのである。

② コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確に設定する

コミュニケーションを行う目的や場面、状況等の設定の必要性は、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせる際にも欠かせないものである。

外国語活動・小学校外国語科の目標¹¹⁾の柱文には、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと*外国語科のみ、話すこと、書くこと*の言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地／基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」とある(表1-2-2)。新学習指導要領解説では、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方

とは、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」であると示されている¹²⁾（下線は、引用者による）。

目的や場面、状況等が明確に設定されているからこそ、それらに応じて、自分の考えや気持ち等の伝える内容やどのような表現を用いるかを選び、整理し、伝え方を考慮することができるのである。コミュニケーションを行う目的や場面、状況等が明確に設定された言語活動を通して、コミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら目指す資質・能力を育成することが大切だと言える。

ここで、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確に設定するに当たり、「目的」「場面」「状況」等をどのように捉えるかを明らかにしなければならないと考えた。

『中学校学習指導要領解説 外国語編』では、次のように記されている¹³⁾。

本目標での「コミュニケーションを行う目的や場面、状況など」とは、コミュニケーションを行うことによって達成しようとする目的や、話し手や聞き手を含む発話の場面、コミュニケーションを行う相手との関係性やコミュニケーションを行う際の環境のことを指す。

また、信州大学の酒井英樹教授は、次のように述べている¹⁴⁾。

例えば、1年間一緒に学んできた友達に自分のことをもっと知ってもらうために自己紹介を行うとする。自分のことをもっと知ってもらおうという「目的」や、教室内での自己紹介のやり取りという「場面」や、1年間一緒に学んできた友達に伝えるという「状況」を意識しながら、何を伝えたらよいかを整理したり、どのような表現を用いることが適切なのかを考えたりすることができるようになったとき、外国語によるコミュニケーションにおける考え方を身に付けていると考えられる。

さらに、令和元年9月25日（水）実施の県教育センター専門研修では、講師の国際教養大学の町田智久准教授から、「場面を設定する際には、児童の実生活にできるだけ引き寄せて考えることが重要である。」との助言をいただいた。

以上のことを踏まえ、本研究におけるコミュニケーションを行う「目的」「場面」「状況」等をどのように捉えるか協議した。本研究における捉えは、本書の p.19 に示した。

小学校外国語教育でコミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確に設定して言語活動を行う際、扱う題材については、領域別の目標において、「自分のことについて」「身近で簡単な事柄について」「日常生活に関する身近で簡単な事柄について」と条件付けられている。児童が自分の考えや気持ちを伝え合えるもの、伝え合いたいと思うものを扱うことに留意し、児童の実態・実生活に寄り添った場面において、目的意識、相手意識をもってコミュニケーションを行えるような言語活動を設定し、授業を行っていくことが大切だと考える。

(3) 県外の先進校における授業実践の視察から

① 京都市立嵯峨野小学校

平成 29 年 12 月 1 日に、京都市立嵯峨野小学校（京都市英語教育推進研究拠点校）で研究発表会が行われた。

同校は、国語と外国語活動を柱に校内研修を進めていた。研究主題を「めあてにむかい、主体的・対話的で深い学びを実現する児童の育成～パフォーマンス評価を活用した授業づくりを通して～」とし、学級担任による第 3 学年から第 6 学年の授業が公開された。

1. 公開授業の概要

○単元名 Hi, friends!2 Lesson8 What do you want to be? 「『夢宣言』をしよう」

(本時 5 / 6)

○本時の目標 相手意識をもって積極的に自分の夢を話したり、友達の夢を聞いたりする。

○本時の評価

・児童が自己評価する到達度の 5 段階

(振り返りカードの「聞くこと・話すこと」チェック)

★★★★★	この学習のやり取りで、 <u>自分の力で</u> たずねたり答えたりすることが <u>進ん</u> でできる。
★★★★	この学習のやり取りで、 <u>自分の力で</u> たずねたり答えたりすることが <u>だいたい</u> できる。
★★★	この学習のやり取りで、 <u>みんなと一緒なら</u> たずねたり答えたりすることができる。
★★	この学習のやり取りを <u>聞いて</u> 、意味が分かり、 <u>チャンツなどをくり返して</u> たずねたり答えたりすることができる。
★	この学習のやり取りを <u>聞いて</u> 、ことばの意味やたずねたり答えたりしていることが <u>だいたい</u> 分かる。

・指導者が見取る到達度の 5 段階

(「聞くこと・話すこと」に関して、どの程度の姿に至っているかの段階)

【到達度 5】	この学習のやり取りで、 <u>自分の力で積極的に</u> 尋ねたり答えたりしている。(「関心・意欲・態度」)
【到達度 4】	この学習のやり取りで、 <u>概ね自分の力で</u> 尋ねたり答えたりしている。
【到達度 3】	この学習のやり取りで、 <u>友達と一緒に</u> 尋ねたり答えたりしている。
【到達度 2】	この学習のやり取りを <u>聞いて</u> 、意味を理解し、 <u>チャンツなどをくり返して</u> 尋ねたり答えたりしている。
【到達度 1】	この学習のやり取りを <u>聞いて</u> 、言葉の意味や尋ねたり答えたりしていることを <u>概ね</u> 理解している。

本時で目指す到達度は、上記の【到達度 5】の段階である。児童の姿がその到達度に達するように「本時のめあて」を設定し、児童の到達度を見取ることができるよう、ルーブリックを用いて具体的な児童の姿を挙げている。

【到達度 5】	十分満足できる姿	<ul style="list-style-type: none"> 自分の夢に対して尋ねられた質問に対し、既習表現を思い出して英語で答えている。 友達の夢を聞いて、自分で質問を考えて尋ねている。 <p>A: What soccer team do you like? (十分満足) B: I like Kyoto sanga. Do you like soccer? A: So so.</p>
【到達度 4】	概ね満足できる姿	<ul style="list-style-type: none"> 自分の夢を相手に伝えるように話している。 友達の夢を聞いて、適切なレスポンスをしている。 <p>A: Oh, you like soccer. (概ね満足)</p>
【到達度 3】	満足できない姿に達していない	<p>支援</p> <ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション活動では、教師がデモンストレーションを示したり、活動中に次に何を話しかければよいか声がけしたりして、安心して取り組むことができるようにする。

○本時の学習活動の展開（学習活動名は視察校で示されていたまを記載している）

1	Today's Plan	
2	Small talk	
3	Activity1	Pair talk (A-Group 聞き手、B-Group 話し手)
4	Good point	(よい点を中間報告*で尋ね合う)
5	Activity2	Pair talk (B-Group 聞き手、A-Group 話し手)
6	Review	(English Passport の利用)



図 1 - 2 - 2

中間報告*－視察校における名称を記載している。

2. 参観を振り返って

〈評価規準の共有〉

本時では、前時とは違う児童とペアトークをして、中間報告でさらに相手に伝わりやすい話し方を考えたり、互いのよいところを見つけて伝えたりできるよう設定していた。本時の Activity では、中間報告を踏まえ、絵カードを効果的に活用しながら自分の力で積極的に尋ねたり答えたりする姿が随所に見られた(図 1 - 2 - 2)。

これまでの公開授業と事後検討会の反省から、どの学年、どの単元でも児童の学習到達度を見取る共通の評価規準を設けることになった(図 1 - 2 - 3)。児童の振り返りカードにも同様の自己評価欄を設けることで、単元終末に目指す児童の姿が明確になり、各時間の終わりに児童自身が自分の到達度を確認できるようになっている。



図 1 - 2 - 3

第 5 学年及び第 6 学年では、単元ごとの振り返りカードを“English Passport”(図 1 - 2 - 4)として冊子にしている。年間を通じて言語活動で作成したカード等も綴じて、学習の足跡を残すようにしている。



図 1 - 2 - 4

〈階段掲示〉

児童が、普段から外国語の文字が掲示された階段を目にすることで、外国語の文字を自然に認識し、親しみをもつことができるようにしている(図 1 - 2 - 5)。また、国語科との関連を図ることで、日本語との表記の違いに気付くことができるような工夫がなされている。



図 1 - 2 - 5

〈English Friday〉

毎週金曜日を「英語の日 (English Friday)」とすることで、意図的に英語を使う環境をつくり、児童の英語を使おうとする態度を育てている。具体的には、「朝のあいさつ」「朝の会 (健康観察)」「校内放送」「児童集会」「授業中」「帰りの会」等の場で、教職員が積極的に英語を使うことを大切にして、児童が自然に英語に触れながら親しめるようにしている。

取組みの成果としては、日常的に英語を使おうとしたり、学級担任や ALT の英語を聞き取ろうとしたりする児童が増えたこと、また、友達と英語で簡単なコミュニケーションを図ることに自信をもつ児童が増えたこと等が挙げられる。

一方で、児童の発達段階を考慮し、中学年から高学年への系統性を意識した言語活動の在り方や、言語材料等の接続については課題となっている。

② 札幌市立中央小学校

平成 29 年 12 月 8 日に、札幌市立中央小学校で「第 14 回全国小学校英語活動実践研究大会札幌大会」が行われた。

同校は、国語・算数・道徳・英語プロジェクトを柱に校内研修を進めていた。本校のテーマを「教科横断型・他教科関連を意識し、補助教材・新教材を活用した指導」とし、学級担任兼学年付専科教員による第 6 学年（29 名）の授業が公開された。

1. 公開授業の概要

- 単元名 Hi, friends!2 Lesson5 Let's go to Italy. 「友達を旅行にさそおう」
(本時 3 / 5)

※社会科 6 年「世界の中の日本」・国語科 1～6 年「説得力のある説明・紹介」との関連

- 本時の目標
- ・自分の思いが相手に分かりやすく伝わるように、おすすめの国について発表したり、友達の発表を積極的に聞いたりしようとする。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
 - ・友達のおすすめの国についての理由から、世界に対する興味・関心をより高めることができる。【言語や文化に関する気付き】
- 本時の評価
- ・自分の思いを込めたおすすめ国について積極的に発表したり、聞いたりしようとする。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
 - ・世界に対する興味、関心をより高めることができる。【言語や文化に関する気付き】

- 本時の学習活動の展開（学習活動名は視察校で示されていたまを記載している）

1	Chants	
2	あいさつ	
3	Today's goal の提示 「観光大使として、国の魅力を伝えよう。 記者として、国の魅力を聞き返そう。」	
4	すらすら英会話 (プリントを活用したりアクションフレーズの練習、ペア活動)	
5	Review (既習の基本的な表現の復習)	[児童が Communication で活用していたポスター]
6	Practice (Communication に向けた練習、ペア活動)	
7	Communication① (大使館職員役と記者役に分かれ、1対1での自由交流)	
8	Meeting time (Communication①を振り返り、よりよいコミュニケーションを図るための中間交流※)	↓
9	Communication② (再度、Communication①と同様の自由交流)	
10	振り返り	
11	あいさつ	

中間交流※－視察校における名称を記載している。

2. 参観を振り返って

〈他教科との関連付け〉

内容においては社会科と、育成を目指す資質・能力においては国語科と関連が図られていた。

本時では、児童が社会科の調べ学習で収集したものを活用していた。指導者は本単元において社会科との関連を図って授業を展開することを年度当初に計画し、社会科の授業を実践していた。共に学んだ他教科の学習内容を外国語科の題材として扱うことは、共通の土台の上で学習をスタートできるというよさがあるとの話が事後研究会であった。

また、育成を目指す資質・能力に関して、本時では、国語科と関連付け、新学習指導要領解説の外国語活動・外国語編の外国語科の2内容〔思考力、判断力、表現力等〕と国語編の2〔思考力、判断力、表現力等〕を結び付けていた。

国語科も外国語活動・外国語科も言語を直接の学習対象としており、相乗的に資するように教育内容を組み立てていくことが求められているが、Meeting timeにおいて、指導者は、そのことを児童に気付かせるために意図的に児童を指名し、なぜ順番を変えたのかと働きかけていた。その児童の発表をきっかけにし、「内容をアピールするために、話す順番を考える」や「相手に応じて、話す順番を変えたり内容を膨らませたりする」という視点が児童に共有された。児童自身が国語科での学びを意識して発言していた（図1-2-6）。

〈中間交流の効果的な活用〉

Meeting timeにおいて、「どのような既習の英語を用いて、どのように表現すれば国の魅力が伝わるか。」という課題意識が、学級全体に浸透した。指導者は、児童が本時の課題に気付くように、意図的に児童を指名して発表させたり、思考を促す発問を行ったりしていた。また、言語活動にあたるCommunication②の活動に向けた見通しを児童にもたせた上で、学習を展開していた。

Meeting time を経ることで、ある児童は、Communication②において、①から話す順序を変え、既習表現の活用が大幅に増えていた。児童は、本時の外国語活動で、国語科で培った資質・能力を活用・発揮することができ、その有用性・汎用性を実感しながら、英語を用いて、国の魅力をさらに伝えることができているという手応えを感じていた。

授業を参観し、内容という視点だけでなく、育成を目指す資質・能力という視点で関連付けることを改めて学ぶことができた。外国語教育で育成を目指す資質・能力と、関連付けを図る他教科で育む資質・能力、内容を明確にし、計画的に取り組めるようにしていく必要がある。そして、育成を目指す資質・能力を児童と共有して、目的意識や相手意識、課題意識をもって児童が学習できるように手立て講じていくことが重要だと考えた。



図1-2-6 Meeting time後の板書

③ 勝山市立成器西小学校

平成 31 年 2 月 27 日に、勝山市立成器西小学校で「平成 30 年度小学校における外国語教育指導者養成研修」が行われた。

同校にて、本大会におけるテーマである「外国語活動の充実及び、外国語教育の今後のために求められること」に基づき、学級担任と ALT による第 6 学年 (27 名) の授業が公開された。

1. 公開授業の概要

○単元名 We Can!2 Unit 7 My Best Memory 「小学校生活・思い出」

(本時 1 / 7)

○本時の目標 学校行事でしたことやその感想を聞いたり言ったりできる。

○本時の評価 学校行事でしたことやその感想を聞いたり言ったりしている。

○本時の学習活動の展開 (学習活動名は視察校で示されていたまを記載している)

- | | |
|---|----------------------------|
| 1 | Greeting |
| 2 | Small Talk (好きな季節) |
| 3 | Activity |
| | ・教科書の扉絵を見て、描かれているものについて話す。 |
| | ・学校行事の写真を見て、したことやその感想を言う。 |
| | ・学校行事を一つ選び、したことやその感想を言う。 |
| 4 | Comments |
| | (活動を振り返り、発表する。) |
| 5 | Closing |

2. 参観を振り返って

<言語活動>

言語活動においては、児童が既習事項を駆使しながら、好きな季節とその理由や、学校行事を振り返っての感想を何とか英語で伝えようとする姿がたくさん見られた。外国語活動及び小学校・中学校・高等学校外国語科の新学習指導要領において、目標に「言語活動」という文言が共通点として示されている。また、研修ガイドブック¹⁵⁾にも、「言語活動は、言語材料について理解したり練習したりするための指導と区別されている。実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うという言語活動の中では…」という記載がある。つまり、決まったパターンでのやり取りや単に学んだことの確認を確認するようなものは言語活動ではなく、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を設定し、既習語句や表現を用いて相互に考えや気持ちを伝え合うような活動を言語活動として捉え、それを繰り返して定着させていくことが授業で求められるということである。本時では、このような言語活動の具体が実現されていた。

<指導者と児童の関わり>

児童が英語で表現できなくても教師は答えを与えず、その疑問を学級全体に広げて児童に問題意識をもたせていた。また、児童の意見を繰り返す「Echoing」、児童が誤って表現しても指摘せず自然な形で言い換えて気付かせる「Recast」、その間違いをしっかりと押さえるために時間が経ってから教師がわざと間違えて誤りを修正する「Feedback」等の工夫もあり、教師が教えるのではなく児童が主体となって授業を作り上げていた。敦賀市立看護大学の 大下邦幸教授の指導助言は、「教師が子供をどう捉えるかを大切にしなければならない。子供は自分の考

え、知識、意見をもっているから、それを表出させることを授業づくりの中心とすることが必要である。英語を聞いて True or False や Q&A をさせるといったものは、単に情報を正確に捉える活動であるので、『あなたはどうか』がない。だから、簡単にはできないが、チャレンジを積み重ねていき、英語で自分の意見や考えを述べるのが怖くない段階まで指導をしていくことが授業者に必要なことである。」という内容であった。この視点は、外国語科の授業づくりの考え方として教師が共有すべき事項である。

<問いを引き出す>

本時の課題は黒板等に明示されていなかった。それを踏まえて、福井県のある指導主事の説明では、「課題が教師から与えられるものであれば受け身の学習となるので、導入や諸活動から学習者の課題意識を引き出し、それを教師が収束するような形で授業を進めている。」ということであった。教師が課題を示すことが大切なのではなく、児童がその課題を理解していることが大切なのである。そのためには、教師がしっかりと課題を定めていることを前提として、できる限り自然な形で児童に課題意識をもたせるように問いを引き出し、共有することが重要である。本時でもそのような工夫が行われ、主体的な学びへとつながっていく授業が展開されていた。形式的なものから脱却し、より効果的なものを授業に取り入れていくことが大切であるという視点は参考になった。

<効果的なティーム・ティーチング>

児童が ALT に小学校での思い出を紹介するという目的を設定し、児童にとって言語材料を使う必要がある授業が展開されていた。ALT は、本時の目標を学級担任としっかりと共有し、児童の言語活動に対する動機付けを行っていた。また、児童の活動モデルを示す、児童の日本語を英語で児童に返す、児童が言いたいことを英語で言えるように支援する、既習表現を活用して児童の英語を言い変える、児童の良かったところを誉める等、授業を英語による生きたコミュニケーションの場とするための手立てを随所で講じていた。そのため、児童に考えさせ、他の児童にも意見を広げていくような言語活動ができていた。文法や語彙の誤りに対しても、教師からの Recast や Feedback 等だけに依らず、学級担任と ALT の役割分担により、児童の多様な意見を巻き込んでつなげ、たくさん児童に答えさせていくことによって、児童に気付かせながら修正を図ることができていた点もおおいに参考になった(図1-2-7)(図1-2-8)。



図1-2-7



図1-2-8

(4) 「学校ニーズ」について

第1章の1から、県内のこれまでの小学校英語教育の実態として、次のような点が挙げられる。

- ・児童の実態に即した内容を扱った授業づくりが行われている。
- ・学級担任が主として指導に当たる場合が多く、学級担任自身が前向きに英語教育に向き合っている。ALT等が主として指導する授業から転換を図ろうとする意識が見られ、ALT等とのよりよい連携の在り方を模索している。
- ・育成を目指す資質・能力についての理解を深めている段階であり、目標や評価規準の設定等に困り感を抱いている。それらについて学ぼうとする意欲はあるものの、研修する機会が、学校や個人によって偏っている。
- ・円滑な接続に向けた小中連携の取組みにも学校間で差が見られる。
- ・言語活動を具体的にイメージすることが難しく、言語活動と練習が乖離している場合があるため、言語活動と練習等の学習活動がつながる学習展開を考えていく必要がある。

また、第1章の2からは、今後、小学校英語教育を行う上で、重視すべき点が見えてきた。

- ・3つの柱に沿って示された育成を目指す資質・能力への理解を深める。
- ・育成を目指す資質・能力に沿った適切な評価規準を設定する。
- ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確にした言語活動を設定し、言語活動を通して、目指す資質・能力を育成する。
- ・言語活動と練習を効果的に組み立てて授業を構成する。
- ・小中連携をさらに推進する。

本研究では、以上のことから、これからの小学校英語教育の方向性を捉え、現状の山形県の小学校英語教育の課題を把握し、その課題や教員の要望を「学校ニーズ」とした。その学校ニーズを踏まえ、本研究の重点を次のように整理した。

- ・育成を目指す資質・能力を明確化すること
- ・育成を目指す資質・能力の適切な評価を実施すること
- ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確にし、目指す資質・能力の育成に向け効果的な言語活動を設定すること
- ・言語活動とそれにつながる学習活動（言語活動や練習等）を展開すること
- ・系統性を意識して小中連携を図ること
- ・ALT等とのよりよい連携の下で学習活動を進めること

なお、本研究においては「コミュニケーションを行う目的や場面、状況」を次のように定義付ける。

- 「目的」－コミュニケーションを行うことによって達成しようとする事
- 「場面」－コミュニケーションを行う場面
- 「状況」－相手との関係性を踏まえた、コミュニケーションを行う状況

「目的」「場面」「状況」をより明確にした授業実践を提唱するため、学習活動例の開発やハンドブックの作成において、3つに分けて明示する試みをしていく。

この学校ニーズへ対応するに当たり、上記の重点について分かりやすく伝えるためには、授業の実際や児童の具体的な姿を示す必要があると考えた。また、本研究は新学習指導要領改訂の直後から始めており、県教育センターがこれからの小学校英語教育を意識した授業づくりに取り組み、実践に関わることで、より教員の困り感にも寄り添った対応ができるのではないかと考えた。

第2章 調査研究協力校における実践、検証

1 学習活動例の開発と実践、検証の進め方

学校ニーズへ対応するに当たり、授業実践を通じた研究を中核に据えた。目指す資質・能力を育成するための言語活動とはどのような活動なのか、育成を目指す資質・能力が身に付いた児童としてどのような姿を見取って評価していくのか等、新学習指導要領に示されたものを具体化して伝えることが、小学校外国語教育の推進につながると考えたからである。

この実践研究の主たるねらいを、これまでの調査研究を踏まえ、育成を目指す資質・能力を明確にし、その目指す資質・能力の育成に効果的な学習活動例を学校ニーズへの対応として示すこととした。まず、県教育センターにて、学習活動例の開発を行った。その学習活動例を調査研究協力校にて実践し、その後、県教育センターにて検証を行った。(図2-1-1)

育成を目指す資質・能力を明確にするため、評価対象とする領域を1つに絞った。育成を目指す資質・能力の観点と焦点化した領域のバランスを考慮し、さらにこれからの小学校英語教育で新たに取組む内容等を含めて14の学習活動を選定し、開発を試みた。

実践に際しては、県内4地区から山形市立南小学校、新庄市立沼田小学校、南陽市立沖郷小学校、酒田市立南平田小学校の4校に協力を依頼した。授業の実践において、児童の実態把握は不可欠なものである。そのため、事前に、いつも授業を担当している教諭等と児童の実態を踏まえて協議する機会を設け、その後、改善案を示し、実践に向かった。実践収集では、目指す資質・能力の育成に効果的だと考えた学習活動に係る本時について、参観したり指導者として授業に臨んだりして行った。本時は、指導者(学級担任、専科教員、開発を担当した指導主事・長期研修生)が1名の場合や2～3名でチーム・ティーチングを組んだ場合(ALTも含む)等の多様な体制で指導に当たった。現在、各小学校において行われている授業体制が多岐に渡ることを踏まえてのことである。指導者、指導体制も事前の協議をもとに決定した。

実践後には、調査研究協力校にて、指導者や参観者等で、目指す資質・能力の育成のために学習活動例の開発段階で重視したことを中心に、本時での児童の具体的な姿や、単元において本時に至るまでの活動の様子等について振り返りを行った。

その後、県教育センターにおいて、検証を行った。実践の記録を用いて共有化を図り、育成を目指す資質・能力の捉えが適切であったか、評価規準や評価場面、評価方法は適切であったか、学習活動が目指す資質・能力の育成に効果的であったか等について、検証を重ねた。この検証を経て、改訂した内容をハンドブックに記載した。

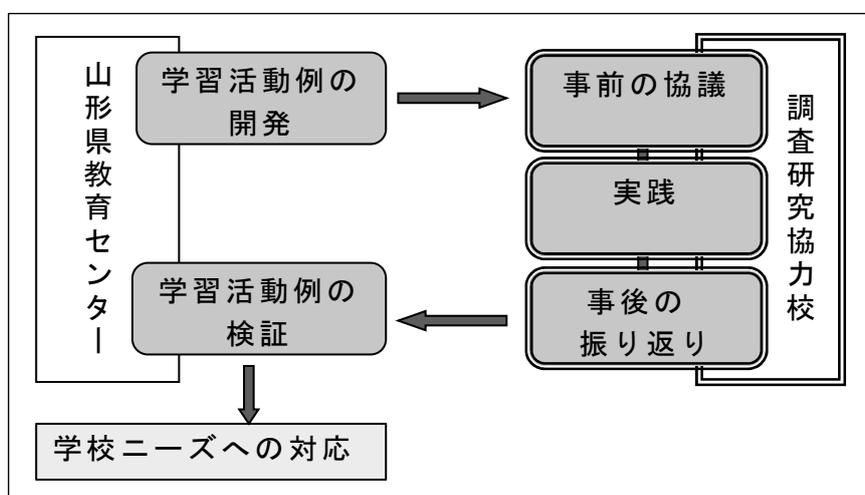


図2-1-1 学習活動例の開発と実践、検証の流れ

2 調査研究協力校における実践、検証

以下は、各単元で重点化を図って目標設定した領域のうち、評価対象とする領域における学習活動例を中心に実践、検証を行ったものである。以下の実践は、平成30年6月から令和元年6月までに実施している。そのため、移行期間中の該当学年において実践を行った。また、単元や授業における目標や評価の在り方については、平成30年3月に文部科学省より示された「学習指導案例」を参考にした。

(1) 学習活動例1－外国語活動「聞くこと」(p.53 学習活動例③)

① 育成を目指す資質・能力

1. 重点的に取り扱う領域と領域別の目標¹⁶⁾

聞くこと	ア ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の周りの物を表す簡単な語句を聞き取れるようにする。
------	--

2. 本時に育成を目指す資質・能力

— 該当する学習指導要領における内容 ¹⁷⁾ —	
【思考力、判断力、表現力等】	
情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項	
ア	自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を使って、相手に配慮しながら、伝え合うこと。

② 実践

1. 単元名 きみはだれ? <Let's Try!1 Unit9 Who are you?> (第3学年にて実践)

2. 単元の目標

- 色や形、状態等や動物 (dragon を含む) を表す語を繰り返し聞いたり、発音したりすることで、日本語と英語の音声やリズム等の違いに気付く。

【知識及び技能】

- 絵本等の短い話を聞いて、色や形、状態等を表わす語を手がかりとして、隠れている生き物や、相手が何であるかを判断し、Are you~? Yes, I am.等の表現を用い、質問したり、答えたりする。また、伝えたい動物について、色や形、状態等を表す語を用いて話す。 【思考力、判断力、表現力等】

- 短い話等に反応しながら聞くとともに、相手に伝わるように、ジェスチャーを用いる等しながら、伝えたいことを言おうとする。

【学びに向かう力、人間性等】

3. 単元計画(4時間)

時間	目標	主な活動	評価〈評価方法〉重点◎															
			聞くこと			話すこと【発表】												
			知	思	主	知	思	主										
1	・日本語と英語の音声やリズム等の違いに気付く。	・Who are you?クイズ(教師の好きな生き物) ・絵本の読み聞かせを聞く。 ・動物の言い方を練習する。 ・色や形、状態等を表す語の練習をする。	◎															
2 (本時)	・絵本の内容に関するクイズを聞いて、色や形、状態等を表す語を手がかりとして、仲間が好きな動物が何か表す。	・絵本の読み聞かせを聞く。 ・ミッシングゲーム(色や形、状態等、動物を表す語に慣れ親しむ) ・絵本の内容に関するクイズを聞き、仲間が好きな動物を表す。				◎												

3	<ul style="list-style-type: none"> 絵本の読み聞かせやクイズを聞いて、色や形、状態等を表す語を手掛かりとして、何の動物のことか答える。 伝えたい動物について、色や形、状態等を表す語を用いて話す。 	<ul style="list-style-type: none"> 色や形、状態等や動物を表す語を練習する。 絵本の読み聞かせを聞く。 Are you～? Yes, I am. 等の表現を練習する。 Who are you? クイズ（児童の実態に応じて、教材のページを限定する） 	<p style="text-align: center;">○</p> <p style="text-align: center;">◎</p> <ul style="list-style-type: none"> 色や形、状態等の手がかりを結び付け、相手が何の動物のことを言っているか答えている。〈行動観察〉 伝えたい動物について、色や形、状態等を表す語を用いて話している。〈行動観察〉
4	<ul style="list-style-type: none"> Who are you? クイズを通して、色や形、状態等を表す語を用いて、動物を答える。 相手に伝わるように、ジェスチャーを用いる等しながら、ヒントの文や尋ねる文をおうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵本の読み聞かせを聞く。 Who are you? クイズ（児童の実態に応じて教材以外の動物も含める） 学習を振り返る。 	<p style="text-align: center;">○</p> <p style="text-align: center;">◎</p> <p style="text-align: center;">○</p> <ul style="list-style-type: none"> Who are you? クイズを通して、色や形、状態等を表す語を用いて、動物を答えている。〈ワークシート、行動観察〉 相手に伝わるように、ジェスチャーを用いる等しながら、ヒントの文や Are you～? と尋ねる文を言っている。〈行動観察〉

4. 本時の指導（第2時）

- ・ 目 標：絵本の内容に関するクイズを聞いて、色や形、状態等を表す語を手掛かりとして、仲間が好きな動物が何か表す。
- ・ 評価規準：絵本の読み聞かせを聞いて、色や形、状態等を表す語を手掛かりとして思考し、仲間が好きな動物が何か答えている。【思考・判断・表現】
- ・ 主たる言語活動

— 該当する新学習指導要領解説における内容¹⁸⁾ —

言語活動に関する事項

聞くこと

- (イ) 身近な人や身の回りの物に関する簡単な語句や基本的な表現を聞いて、それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動。

絵本の内容に関するクイズを聞き、仲間が好きな動物を見つける。

《目的》物語を楽しむ

《場面》絵本の内容に関するクイズを聞く

《状況》隠れている動物を聞いて推測する

5. 展開

時間	児童の活動 S: 目指す児童の反応	指導者の活動 (T1:HRT、T2:JTE)	・ 指導上の留意点 ◎ 評価〈方法〉
3分	○ 挨拶をする。 ・ “Hello!” song ・ 状態 ・ 天気	○ 挨拶をする。 T1: Is it sunny? / Is it sunny or cloudy? 等	・ “Hello!” の歌をジェスチャーを付けて一緒に歌いながら楽しい雰囲気を作る。 ・ 天候について yes, no question か、絵カード等を選択できるようにし、児童に負担をかけない方法で発話を促す。
5分	○ 絵本の読み聞かせを聞きながら、動物を見つける。 S: Snake? / へび?	○ T2: 絵本を読み聞かせる。 T1: どんな動物が出てきたかな。 T2: A snake.	・ 絵本の拡大コピーを貼る。 ・ ジェスチャーを使ったり、絵の一部を隠したり、児童に尋ねたりし、興味を喚起し、絵本に引き込ませる。
3分	○ 動物の名前を英語で	○ T2: 動物の名前を英語で	・ 絵カードを指しながら

5分	発音練習する。 ○本時の課題をつくる。	発音する。 ○T2:教材に登場する動物の中で、T1の好きな動物について、I see something～.とヒントを出し、その動物を推測させる。 T1:どんな言葉に気を付けて聞くと、仲間が好きな生き物が分かるかな。	ズムボックスを用いて、強勢や発音に気を付けながら発音する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> どのような言葉に気を付けて聞くと、仲間の好きな動物が分かるかな。 </div>			
7分	S: white とか small とか / 色とか形に気を付けて聞く。 ○色や形、状態等を表す語を英語で発音練習する。	○T2:もう一度、T1の好きな動物について、I see something～.等とヒントを出し、その動物を推測させる。 ○T2:色や形、状態等を表す英語を、絵やジェスチャーを用いながら発音する。 ○ミッシングゲーム ○教材の絵を見せながら、児童が好きな動物について、クイズを出す。 T1:児童を指名する。 T2:指名された児童の好きな動物について下のよう言う。 I see something long I see something small. I see something white.	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しについての気付きを拾う。 ・絵やジェスチャーを児童に考えさせる等しながら、英語らしい音声やリズム等を大切にして練習させる。 ・困った時は、周りの友達に、どんな言葉に気を付けたかを尋ねるように促す。
15分	○絵を見ながら英語を聞き、答える。	○T1:児童を指名する。 T2:指名された児童の好きな動物について下のよう言う。 I see something long I see something small. I see something white.	◎絵本の読み聞かせを聞いて、色や形、状態等を表す語を手掛かりとして思考し、仲間が好きな動物が何か答えている。 (行動観察:つぶやき、指さし、ジェスチャー)
3分	S: Rabbit? / ウサギ? / (ジェスチャー) ○課題についてまとめる。	○T1:課題についてまとめを行う。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 色や形、状態等の言葉に気を付けて聞いたらどんな動物がかくれているか分かった。 </div>			
3分	○振り返る。 S:色とかに気を付けて聞いた。 / 発音ができるようになった。 / これからもっといろいろな言葉を知っていききたい。	○T1:本時を振り返させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に今日できたこと、次にもっと頑張りたいことを意識させる。 ・教師や仲間ができたことを認める。
1分	○挨拶をする。	○挨拶をする。	

③ 検証 [言語活動を通して]

1. 育成を目指す資質・能力

本時の主たる言語活動を通して育成を目指すのは、身近で簡単な事柄について、英語で聞いて自分の考えを伝える資質・能力である。絵本の中で隠れている動物について、既習の色や形を表す語や新出の状態等を表す語を聞き取り、その英語の音と絵本の挿絵を結び付けるという思考・判断をし、見つけた動物を表現することを目指した。

新学習指導要領解説¹⁹⁾には、「早急に表現や話の内容までを聞き取らせることを求めず、自分のことや身の回りの物に関する語句を聞き取ることで、話されているおおよその内容が分かるような内容を扱うことが重要である。」と示され

ている。色や動物等を表す語句やかくれんぼという遊びは、児童に馴染みのあるものである。それらを扱った絵本の活用は、簡単な語句からおおよその内容を掴みやすく、目指す資質・能力の育成に効果的だと考えた。

本時の言語活動に向けて、色や形、状態等を表す語を、絵やジェスチャーも用いながら練習する学習活動を設定した。まず、「どんな言葉に気を付けて聞くと、仲間の好きな動物が分かるかな。」という発問をし、語に着目するという課題意識を児童にもたせた。そして、課題設定後にもう一度ヒントを出し、課題解決の見通しとともに、児童自身が聞いて分かる語句と分からない語句を認識し、語句の練習の必要性を感じて臨めるよう授業を組み立てた。

2. 評価・見取り

本時は、「聞くこと」の領域における思考力、判断力、表現力等の資質・能力の育成に焦点化した実践であり、評価規準を「絵本の読み聞かせを聞いて、色や形、状態を表す語を手掛かりとして思考し、仲間が好きな動物が何か答えている。」とした。教師の英語を聞き、挿絵と結び付けて自分の考えを表現することを目指したので、rabbitと英語で答えるだけでなく、聞いて分かったが英語で発話できずウサギと日本語で答えたり、ジェスチャー等で表現したりする姿も含め B 評価とした。本時は、単元において2時間目の実践である。まずは十分に聞いて慣れ親しむことが大切であり、英語の語句を聞いて分かった姿を評価対象としたことは、適切な設定であったと考える。

ただし、外国語活動においても、言葉による伝え合いを体験させていく必要があるので、rabbitと発話できない様子を見取った後に、“Ah, a rabbit.”と児童の考えをくみ取り、反復させ、以後の活動で児童が英語を活用していけるようにすることが大切である。

上記の評価場面となる本時の主たる言語活動は、クイズ形式で行ったが、「絵本の読み聞かせを聞き、登場する動物を見つける」と改めたい。絵本の本文ではrabbitを見つけるに当たり、I see something white.と表現している。状態等を表す語は、本単元が新出の言語材料である。2時間目という学習過程で、まだ十分慣れ親しんでいない語も含めて組み合わせることに戸惑う児童も見られた。そこで、本時の主たる言語活動を改め、コミュニケーションを行う場を絵本の読み聞かせとし、児童に負荷をかけ過ぎずに第3学年という実態に応じた言語活動を行うことが大切だと考える。

2時間目の言語活動としては改善案を記したが、単元のゴールとなる言語活動に向け、クイズ形式で取り入れた表現を示していくこと（ある動物を色や形、状態等の多様な語で表すこと）は重要だと考える。1時間目から毎時間読み聞かせを繰り返す際、児童とやり取りをしながら進め、児童の様子を踏まえて多様な表現の仕方に気付かせていくことが望ましいと考える。

また、本実践では行動観察による見取りの難しさがあった。クイズを行う活動を評価場面の中心としながら、その前に行う読み聞かせでの児童の反応（この段階で英語を聞き取り、指をさしている等）や語の練習での様子（聞いて繰り返す際に戸惑っている等）から、児童の実態を大まかに捉えておくことが重要である。その際、本時はティーム・ティーチングの体制で行ったので、役割を明確にしておくことも大切であった。クイズの前段階での児童の大まかな見取りをT1とT2が共有する場を設け、T2がクイズを出題しているときに、T1が特にどの児童の評価、指導・支援を行うかを事前に計画しておくことで、適切な評価、適切な児童への働きかけが実現できたのではないかと考える。

(2) 学習活動例 2－外国語活動「話すこと[やり取り]」(p.54 学習活動例④)

① 育成を目指す資質・能力

1. 重点的に取り扱う領域と領域別の目標²⁰⁾

話すこと [やり取り]	ウ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事項について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。
----------------	---

2. 本時に育成を目指す資質・能力

<p>—該当する新学習指導要領解説における内容²¹⁾—</p> <p>【思考力，判断力，表現力等】</p> <p>情報を整理しながら考えなどを形成し，英語で表現したり，伝え合ったりすることに関する事項</p> <p>ア 自分のことや身近で簡単な事柄について，簡単な語句や基本的な表現を使って，相手に配慮しながら，伝え合うこと。</p>
--

② 実践

1. 単元名 アルファベットで文字遊びをしよう <Let's Try!2 Unit6 Alphabet>
(第5学年にて実践)

2. 単元の目標

- ・身の回りには活字体の文字で表されているものがあることに気付き、活字体の小文字とその読み方に慣れ親しむ。また、Do you have～? や Yes, I do. 等の表現に慣れ親しみ、アルファベットの文字について聞いたり話したりする。

【知識及び技能】

- ・身の回りにあるアルファベットの文字クイズを出したり答えたりする。

【思考力，判断力，表現力等】

- ・相手に配慮しながら、アルファベットの文字について伝え合おうとする。

【学びに向かう力，人間性等】

3. 単元の指導計画 (全4時間)

時間	目標	主な活動	評価〈評価方法〉 重点◎						
			聞くこと			話すこと[やり取り]			
			知	思	学	知	思	学	
1	・身の回りには活字体の文字で表されているものがたくさんあることに気付き、活字体の小文字とその読み方に慣れ親しむ。	<p>※指導者は、あらかじめ児童の身の回りや地域にある、大文字で表示された標識、お菓子の箱のラベル等を用意する。</p> <p>・大文字の読み方を思い出して言う。</p> <p>・指導者が言う文字を探して発表する。</p>	◎			○			<p>・身の回りには活字体の文字で表されているものがたくさんあることに気付いている。</p> <p>・活字体以外の筆記体に気付いたりしている。</p> <p style="text-align: right;">〈行動観察〉</p>
2	・活字体の小文字とその読み方に慣れ親しむ。	<p>・Let's Try! 2 (p. 22, 23)にある街のイラストから、アルファベットの小文字を探して指さす。</p> <p>・大文字と小文字を対応する。</p>	◎			○			<p>・活字体の小文字の読み方を聞いて、その小文字を指さしている。</p> <p>・大文字と小文字を対応させて言う。</p> <p style="text-align: right;">〈行動観察〉</p>

3	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りにあるアルファベットの文字について尋ねたり答えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> Let's Try! 2 (p. 22, 23) にある表示や身の回りにある表示について、ペアでヒントを出したり、ヒントを聞いてそれが何かを答えたりする。 	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りにあるアルファベットの文字について尋ねたり答えたりしている。 <p style="text-align: right;">〈行動観察〉</p>
4 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 相手に配慮し、動作を交えながら、アルファベットの文字について伝え合おうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> Let's Try! 2 (p. 24, 25) の5つの表示から1つを選び、ペアになり文字について尋ね合い、相手の表示を考えて答える。 Let's Try! 2 (p. 25) の1色の中から好きな色を1つ選び、グループになって文字について尋ね合い、相手の色を考えて答える。 	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<ul style="list-style-type: none"> 活字体の小文字について聞いたり言ったりしている。 相手に配慮し、動作を交えながら、アルファベットの文字について尋ねたり答えたりしている。 <p style="text-align: right;">〈行動観察〉</p>

4. 本時の指導（第4時）

- ・目標：相手に配慮し、動作を交えながら、アルファベットの文字について、簡単な語句や基本的な表現を使って尋ねたり答えたりする。
- ・評価規準：目の前にいる相手の反応を確かめながら、アルファベットの文字について、これまで慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を使って尋ねたり答えたりしている。 【思考・判断・表現】
- ・主たる言語活動

— 該当する新学習指導要領解説における内容²²⁾ —

言語活動に関する事項

話すこと〔やり取り〕

(イ) 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、好みや要求などの自分の考えや気持ちなどを伝え合う活動。

言葉に含まれるアルファベットの文字を尋ね合い、友達の選んだ言葉を考えて答える。

《目的》友達が選んだ言葉を当てる

《場面》言葉当てゲーム

《状況》言葉に含まれるアルファベットを友達から聞き出す

5. 展開

時間	児童の活動 S: 目指す児童の反応	指導者の活動 (T: JTE)	指導上の留意点 ◎評価〈方法〉
2分 1分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 挨拶をする。 ○ 【Let's Chant】 Alphabet Chant を歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 挨拶をする。 ○ 児童の様子を観察しながら、リズムを意識して①から③を一緒に歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導上の留意点 ◎評価〈方法〉 ・Alphabet Chant を前時まで毎時間歌い、慣れさせておく。
	① abcdefg, hijklmn, opqrstu, v, w, x, y, z. ② abc, abc, abcdefg, hij, hij, hijklmn, opq, opq, opqrstu, v, w, x, y, z. ③ ab, abc, abcdefg, hi, hij, hijklmn, op, opq, opqrstu, v, w, x, y, z.		
10分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 【Activity 1】を通して〈進め方〉を知る 	<ul style="list-style-type: none"> ○ デモンストレーションで代表児童に1つの表示 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の児童にも一緒に質問するように促

	<ul style="list-style-type: none"> 5つの表示から1つ選び、ペアになって文字について尋ね合い、相手の表示を考えて答える。 	を選ばせ、Do you have a ~? と尋ねる。	しながら、進め方を理解させる。
27分	<進め方> <ul style="list-style-type: none"> ペア (A と B) になり、A は誌面にある 5 つの表示から 1 つ選ぶ。 B が Do you have a ~? と尋ね、A は選んだ表示にその文字が含まれているかどうかを Yes, I do. / No, I don't. で返答する。 B はその答えから A が選んだ表示が何かを考えて答える。 ペアの相手を替えて数回行う。 	○ Activity 1 と同様の進め方で、好きな色を題材にして行う。	<ul style="list-style-type: none"> 児童の身の回りや地域にある標識、アニメのキャラクター、お菓子の箱にあるラベル等を使ってもよい。 デジタル教材で登場人物のやり取りのモデルを聞かせてから行う。
5分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>どのアルファベットを聞けば、相手の好きな色が分かるかな？</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>S1 : What's my favorite color? Please guess. S2 : OK. Do you have a "w" ? S1 : No, I don't. I don't have a "w." S2 : Do you have a "b" ? S1 : Yes, I do. I have a "b." S2 : Wow! Do you have an "e" ? S1 : Yes, I do. I have an "e." S2 : I got it! "Blue." S1 : That's right. I like blue.</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 手で示す等、動作を交えて伝えてもよい。 本時の活動を振り返る。 歌 Goodbye Song (3年 Unit 2) 挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が意欲を持って尋ね合うことができるように、当てる側 (S2) の質問回数を決めさせる。 S3、S4 には、S2 のサポート役となるよう促す。 英語を使おうとする態度について、よかったところを褒める。 アルファベットの小文字の学習をふり返えさせる。 一緒に歌う。 挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が意欲的に伝え合うことができるように、相手を替えて、それぞれの色が好きな友達を見つけるように声がけする。 <p>◎ これまで慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を使って尋ねたり応えたりしている。</p> <p style="text-align: center;"><行動観察></p> <ul style="list-style-type: none"> 小文字が使えるようになった。 身の回りには小文字がたくさん使われているんだ。 小文字を書いたり読んだりできるようになりたい。

【Activity 2】

```

    graph TD
      S2((S2)) --> S1((S1))
      S3((S3)) --> S2
      S4((S4)) --> S2
      S2 --- W[White]
      S1 --- B[Blue]
      S2 --- T[話す<br/>評価対象]
      S3 --- S3_L[サポート]
      S4 --- S4_L[サポート]
  
```

S1 : もう決めた。(Blue にしよう)
 T : S3、S4 はサポート役にまわってください。
 S3 : えっ、どうやって?
 T : どうする?
 S4 : ジェスチャーでしょ。s はこうか…。
 S3 : 指さし。
 S4 : 紙に書きちゃおう。
 S3 : 空に書こう。
 S2 : Do you have a "w" ? (指で示しながら)

図 2 - 2 - 1 Activity2 の話すこと [やり取り] の様子

③ 検証[言語活動を通して]

1. 育成を目指す資質・能力

本時の主たる言語活動を通して育成を目指す資質・能力は、相手に配慮しながら、文字を伝え合うことである。アルファベットの名称を表す読み方を聞いてどのアルファベットかが分かり、選んだ言葉にその読み方をするアルファベットが含まれているかを判断しながら英語でやり取りする姿を目指した。

新学習指導要領解説²³⁾には、「言葉だけでなく、動作や表情を手掛かりにすることで、相手の意図をよりよく理解したり、動作を加えて話すことで、自分の考えや気持ちをより分かりやすく伝えたりすることを児童が実感できるようにすることが重要」だと示されている。多くの児童にとって、外国語活動が英語との初めての出会いの場であり、英語の語句や表現への慣れ親しみが十分でないことも考えられる。それを補うためにも、動作や表情を交えることが重要である。

本時の言語活動に向けて、身の回りにある活字体の文字で表されているものを使い、小文字とその読み方に慣れ親しませる学習活動を設定した。その際、小文字と大文字の比較を通して、既習の大文字の名称を表す読み方で小文字を読んだり、形の共通点や相違点に気付いたりすることができるようにした。また、小文字の特徴を捉えて指で表したり、示された文字を読んだりする等、多様な活動を通して小文字とその読み方に慣れ親しませた。

2. 評価・見取り

本時は、「話すこと[やり取り]」の領域における思考力、判断力、表現力等の資質・能力の育成に焦点化した実践であり、評価規準を「友達が選んだ言葉を当てるために、目の前にいる相手の反応を確かめながら、アルファベットの文字について、これまで慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を使って尋ねたり応えたりしている。」とした。S1の答えを予想して、S2が Do you have a ~? を使って質問しながら文字を伝えている姿をB評価とした。その際、簡単な語句や基本的な表現を用いているからとはいえ、質問をしたり質問に答えたりすることに抵抗感をもつ児童がいると考えられるため、グループの友達の「サポートを受け」ながら、質問ができた質問に答えられたりする姿も評価規準を満たしているとし、達成感をもたせられるようにした(図2-2-1)。

本時は、単元において4時間目の実践である。それまでに十分に小文字とその読み方に慣れ親しんでおり、「話すこと[やり取り]」の領域を重点化した適切な設定だった。ただし、ハンドブックにおいては、文字の認識と伝達に焦点化して、知識・技能の観点で示す。Do you have a~? や、I have~/I don't have~. 等の基本的な表現を言語活動の中で取り扱い、小文字に慣れ親しむ場面を設定する。小文字と大文字の比較を通して、形の共通点や相違点に気付かせる等した上で、伝えたい文字が確かに伝わっているか相手の様子を見て繰り返したり、指さしやジェスチャー等の多様な方法でアルファベットを表したりしながらやり取りする姿を表すことにした。

行動観察による見取りでは、話し手(S2)が、10色の中から選んだ色の文字を相手(S1)から引き出すことができるように、サポートする児童(S3、S4)は指さしやジェスチャー等の動作を交えながら伝えようとしていた。やり取りを行う活動を評価場面の中心としながら、その前段の練習場面等における児童の反応から実態を捉える必要がある。なお、高学年では領域別の学年ごとの目標を学習到達目標(CAN-DO リストの形式)で示すことになるため、評価規準を児童と共有することが重要となる。

(3) 学習活動例 3－外国語科「書くこと」(p. 57 学習活動例⑦)

① 育成を目指す資質・能力

1. 重点的に取り扱う領域と領域別の目標²⁴⁾

書くこと	ア 大文字，小文字を活字体で書くことができるようにする。 また，語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。
話すこと [やりとり]	ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について，簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして，伝え合うことができるようにする。

2. 本時に育成を目指す資質・能力

—該当する新学習指導要領解説における内容²⁵⁾—

【知識及び技能】

英語の特徴やきまりに関する事項

イ 文字及び符号

(ア) 活字体の大文字，小文字

エ 文及び文構造

(ア) 文 d 疑問文のうち，be 動詞で始まるものや助動詞 (can, do など) で始まるもの，疑問詞 (who, what, when, where, why, how) で始まるもの

【思考力，判断力，表現力等】

情報を整理しながら考えなどを形成し，英語で表現したり，伝え合ったりすることに関する事項

ア 身近で簡単な事柄について，伝えようとする内容を整理した上で，簡単な語句や基本的な表現を用いて，自分の考えや気持ちなどを伝え合うこと。

② 実践

1. 単元名 行事・誕生日 <We Can!1 Unit2 When is your birthday?>

(第 5 学年にて実践)

2. 単元の目標

・誕生日について聞いたり言ったりすることができる。また，活字体の大文字を書き写すことができる。 【知識及び技能】

・誕生日や，誕生日に欲しいものや好きなものを伝え合う。

【思考力，判断力，表現力等】

・他者に配慮しながら，誕生日を通して，日本や世界の様々な行事について伝え合おうとする。 【学びに向かう力，人間性等】

3. 単元計画 (7 時間)

時間	目標	主な活動	評価 (評価方法) 重点◎								
			書くこと			話すこと [やり取り]					
			知	思	主	知	思	主			
1	<ul style="list-style-type: none"> 日本や世界の様々な行事について伝え合おうとする。 大文字のワークシートを使い，書き写すことができる。(AHIM) 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の最後に，英語で誕生日カードを書くことを提案し，カードの例を示す。 世界の行事について聞き取れたことや分かったことを発表する。p.11【Let's Watch and Think 1】 月名を聞き，その月の写真 (絵カード) を指す。p.11【Let's Play】 大文字のワークシートを使い，なぞり書きと書き写しをする。 	○						○		
<ul style="list-style-type: none"> 日本や世界の様々な行事について伝え合おうとしている。(行動観察・振り返りシート) ワークシートを使い，大文字を書き写している。(4 文字) 											

2	<ul style="list-style-type: none"> 日本や世界の様々な行事について伝え合おうとする。 大文字のワークシートを使い、書き写すことができる。(YVXWT) 	<ul style="list-style-type: none"> 世界の行事について聞き取れたことや分かったことを発表する。p.12【Let's Listen 1】【Let's Watch and Think 2】 大文字のワークシートを使い、なぞり書きと写し書きをする。 	○					◎	<ul style="list-style-type: none"> 日本や世界の様々な行事について伝え合おうとしている。(行動観察・振り返りシート) ワークシートを使い、大文字を書き写している。(5文字)〈ワークシート〉
3	<ul style="list-style-type: none"> 日本の行事や登場人物の誕生日を聞き、日付を表すときに序数を使うことができる。 大文字のワークシートを使い、書き写すことができる。(FNLKE) 	<ul style="list-style-type: none"> 日が限定されている行事について聞き取る。p.13【Let's Listen 2】 When is your birthday?と序数を練習する。p.13【Let's Chant】 登場人物の誕生日を聞き取る。p.13【Let's Listen】 大文字のワークシートを使い、なぞり書きと書き写しをする。 	○				○		<ul style="list-style-type: none"> 日本の行事や登場人物の誕生日について聞き、日付には序数を使うことを理解し、表現している。(行動観察・教材) 大文字のワークシートを使い、なぞり書きと書き写しをしている。(5文字)〈ワークシート〉
4 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 誕生日や好きなものについて伝え合う。 大文字のワークシートを使い、書き写すことができる。(ZGDBP.R) 	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物が好きなものを聞き取る。p.14【Let's Watch and Think 3】 ペアになり、誕生日や好きなものを伝え合い、分かったことをワークシートに記入する。p.14【Activity 1】 大文字のワークシートを使い、なぞり書きと写し書きをする。 誕生日カードの下書きを作成するために、“HAPPY BIRTHDAY”をなぞり書きする。【ワークシート】 誕生日カードに載せる情報を考える。 	○					◎	<ul style="list-style-type: none"> 誕生日や、好きなものについて、When is your birthday? My birthday is ~. What (color) do you like? I like ~. Do you like ~? Yes, I do. No, I don't. 等の表現を使い、伝え合っている。(行動観察・ワークシート) ワークシートを使い、大文字を書き写している。(6文字)〈ワークシート〉
5	<ul style="list-style-type: none"> 誕生日に欲しいものを伝え合う。 大文字のワークシートを使い、書き写すことができる。(OJCSQU) 	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の会話を聞き取り、その内容を誌面に記入する。p.15【Let's Watch and Think 4, 5】 ペアで誕生日に欲しいものを伝え合い、わかったことをワークシートに記入する。 大文字のワークシートを使い、なぞり書きと書き写しをする。 	○					◎	<ul style="list-style-type: none"> What do you want for your birthday? I want ~. の表現を使って、誕生日に欲しいものを伝え合っている。(行動観察・ワークシート) ワークシートを使い、大文字を書き写している。(6文字)〈ワークシート〉
6	<ul style="list-style-type: none"> “HAPPY BIRTHDAY”を書き写すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の話を読み、バースデーカードに書かれている内容を想像して誌面に記入する。p.16【Let's Watch and Think 6】 誕生日カードに、友だちの好みを選んでイラスト等を記入する。 誕生日カードに、“HAPPY BIRTHDAY”を書き写す。【誕生日カードのワークシート】 	◎						<ul style="list-style-type: none"> “HAPPY BIRTHDAY”を書き写している。(誕生日カード)
7	<ul style="list-style-type: none"> 既習の表現を用いながら、好みや欲しいもの、誕生日について伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 好きなものや誕生日に欲しいもの、誕生日を伝え合い、カードの受け渡しを行う。p.16【Activity 2】 絵本の読み聞かせを通して、読むことに慣れる。p.17【Story Time】 					○	◎	<ul style="list-style-type: none"> 既習の表現を用いながら、好みや欲しいもの、誕生日について伝え合っている。(行動観察・振り返りシート)

4. 本時の指導 (第4時)

- 目 標：誕生日や、好きなものについて、伝え合う。

ワークシートを使い、活字体の大文字を書き写すことができる。

- 評価規準：誕生日や、好きなものについて、When is your birthday?

My birthday is ~. What (color) do you like? I like ~. Do you like ~?

Yes, I do. No, I don't. 等の表現を使い、伝え合っている。

【思考・判断・表現】

ワークシートを使い、活字体の大文字を書き写している。

【知識・技能】

・ 言語活動

— 該当する新学習指導要領解説における内容 ²⁶⁾ —
 言語活動に関する事項
 オ 書くこと
 (ア) 文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体の大文字、小文字を書く活動。

友達にあてたバースデーカードを書く。
 《目的》 友達に祝う気持ちを伝える
 《場面》 誕生日プレゼントづくり
 《状況》 バースデーカードを書いて友達に贈る

5. 展開

時間	児童の活動 S:目指す児童の反応	指導者の活動 (T1:HRT T2:ALT)	・指導上の留意点 ◎評価(方法)
1分	○挨拶をする。	○挨拶をする。	・笑顔で楽しい雰囲気を作り挨拶をする。
1分	○誕生日についての気持ちや出来事を伝え合う。	○誕生日にすることや誕生日に欲しいものを尋ねる。	・T-S、S-Sのやり取りをしながら、前時までの復習をする。
3分	○前時を振り返り、誕生日の尋ね方と答え方や日にちの言い方を確かめる。 ・Tの質問に答える。 S1: My birthday is～. ・ペアでやりとりをする。	○誕生日を尋ねる言い方と答え方を Small Talk で確認する。 T1: My birthday is May 3rd. When is your birthday, T2? T2: July 31st. It's summer. It's hot. T1: I see. Your birthday is July 31st. ・2～3名の児童に尋ねる。 T1: When is your birthday? T1: Ask in pairs, "When is your birthday?"	・既習の言葉を活用することを確認する。 ・T-S、T-SS等の会話をつなぐ。 ・序数の使用に留意する。
5分	○課題を確かめる。	○課題を提示し、確認する。	・T2は児童とやり取りしT-S、T-SS等の会話をつなぐ。
好きなものや好きなことは、何と伝え合えばいいのかな。			
	・好みについて聞く既習表現を想起する。 ・T1、T2の質問に答える。 S: I like yellow. S: I like baseball.	・誕生日に欲しいものを想起させながら、好みについて考えさせ、やり取りにつなげる。 ・好みについてT1とT2がやり取りをする。 T1: What color do you like? T2: I like red. What color do you like, T1? T1: I like blue. Do you like blue? T2: Yes, I do. T1, what sports do you like? T1: I like basketball. ・2～3名の児童に尋ねる。 T2: What color do you like? What sports do you like? Do you like～?	・T2は児童とやり取りしT-S、T-SS等の会話をつなぐ。
5分	○【Let's Watch and Think 3】	○【Let's Watch and Think 3】でさらに好みについて伝え合う表現を確認する。	・T1は活動内容の指示を出す。T2は活動の前に、教材についてのやり取りを英語で児童と行う。
5分	○【Activity 1】(p.14) What color do you like?	○【Activity 1】(p.14)で使用するワークシートを示す。	・T1は活動内容の指示を出す。ワークシートの

8分	<p>What sports do you like? の表現を使い、ペアで好みを伝え合う。</p> <p>○ワークシートに取り組む。</p> <p>What~do you like? Do you like~? の表現を選んで使い、ペアで好みを伝え合う。</p> <p>○友達の誕生日、好きなものを書き込む。</p>	<p>○誕生日カードの下書きになるワークシートを配付し、指示をする。</p>	<p>拡大版を提示し、活動の見通しをもたせる。活動が始まったら、T1とT2は机間巡視し、支援する。</p> <p>・What~do you like? の表現を使い、~の部分に既習の言葉を入れ、質問に幅をもたせる。</p> <p>◎誕生日カードを作成するために、誕生日や好きなものについて伝え合っている。(行動観察)</p>
5分	<p>○ワークシートを使い、大文字のなぞり書きと書き写しをする。</p>	<p>○大文字のなぞり書きと書き写しを指示する。</p>	<p>◎ワークシートを使い、活字体の大文字を書き写している。(行動観察・ワークシート)</p>
5分	<p>○HAPPY BIRTHDAY をなぞり書きする。</p>	<p>○HAPPY BIRTHDAY をなぞり書きすることを指示する。</p>	
5分	<p>○本時の学習を振り返る。</p>	<p>○本時の学習を振り返る。</p>	
<p>まとめ：好きなものや好きなことは、What~do you like? I like~. Do you like~? Yes, I do./No, I don't. 等の表現を使って伝え合うことができた。もらって嬉しい誕生日カードを作るために、好みを考えて伝え合う。</p>			
1分		<p>○T1：友達の好きなものや好きなことが分かりましたか。今日ペアで伝え合ったことをもとに誕生日カードを作り、この後の時間に友達に配ります。</p>	<p>・T1はまとめを行う。T2は本時についての活動について英語でコメントする。</p>
1分	<p>○挨拶する。</p>	<p>○挨拶する。</p>	<p>・T1、T2は挨拶する。</p>

③ 検証[言語活動を通して]

1. 育成を目指す資質・能力

本時の主たる言語活動を通して育成を目指す資質・能力は、大文字を活字体で書くことができることである。友達に誕生日を祝う気持ちを伝えるという目的をもってアルファベットを書き写す活動を通して、アルファベットの文字を組み合わせると語ができ、語を組み合わせれば伝えたいことを英語で書くことができるということに気付くことを目指した。

新学習指導要領解説²⁷⁾には、「文字を書く指導に当たり、大文字、小文字を活字体で書かせる際には、「a,c,e」,「f,l」,「g,y」などの文字の高さの違いを意識させたり、「p,q」,「b,d」など紛らわしい形などを意識させたりするなど、指導の工夫をする必要がある。また、Aaからアルファベット順に指導すべきものと考えのではなく、どの文字から書く指導をした方が児童にとって効果的であるかを考えることも大切である。例えば、A,H,Iなどの左右対称の文字、Cc, Jj, Kkなどの大文字と小文字の形がほぼ同じ文字等、文字の形の特徴を捉えて指導するなど工夫することが大切である。」と示されている。本単元で扱う教材は、バースデーカードを書くための練習となり、一度に取り扱う文字の数や種類に配慮したワークシートである。左右対称の文字、大文字と小文字の形がほぼ同じ文字、曲線を含む文字等、文字の形や特徴を捉えて段階的な指導ができ、かつ本時までには「HAPPY BIRTHDAY」に含まれるアルファベットの練習が終わるよう、①「AHIM」(4文字)、②「YVXWT」(5文字)、③「FNLKE」(5文字)、④「ZGDBPR」(6文字)、⑤「OJCSQU」(6文字)と区切って大文字の活字体を練習するワークシートを作成した。練習の第一段階として、四線に3文字のなぞり書きを配置し、その横に高さや形に注

意して複数回書き写しをするものとした。第二段階として、同紙面下段に配置した四線に同じ文字を書き写すものとした。このようなワークシートを活用することにより、児童が段階的に自分で大文字の活字体を書けるようになるため、目指す資質・能力の育成に効果的だと考えた。

単元のゴールとなる言語活動に向けて、「HAPPY BIRTHDAY」に含まれるアルファベットの練習が終わるよう、帯活動として毎時の授業に上記の①～⑤を練習する時間を組み込んだ。文字の練習に当たっては、単調な繰り返しの学習に終始しないよう、単元末にバースデーカードを贈って祝う気持ちを伝えるという言語活動を設定することで、目的をもって書く練習に臨めるようにした。また、友人の好みについてやり取りした内容をイラスト等にしてバースデーカードに記入するという活動を行うことによって、相手意識をもって話したり書いたりできるよう授業を組み立てた。ハンドブックには、帯活動で取り組んできたことを【言語活動に向かう学習活動】として示し、6時間目の「HAPPY BIRTHDAY」をカードに書き写す活動を【言語活動】として示している。

2. 評価・見取り

本時は、「書くこと」の領域における知識及び技能の資質・能力の育成に関する学習活動例の収集をねらいとした実践であり、評価規準を「ワークシートを使い、活字体の大文字を書き写している。」とした。ワークシートに四線を配置し、これまでのアルファベットを書く練習を踏まえ、手本を見て文字の高さや形に気付けて書き写している姿をB評価とした(図2-2-2)。本時は、単元において4時間目の実践である。本時までには、帯活動として活字体の大文字14文字を書き写す練習をしてきたこと、及び6時間目でバースデーカードを完成させる計画であることを踏まえ、適切な設定であったと考える。



図2-2-2

上記の評価場面となる本時の言語活動は、誕生日カードの下書きを作成するために、「YVXWT」を書き写すこととした。児童の成果物を見ると、文字の高さや形、四線上の配置等に気を付けて書き写そうとしていることがうかがえた。本時での「書くこと」の指導においても、必要感を引き出したり、目的を明確にさせたりする等、動機付けを大切にしながら、段階を踏んだ丁寧な指導を心掛けた。そのため、児童は文字の特徴を意識して書いたり、目的意識や相手意識をもって取り組んだりすることができたのだと思われる。

ハンドブックに示している言語活動の評価規準を「四線にHAPPY BIRTHDAYと活字体の大文字で正しく書き写している。」とした。図2-2-3の児童のカードを見ると、これまでの学びがいかされていることが分かる。読む人が分かるように、四線に正しく書いている。

振り返りの場面で、最初に書いた文字と比べる等することで、自分の成長を感じることができると思われる。また、カードをもらった感想を伝え合うことで、文字はコミュニケーションの幅を広げるための1つのツールであることを実感し、文字を書くことへの意欲を高めることにつながると考えられる。

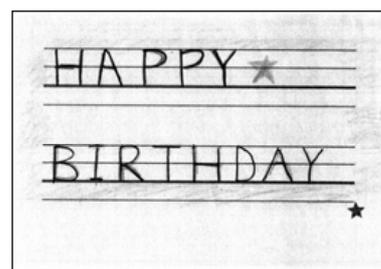


図2-2-3

(4) 学習活動例 4－外国語科「話すこと[発表]」(本書 p. 62 学習活動例⑫)

① 育成を目指す資質・能力

1. 重点的に取り扱う領域と領域別の目標²⁸⁾

話すこと [発表]	ウ 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。
--------------	---

2. 本時に育成を目指す資質・能力

—該当する新学習指導要領解説における内容 ²⁹⁾ —
【思考力, 判断力, 表現力等】 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項 ア 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うこと。

② 実践

1. 単元名 自分たちのまち・地域 <We can!2 Unit4 I like my town.>

(第 6 学年にて実践)

2. 単元の目標

- ・自分の住むまちにどのようなものがあるかや欲しいか、まちのよさ等を表すことができる。

【知識及び技能】

- ・自分の住むまちのよさや願いについて自分の考えや思いを整理し、発表したり書いたりする。

【思考力, 判断力, 表現力等】

- ・自分の住むまちに関心をもち、相手の理解を確かめながら話したり、相手が言っていることを共感的に受け止めながら聞いたりして、地域のよさや願い等を伝え合おうとする。

【学びに向かう力, 人間性等】

3. 単元計画(8 時間)

時間	目標	主な活動	評価〈評価方法〉重点◎								
			話すこと[発表]			書くこと					
			知	思	主	知	思	主			
1	・まちにあるもの、ないものを聞き、We が主語になっていることに気付く。	・ALT や担任の住むまちの話聞き、自分のまちの未来を提案するという単元のゴールとなる言語活動を確認する。 ・学習計画を立てる。 ・施設や建物の言い方に慣れ親しむ。	◎								・まちにあるもの、ないものについて聞き取り、We が主語になっていることに気付いている。〈行動観察・振り返り〉
2	・まちにあるもの、ないものについて聞いたり言ったりできる。	・We have～./We don't have～.の表現に慣れ親しむ。 ・自分の住むまちにある施設とない施設を発表する。 ・自分の住むまちにある施設とない施設を1つずつ選んで、例文を参考に書く。		◎			○				・まちにあるもの、ないものについて聞いたり言ったりしている。〈行動観察・ワークシート・振り返り〉

3 ・ 4	・まちにある施設のよさや、それによって受ける恩恵について聞いたり言ったりできる。	・Small Talk（まちの様子を表す絵を見てどのまちがすきか話す） ・We can～./We can enjoy～.の表現に慣れ親しむ。 ・自分の住むまちにある施設のよさや、それによって受ける恩恵を考える。 ・自分のまちにある施設のよさを1つ選んで、例文を参考に書く。	◎ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
5	・まちに欲しい施設とその理由を聞いたり言ったりできる。	・I want～.の表現に慣れ親しむ。 ・I like ～ing.の表現に慣れ親しむ。 ・まちに欲しい施設を尋ね合う。 ・まちに欲しい施設を1つ選び、例文を参考に、まちに欲しい施設をとその理由を書く。	◎ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
6 (本時)	・まちのよさやまちへの願いをもとに伝えることをまとめ、既習の語句や表現を用いて話すことができる。	・10年後まで残しておきたい施設とその理由を考える。 ・まちに欲しい施設とその理由を考える。 ・伝えたいと思う内容を既習表現でどのように言うのか考える。 ・作った文をペアに伝える。	<input type="checkbox"/> ◎ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
7 ・ 8	・相手に伝わるように文章を考え、語順や語と語の区切りに気を付けて、自分が話したことを書くことができる。	・グループで作った文を発表し合う。 ・話す内容や表現、文の構成を見直す。 ・自分が話したことをポスターに書く。 ・ポスターを読み合い、未来のまちについて考える。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ◎ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
			・文と文のつながりを意識し、話の構成を考えている。 ・語順や語と語の区切りに気を付けて、読みやすいように書いている。〈行動観察・ワークシート・振り返り〉

4. 本時の指導（第6時）

- ・目 標：まちのよさや願いをもとに伝えることをまとめ、自分の考えや思いを既習の語彙や表現を用いて話している。
- ・評価規準：自分の考えや気持ちが伝わるように、伝える内容や順番を考え、既習の語句や表現を用いて発表する文を組み立てている。

【思考・判断・表現】

- ・主たる言語活動

— 該当する新学習指導要領解説における内容³⁰⁾ —

言語活動に関する事項

話すこと〔発表〕

- (り) 簡単な語句や基本的な表現を用いて、学校生活や地域に関することなど、身近で簡単な事柄について、自分の考え気持ちなどを話す活動。

まちのよさやまちに欲しいものを発表する。

《目的》お互いのまちに対する思いを知る

《場面》まちづくりの会議に参加する

《状況》10年後のまちを提案する

5. 展開

時間	児童の活動 S:目指す児童の反応	指導者の活動 (T1:JTE T2:ALT)	・指導上の留意点 ◎評価〈方法〉
5分 10分	○挨拶をする。 ○本時の課題を確認する。	○挨拶をする。	・笑顔で気楽な雰囲気をつくり、挨拶をする。
どのような内容で、どのような表現を使うと、未来のまちを提案できるかな。			
20分	○ポスターを見ながら聞き、およその内容を理解する。 S:カヌー。 S: movies. S: 映画が好き。 S: 映画館が欲しい。 ○発表内容を考える。 ・10年後も残しておきたい施設とその理由 ・自分のまちにほしい施設とその理由 S1:公園があるとみんなが遊べるから公園は残したいな。 ・英語で表現する。 ・ペアで練習する。 ・聞き取ったことを、相手に伝える。 S1: We have a park. We can playing. S2: Oh, good idea.	○T1のまちを紹介する。 T1:Nishikawa is nice. We can enjoy canoeing. We have a big lake. We don't have a movie theater. I like watching movies. I want a big movie theater. T2: I want to go Nishikawa. ○聞き取れた語を発表させる。 ○ワークシートに自分の考えをメモさせる。 ○英語での言い方を考えさせ、完成した発表内容をペアに聞かせる。	・西川町の未来を提案したポスターを見せることで、内容を推測できるようにする。 ・聞き取ったことをもとに内容を確認する。 ・西川町と自分のまちを比較したり10年後を見通したりして、自分のまちへの思いを高める。 ・分からないときにはT2や友達に聞くようにする。 ・言いたいことが伝わるかペアで確認し、聞き手は共感的に受け止めるようにする。 ◎自分の思いや願いから発表内容を考え、既習の語彙や表現を用いながら話している。 〈行動観察・振り返り〉 ・児童の発表に反応したり感想を伝えたりし
10分	○振り返り ・できるようになった	○代表の児童に発表させ	

	こと、友達との関わり、まちへの気付きについて振り返る。	る。 S : Shinjo is nice. We can～. T2 : It's nice city. ○振り返りを発表させ、共有する。	ながら聞く。
--	-----------------------------	---	--------

③ 検証 [言語活動を通して]

1. 育成を目指す資質・能力

本時の主たる言語活動を通して育成を目指すのは、身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理して話すことができる資質・能力である。地域にある施設やない施設等、地域に関する事実を発表するだけではなく、地域に対する自分の考えや気持ち等を聞き手に分かりやすく整理して話すことを目指した。

新学習指導要領解説³¹⁾には、「言語活動で扱う題材は、児童の興味・関心に合ったものとし、国語科や音楽科、図画工作科など、他の教科等で児童が学習したことを活用したり、学校行事で扱う内容と関連付けたりするなどの工夫をすること。」と示されている。本単元では地域を題材として扱っている。本実践の調査研究協力校では、地域にあるものを調べたり、地域のよさを考えたりする学習は、社会科や総合的な学習の時間で行っている。また、国語科でまちのよさを伝えるパンフレットを作成し、修学旅行先で渡すという活動も行っている。地域についての学びを重ねてきている児童だからこそ、地域への思いや願いをもつことができ、それを伝え合うことができると考えた。また、第3学年及び第4学年の国語科における、相手に伝わるように、理由や事例等を挙げながら、話の中心が明確になるよう文章の構成を考える学習をいかすこともできる。まちのよさが相手に伝わるように、相手を意識して理由や事例を選んだり、文の順番を組み変えたりするという思考が生まれるので、伝えたいことを整理して話すという目指す資質・能力の育成に効果的だと考えた。

本時の言語活動に向けて、既習の語句や表現を用いて、自分のまちにある施設、ない施設、施設によって受ける恩恵、自分のまちにほしい施設、ほしいと思う理由を、毎時間ごとに書き溜めてきた。本時では、10年後のまちの様子を思い浮かべ、これまで書き溜めてきたことをもとに、10年後まで残しておきたい施設や欲しい施設を選んだり、伝える内容や文の順番を考えたりして、自分のまちへの思いを表現できるよう授業を組み立てた。

2. 評価・見取り

本時は、「話すこと [発表]」の領域における思考力、判断力、表現力等の資質・能力の育成に焦点化した実践であり、評価規準を「自分の考えや気持ちが伝わるように、伝える内容や順番を考え、既習の語句や表現を用いて発表する文を組み立てている。」とした。複数ある施設から、10年後まで残したい施設やまちに欲しい施設を1つずつ選び、We～. やI～. を用いて理由を表現している姿を、B評価とした。本時は、単元において6時間目の実践である。次の時間に自分のまちに対する思いをポスターに書くことになる。書くに当たっては、「音声で十分に慣れ親しんだ語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする」とある。書く内容を決めるために、自分が伝えたいことを整理しながら既習の表現を用いて話すことが大切であり、その姿を評価対象とするのは、適

切な設定であったと考える。

実践の中で、「自然ってなんて言えばいいのかな。“green”かな。」「埼玉アリーナみたいな施設が欲しいのだけれど、“gym”でいいのかな。」と、伝えたいことを自分が知っている語句の中から見出そうとする姿があった。また、実践後の振り返りからは、「どんな言葉を使えばよいかを考えながらできた。」「語の順番や言い方が違うと、自分の伝えたいことが伝わらなくなる。」「文のつなげ方を覚えた。」という感想が見られた。これまで個別に学習してきた表現が、文の組み立てを考えることで統合され、文のつながりを意識して組み立てるようになったと考えられる。さらに、児童が文を発表したときに、教師が「なぜ“can”ではなく“enjoy”を使ったの。」等、表現の工夫に着目した問い返しをすることで、児童の考える視点が共有され、自分の気持ちが伝わる表現を吟味できるようになっていくと思われる。

一方で、施設のよさを、“We can～.”ではなく“I can～.”で表現する児童が多かった。We と I の違いを区別し、「よさ」を「できること」として考えることができなかつたものと思われる。そのため、図 2-2-1 のようなワークシートを活用し、「よさ」を「みんなができること」として考えていくことで、まちのよさを“We can～.”でも表現できるようになるとと思われる。

また、本時の主たる言語活動では、クラスの友達に伝える場面を設定していたが、相手を意識して施設や理由を選ぶという姿があまり見られなかつた。同じまちに住むため、何ができるかを紹介する必要性や、それを英語で伝える必要性を感じることができなかつたものと考えられる。そのため、言語活動を、

「まちのよさや、まちに欲しいものを外国人に伝える」とし、目的を「お互いの住むまちの様子や、まちへの思いを知る」、場面を「外国の人との交流」、状況を「まちに来た ALT に自分のまちのよさや、まちへの思いを話す」と変更する。外国の人に伝えるという場面を設定することで、英語でまちを紹介する目的や相手意識をもって考えることができるようになると思われる。

本実践の評価場面をペアで発表している場面と設定したが、一人一人を見取することは難しかった。あらかじめ評価しようとする児童を決めておき、振り返りの場面で発表させる、ワークシートで文章の変化を見る、振り返りの中で思考過程を表現させる等、振り返りの場面を工夫することで、適切な評価や児童への働きかけが実現できたのではないかと考える。

まちにあるものと、そのよさを考えよう	
まちにあるもの	みんなができること

図 2-2-1

[児童が作成したポスター]



3 調査研究協力校における実践を通して明らかになったこと

学習活動例の開発と実践、検証から見えてきたことは次の通りである。

(1) 育成を目指す資質・能力の明確化について

- ・児童の実態を把握し、発達段階や既習事項を踏まえることが、適切な設定につながる。
- ・目指す資質・能力が育成されるような言語活動を設定することが大切である。
- ・育成を目指す資質・能力が身に付いている姿を、言語活動での児童の姿として具体的に表現することが、適切な評価につながる。

(2) 評価場面、評価の在り方について

- ・目標と評価の整合性を図り、言語活動を通して育成を目指す資質・能力を身に付けている児童の姿で評価規準を設定する。
- ・単元だけでなく、1単位時間の授業においても評価する領域や評価する資質・能力を絞ることで、焦点化して指導することができる。
- ・単元の各段階で、目指す資質・能力の育成に向けた指導を適切に行い、積み上げていくことが、単元で育成を目指す資質・能力を身に付けることにつながる。
- ・評価規準を児童と共有することで、児童自身が目標を意識して取り組むようになる。また、振り返りをする際もそれを視点として振り返ることができる。
- ・やり取りや読む活動を評価場面とすると、1時間の授業の中で全員を見取ることが難しくなる。児童の実態を大まかに捉え、どこでどの児童を評価するのか、事前に計画を立てておく必要がある。
- ・多様な評価方法で児童の様子を記録しておくことが、適切な評価につながる。
- ・ティーム・ティーチングで行う際は、指導者間の役割を明確にしておくことで、児童への適切な評価や働きかけができるようになる。

(3) 言語活動とそれにつながる学習活動について

- ・言語活動につながる意識をもたせた練習を位置付けることで、児童が練習そのものへ積極的に取り組もうとする。そのような練習を経て行われる言語活動では、児童が自分の考えや気持ちを伝え合っており、伝え合おうとする意欲も高くなる。
- ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を意識し、それらに応じて思考、判断、表現するという経験を児童が繰り返すような授業づくりを行う必要がある。特に高学年においては、児童が既習の表現を想起し、自分の考えや気持ちを伝えようと試行錯誤することが重要であり、そのことを児童と指導者が共有し、指導者は児童が思考、判断、表現する場を継続的に仕組んでいくことが必要である。

(4) ALT等との連携について

- ・目指す児童の姿、本時で行う言語活動とそのねらいを共有する。
- ・ALT等の「出と待ち」を考え、役割分担を明確にする。
- ・児童の学習状況について気付いたことを伝え合う。

学習活動例の開発と実践、検証を通して、児童や指導者の姿から得られたこと、気付かされたことがたくさんあった。これらのことを、ハンドブックの作成と研修プログラムの開発に反映させていく。

第3章 ハンドブックによる支援

1 ハンドブックの作成について

(1) ハンドブックの趣旨と構成

小学校英語教育を推進するための支援策として、ハンドブックを作成した。

第1章で触れたが、本県の小学校英語教育についての校内研修の回数は十分実施できているとは言い難い。さらに、小学校英語教育を研究対象としている学校とそうでない学校では、平均値では表しきれない開きがあると推測できる。

また、小学校教員の多くは、自身が外国語教育、とりわけ英語科の教科指導を行うことになるとは思っていなかったはずである。英語の指導力や自身の英語力を十分に発揮できる人もいれば、苦手意識をもって臨んでいる人がいることも事実であろう。そうしたことを踏まえ、どの学校も、どの教員も、小学校英語教育の基礎を理解でき、育成を目指す資質・能力やそれに向けた学習活動を児童の姿で具体的に共有できるハンドブックを作成し、配付することとした。

ハンドブックは、第1章で述べた学校ニーズへの対応として理論編と実践編の2部構成とした。

理論編作成のねらいは、新学習指導要領解説の目標や内容等の周知と学習活動例につながる年間指導計画・単元構成・1単位時間の授業づくりに係るポイントの提示である。

外国語教育では、目標における「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」等の関係性の理解が不可欠であり、内容においても関連付けた指導が求められている。現行学習指導要領の外国語活動とは異なる観点で示されたものであるため、理論編に記載した（p.46、p.47）。また、外国語教育では、外国語活動・外国語科の目標と英語の領域別の目標が示されている。様々な教科の指導に当たる小学校教員にとっては、理解が難しいと感じることの1つであると考え、それらのつながりについても図式化して記載した（p.47）。

年間指導計画等については、第6学年の例を取り上げた。各学校における領域別の学年ごとの到達目標と関連付けた年間指導計画、その内の1単元について単元構成を示し、さらにその中の1単位時間を本時として展開例を挙げた（pp.47-50）。この本時の主たる言語活動の場面は、学習活動例⑬へとつながる（p.63）。一連の作成過程を踏まえて、具体例と共にポイントを明示することで、学校で実際に作成する際に役立つものになるのではないかと考えた。

また、ハンドブックを窓口にして小学校外国語教育への理解をさらに進めてほしいと考え、外国語教育に係る資料を5つ示した（p.43）。特に、新学習指導要領解説と研修ガイドブックについては関連するページも記載した。

実践編作成のねらいは、育成を目指す資質・能力やその育成に向け効果的な言語活動、その言語活動に向かうまでに必要だと考える学習活動、外国語活動・小学校外国語科・中学校外国語科の接続について、授業における具体的な児童の姿とともに示し、外国語活動・小学校外国語科の授業を分かりやすく伝えることである。

実践編には、外国語活動について6つ、外国語科について8つ、計14の「学習活動例」を載せている（p.44）。この学習活動例は、第2章で示した学習活動例の開発と実践、検証を経て、改訂した内容を記載した。第2章の2調査研究協力校における実践、検証の通り、各単元を構成する際は、評価対象とする領域を1～2領域に焦点化し実践を行った。その単元における学習活動の1つを学習活動例として示した。ハンドブックには、育成を目指す資質・能力をより明確にするため、さらに評価対象とする領域を1領域に絞り、観点も1つにして記載した。

外国語活動・外国語科で育成を目指す「学びに向かう力，人間性等」は、「知識及び技能」「思考力，判断力，表現力等」と一体的に育成するものであり、その評価の在り方についての指針が示される以前に学習活動例の開発と実践、検証を行ったため、一事例としては示さないこととした。

この14の学習活動例を取り上げるに当たっては、外国語活動の3領域、小学校外国語科の5領域を評価対象とした単元をバランスよく扱うこととし、さらに、次の7つの視点で単元を選定した。

- ・外国語活動の初期と終末段階及び小学校外国語科の終末段階を示す単元
- ・外国語活動において大切にしたい、体験を通した言語や文化等への理解、英語のリズムや音声、イントネーション等への慣れ親しみ、アルファベットとの出会い等に係る単元
- ・小学校外国語科において新たな言語材料として示された三人称単数の主語の中の he / she を用いた表現や過去形を含んだ表現を扱う単元
- ・各学年の教材で扱われている絵本を活用した単元
- ・他教科との関連に係る単元
- ・円滑な小中連携に関わる単元

学習活動例については、ハンドブックの【学習活動例の見方】に観点や領域、活動内容を一覧表にして示した。教員がいち早く情報を得たい場合には、そこから学習活動例に辿り着けるようにしている。<「学習活動例」のページの構成>には、項目の説明を記載し、共通認識に立って読み進めてもらえるように考えた(p.44)。

【言語活動】や【言語活動に向かう学習活動】の説明にもあるように、どの単元でどの時間に取り組むか、1単位時間のどこに位置付けるか等は、それぞれの授業で柔軟に考えられるようにした。学習活動例で示す活動はあくまでも一例である。ハンドブックを参考に、児童の実態、学習履歴等を踏まえて言語材料を精選し、目指す資質・能力の育成に効果的な言語活動を設定して学習活動を組み立て、授業実践を積み上げてほしいと考える。

また、学校ニーズに含まれていた ALT 等との連携については、そのポイントを理論編(p.50)に示すとともに、実践編においても具体的な授業への関わりを示している。

裏表紙には、Classroom English をまとめた。授業前の教材研究の段階だけでなく、授業中でも確認しやすいように、裏表紙に学習の流れに沿って主な表現を示した。これまでの外国語活動で使われてきた児童を褒めたり励ましたりする表現や指示する際に用いる表現に加え、発表を促したり児童の思考や判断、表現を引き出したりする表現も加えている。これらを用いて、指導者自身が児童とやり取りしていくことは、英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする姿勢を児童に示すことになり、また指導者の英語力の向上にもつながると言える。指導者が繰り返し Classroom English を用い、聞き慣れた児童も使い始めることが想定される。児童の発達段階を踏まえて、Classroom English を効果的に活用し、指導者だけのものではない Classroom English となることを願っている。

(2) ハンドブック本編

(1)の趣旨等を踏まえて作成したハンドブックの本編を次に示す。

山形県 小学校外国語教育 ハンドブック



グローバル化が急速に進展する中で、外国語によるコミュニケーション能力は、これまでのように一部の業種や職種だけでなく、生涯にわたるさまざまな場面で必要となることが想定されます。

小学校の第3学年及び第4学年で外国語活動、第5学年及び第6学年で外国語科が始まるに当たり、このハンドブックを活用し、山形県の小学校外国語教育を充実させていきましょう。そして、中学校、高等学校等の外国語教育へバトンをつなぎ、10年後、20年後、さらに国際化が進んだ社会の中で生き生きと活躍する子供たちを育てていましょう。

山形県教育センター



県教育センター
イメージキャラクター
「せんたん」

本ハンドブックを活用するにあたって

本ハンドブックは、**理論編** と **実践編** の2部構成です。
関連するページを、

理論編へは：➡ p.○，実践編へは：➡ p.○と示しています。

外国語教育に係る資料にも関連付けを図り、

学習指導要領解説へは：➡ 解説p.○，

小学校外国語活動・外国語研修ガイドブックへは：➡ ガイドp.○と示しています。

【小学校外国語教育に関するギモン!?】

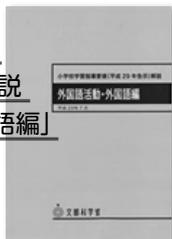
以下のギモン!? で気になる項目があれば、該当ページへGO!

- | | | |
|-----------------------------------|---|--------|
| ① 外国語教育における言語活動って、なに？ | ➡ | p.4 |
| ② 小学校外国語教育の評価はどうするの？ | ➡ | p.4 |
| ③ 学習到達目標って、なに？ | ➡ | p.5 |
| ④ 単元の構想って、どうするの？ | ➡ | p.7 |
| ⑤ ALT等と連携してチーム・ティーチングをするときのポイントは？ | ➡ | p.8 |
| ⑥ 具体的にどんな学習活動ができるかな？ | ➡ | p.9～22 |
| ⑦ どんなクラスルーム・イングリッシュを使おうかな？ | ➡ | 裏表紙 |

【外国語教育に係る資料】

授業や校内研修の充実に向け、以下のような資料も活用してください。

- ① 小学校学習指導要領・
小学校学習指導要領解説
「外国語活動・外国語編」



- ② (A) 小学校外国語活動・外国語
研修ガイドブック

※文部科学省のHPよりダウンロードできます



- (B) 小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック実践編
MEXT Channel

教員の学習用動画コンテンツ

- ★Small Talk
- ★発音トレーニング
- ★クラスルーム・イングリッシュ
- ★基本英会話
- ★スピーキング・トレーニング

- ③ MEXT Channel

外国語教育はこう変わる!シリーズ



※10～15分の短編集

(授業ダイジェスト動画等)

※PC，スマートフォン，
タブレット視聴OK



- ⑤ 山形県教育庁義務教育課発行

小学校外国語活動・外国語リーフレット，
中学校外国語リーフレット

※県教育センターのHPよりダウンロード
できます



- ④ 教職員支援機構 (Nits) 校内研修シリーズ



【実践編「学習活動例」の見方】

実践編には、①～⑭までの14の「学習活動例」を載せています。下の表は、その一覧です。このハンドブックでは、領域別の学年ごとの目標を焦点化して単元を構成しています。○印は、「学習活動例」の実践を通して評価対象とする領域を示しています。

学 習 活 動 例 (育成を目指す資質・能力の観点)	評価対象とする領域					ページ ➡
	聞く	読む	話す [やり取り]	話す [発表]	書く	
①外活 外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさを知る (知)			○			p.9
②外活 英語の音声やリズム等に慣れ親しむ (知)	○					p.10
③外活 物語を聞き、自分の考えを伝え合う (思)	○					p.11
④外活 アルファベットに慣れ親しむ (知)			○			p.12
⑤外活 異なる文化をもつ人々との交流等を体験し、文化等を理解する (知)			○			p.13
⑥外活 慣れ親しんだ表現を用いて、自分の日常生活について伝える (思)				○		p.14
⑦外 文字の形の特徴を捉えて大文字を活字体で書く (知)					○	p.15
⑧外 聞き取ったことを整理して、第三者ができることについて伝える (思)				○		p.16
⑨外 文字と音を結び付けて、英語の意味を推測しながら読む (思)		○				p.17
⑩外 英語と日本語の語順の違いに気付き、語順を意識しながら書く (思)					○	p.18
⑪外 音声で十分に慣れ親しんだ基本的な表現を推測しながら読む (思)		○				p.19
⑫外 他教科での学びを生かし、伝えたい内容を整理した上で伝える (思)				○		p.20
⑬外 過去形を含む基本的な表現を用いて、思い出を伝え合う (知)			○			p.21
⑭外 身近な事柄についての話を聞き、内容を整理した上で伝え合う (思)	○					p.22

＜「学習活動例」のページの構成＞

【育成を目指す資質・能力】
領域、観点を1つに絞り示しています。

【言語活動】
目指す資質・能力を育成するために効果的な言語活動の一例です。(単元のゴールとなる言語活動以外を想定している場合もあります。)
コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を設定し明記しています。

指導のポイント!
学習活動の進め方や指導の重点等を説明しています。

言語活動のポイント!
言語活動のねらいや行う際の留意点を説明しています。

評価規準
言語活動を通して、育成を目指す資質・能力を身に付けている児童の姿で設定しています。
なお、【言語活動】の欄の太字の部分は、評価規準を満たす具体的な児童の姿です。

【言語活動に向かう学習活動】
上段の言語活動を行うために必要な学習活動(言語活動や練習)の一例です。

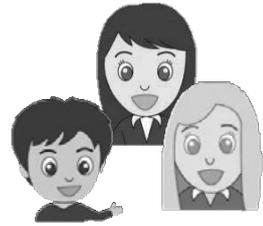
【学びの接続】
中学年の児童(👧)・高学年の児童(👦)・中学生(👦)等が登場し、外国語教育のつながりを話しています。

～学習活動例の実践等に御協力いただいた調査研究協力校～

山形市立南小学校 新庄市立沼田小学校 南陽市立沖郷小学校 酒田市立南平田小学校

新学習指導要領に関わって

平成29年3月告示の学習指導要領において、中学年に外国語活動、高学年に外国語科の導入が示されました。新学習指導要領のポイントを整理して、実践につなげていきましょう。



【学習指導要領改訂の趣旨】

小学校では平成23年度から高学年に外国語活動が導入され、児童の高い学習意欲や外国語教育に対する積極性の向上といった成果が認められています。一方で、音声中心に学んだことが、中学校段階で音声から文字への学習に円滑に接続されていないなど、外国語活動での学びが中学校の外国語教育にうまく生かされていないことが課題として挙げられます。

こうした成果と課題を踏まえ、中学年から「聞くこと」「話すこと」を中心とした外国語活動を通じて外国語に慣れ親しみ、外国語学習への動機付けを高めた上で、高学年から発達に応じて段階的に文字を「読むこと」「書くこと」を加えて、総合的・系統的に扱う教科学習を行うとともに、中学校への接続を図ることが求められています。 ➡ 解説 p.6, p.62 ➡ ガイド p.12

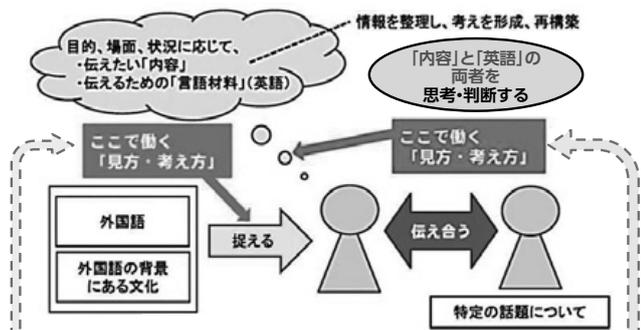
【外国語教育で育成を目指す資質・能力】

外国語活動・小学校外国語科では、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による各領域の言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地／基礎となる資質・能力の育成を目指す」ことを目標とし、育成を目指す資質・能力が、3つの柱から明確に設定されています。小学校・中学校・高等学校の学校間の学びの接続に留意しながら指導することで、小学校・中学校・高等学校で一貫した目標を実現できるようにします。各段階での育成を目指す資質・能力とその系統性を正しく理解することが重要です。 ➡ 解説 p.7, p.63 ➡ ガイド p.15

【外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせるとは】

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方とは、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」であると示されています。

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方は、右の図に示してあるように、外国語で他者とコミュニケーションを行う際、次の2つの過程において働くと考えられます。



外国語やその背景にある文化を捉えるときに働く「見方・考え方」

言語材料を捉える際、その言語材料を1対1の対応で日本語訳するのではなく、場面や文脈の中で、相手意識をもって捉えるようにすることが大切です。

そのような捉え方を児童の中に育むことが、「伝え合う」という段階に至る上で必要です。

※「見方・考え方」は一体的です。ここでは便宜的に2つに分けて説明しています。

伝えたい内容を伝える（伝え合う）ときに働く「見方・考え方」

何かを伝え合う際、「何を伝えるか」と「英語でどのように伝えるか」の両者を考えることが必要です。目的や場面、状況などに応じた、より適切な内容を考えることや、既習の言語材料を活用したり伝えたい内容を表現できる形に変換したりして、何をどのように伝えるかを考えることが大切です。

そのような考え方を児童の中に育むことが、「伝え合う」上で重要です。

（「中学校外国語（英語）教育の一層の充実を目指して2」2018年7月（文部科学省 山田誠志調査官）をもとに作成）

【外国語教育における言語活動】

「言語活動」という文言は、新学習指導要領において、外国語活動・小学校外国語科の目標のみならず、中学校・高等学校の外国語科の目標にも記されているものです。

言語活動とは、

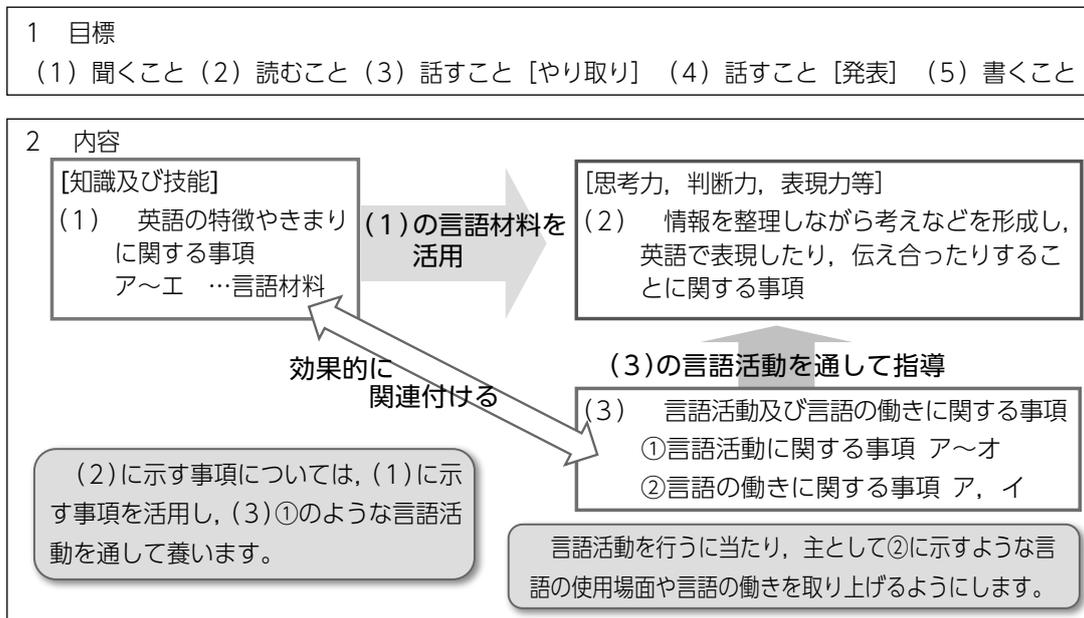
「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」 活動です。

➡ ガイド p.23

各単元や各時間の指導に当たっては、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確にし、言語活動を設定します。コミュニケーションを図る素地／基礎となる資質・能力はこの言語活動を通して育成を目指します。（本ハンドブックでは、「目的」「場面」「状況」をより明確にするため、3つに分けて明示する試みをしています。）

また、言語活動を行う際は、2 内容〔知識及び技能〕（1）に示す事項／言語材料について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行います。

<新学習指導要領の内容構成の整理（小学校外国語科の「英語」の例）>



（「新小学校学習指導要領における外国語活動及び、外国語科の指導の在り方の要点」2018年3月（文部科学省 直山木綿子視学官）をもとに作成）

【小学校における外国語活動・外国語科の評価】

目標に準拠した評価のための観点（観点別評価）は、次のように整理されました。

<平成20年3月告示 学習指導要領>

言語や文化に関する気付き
コミュニケーションへの関心・意欲・態度
外国語への慣れ親しみ



<平成29年3月告示 学習指導要領>

知識・技能
思考・判断・表現
主体的に学習に取り組む態度

学習評価については、日々の授業の中で児童の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことが重要です。観点別の学習状況を記録に残すことについては、毎回の授業ではなく原則として単元や題材などの内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場面を精選することが重要です。

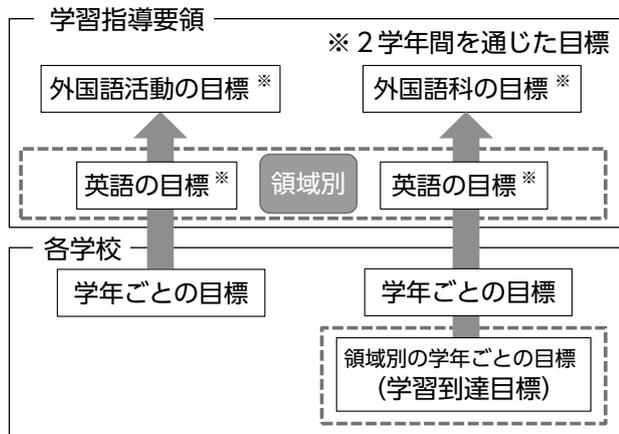
なお、指導要録の記録については、外国語活動では数値による評価は行わず、観点到照らして、顕著な事項がある場合にその特徴を記入する等、児童にどのような力が身に付いたかを文章で端的に記述することとしています。

学年ごとの目標・学習到達目標の設定について

2 学年間を通じて外国語活動・小学校外国語科のそれぞれの目標の実現を図るため、各学校における児童の発達の段階と実情を踏まえ、学年ごとの目標を適切に定める必要があります。

その際、外国語科においては、領域別の目標が「～することができるようにする」と明確に示されたことにより、領域別の学年ごとの目標を、学習到達目標として設定する必要があります。

→ 解説 p.43, p.123



【学習到達目標の設定】 <第5 学年及び第6 学年 英語の「話すこと[やり取り]」の例>

学習指導要領の領域別の目標	話すこと[やり取り]
ア	基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができるようにする。
イ	日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。
ウ	自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする。



各学校において設定した領域別の学年ごとの目標

	学習到達目標 (※CAN-DO リスト形式) 話すこと[やり取り]
6 年	① お願いをしたり、それに応じたり断ったりすることができる。 ② 身近な事柄について、その場で質問をしたり答えたりすることができる。
5 年	① 話す相手に合わせて、挨拶をすることができる。 ② 身近な事柄について、自分の考えや気持ちを伝え合うことができる。

第5 学年及び第6 学年の英語では、外国語科の目標を踏まえ、領域別の目標が設定されています。その領域別の目標の実現を目指した指導を通して、外国語科の目標に示されている「知識及び技能」及び「思考力、判断力、表現力等」を一体的に育成するとともに、その過程を通して、「学びに向かう力、人間性等」を育成する必要があります。この考え方は、外国語活動においても同様です。

→ 解説 p.18, p.75

※CAN-DO リスト形式の学習到達目標…学習到達目標を「児童が英語を使って何ができるようになるか」という観点で領域別に表したものの。

学習到達目標を設定する際には、次の<山形県が目指す英語教育の目標>も参考にしてください。

<山形県が目指す英語教育の目標>

自分を表現！郷土を発信！「英語を用いたコミュニケーション能力」の育成

<目指す児童像>

自分のことや身近で簡単なことについて、慣れ親しんだ英語を使って自分の気持ちや考えを伝え合う

<目指す教師像>

児童とともに英語を使いながら「活動」と「教科」のねらいに沿った授業を行うことができる

年間指導計画の作成について

年間指導計画の作成に当たっては、外国語活動や小学校・中学校・高等学校の外国語科における指導との接続に留意した上で、児童の興味・関心や学校等の実態に合わせ立案していくことが大切です。
 解説p.41, p.121 ガイドp.94

【年間指導計画】<第6学年 年間指導計画の例>

単元で重点化する領域を絞り、年間を通して、領域に偏りがないようバランスを図ります。

月	単元名	時数	単元目標	言語材料例 ※下線部は新出表現 ★新出語句	主な領域 (学習到達目標との関連)					備考
					聞	読	聴	観	書	
5	Welcome to Japan. 日本の文化	8	...	Please tell me about Japan. <u>Welcome to Japan.</u> <u>In (summer), we have (a fireworks festival).</u> What [food / games] do you have in Japan? <u>We have (soba / fukuwarai).</u> It's [delicious / fun]. <u>You can enjoy (rakuo / hanami / tempura).</u> ★culture, castle, fireworks, enjoy, popular, traditional, 日本の行事, 味覚 (sweet, bitter, ...), soft, hard	①	①				社会
6	He is famous. She is great. 人物紹介	8	...	I am (Ken). I [like/play] [the violin/baseball]. I [have / want] a new [recorder/ball]. I eat (spaghetti). I study (math). I can (play baseball well). Who is this? [He/She] is [famous/great]. ★famous, old, 身の回りの物 (racket, computer, ...)						
7										
8	My Summer Vacation 夏休みの思い出	8	...	<u>I went to (my grandparents' house).</u> <u>I enjoyed (fishing).</u> <u>I saw (the blue sea).</u> <u>I ate (ice cream).</u> <u>It was (fun/...).</u> ★動詞の過去形, grandparent, vacation, 自然 (beach, ...), zoo, 動作 (hiking, ...)						
9				We have/don't have (a park). We can (see many flowers). We can enjoy (fishing/...). I want a [library/park]. (Yamagata) is nice. ★施設と建物 (aquarium, ...), nature, 動作 (dancing, ...)						国語 総合
				What do you want to watch? I want to watch (wheelchair basketball). I like basketball. <u>Are you good at (basketball)?</u> Yes, I am. /No, I'm not. ★Olympic games, Paralympic games, evening, 国名, スポーツ・競技名 (wheelchair [tennis/marathon], ...)						
12	My Best Memory 小学校の思い出	8	...	<u>What's your best memory?</u> <u>My best memory is (sports day).</u> We enjoyed (running). We [went to (Kyoto)/ate (Japanese food)/saw (old temples) / enjoyed (the trip)]. It was (fun/...). ★行事 (sports day, ...)				②	①	卒業 アルバム
1										
2	What do you want to be? 将来の夢・職業	8	...	<u>What do you want to be?</u> I like (animals). I want to be a (v...) can (play the piano well). I am good at (p...) piano).				②	①	

肯定文の“We have ~.”を学習した後に、否定文の“We don't have ~.”を扱う等、言語材料については、平易なものから難しいものへ段階を経て取り扱います。

→ p.7

went to / saw / ate 等の動詞の過去形を含む表現を繰り返し用いることで、より深い理解を促し、表現の運用能力を高めていくようにします。→ p.21

「学年ごとの目標と関連付けられた学習到達目標」と「単元の目標」との関係を明らかにし、○数字を示します。
○数字は、p.5の第6学年の学習到達目標①、②を表しています。

他教科等で身に付けた資質・能力を活用できるように、他教科等との関連を明らかにします。→ p.20

学校行事等との関連を考慮し、指導時期を考えた単元を配列します。

単元構成について

以下を基本にして、単元を構想しましょう。 ➡ 解説p.53, p.132
➡ ガイドp.38, p.176

① 単元の目標を設定する

領域別の学年ごとの目標を踏まえ、単元の目標を設定します。その際、年間指導計画において重点化した領域を考慮します。

② 単元のゴールとなる言語活動を設定する

目指す資質・能力を育成することができる言語活動を単元のゴールに設定します。その際、言語材料と言語活動とを効果的に関連付けます。

③ 目指す児童の姿で評価規準を設定する

単元のゴールとなる言語活動において、何をどのように表していればB評価とするのか、資質・能力を身に付けている児童の姿を具体的に想定して評価規準を設定します。

④ 必要な学習過程を組み立てる

ア 単元の見通しをもたせる

単元のゴールとなる言語活動において、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を理解させ、見通しをもたせます。

イ 各時間に言語活動を位置付ける

右の例では、単元のゴールに設定した言語活動「My Best Memoryを伝え合ったり書いたりする」に向けて、4～6時間目には、学校行事の一部を題材とした言語活動を配列しています。

それぞれの言語活動を通して、言語材料の習得・活用を繰り返し、単元のゴールに設定した言語活動において活用できるようにします。

ウ 言語活動に必要な語句や表現に出会わせ、練習する活動を仕組む

例えば、5時間目では、修学旅行の思い出を伝え合うために、前時まで扱った語句や表現を中心としながら、さらに他の語句や表現（新出または既習）に出会わせます。言語活動においてこれらの表現を用いることができるよう、I went to ～. 等の目的語に当たる言葉を入れ替えて話す練習をする活動も仕組めます。

エ 学びを振り返らせる

本単元における自己の変容や意欲の高まり等を言語面と内容面から振り返らせ、今後の生活や次の学びにつなげます。



<「単元の指導計画」例の一部>

1	単元名	小学校の思い出 (第6学年)
2	単元の目標	① 外国の友達に日本の小学校生活を紹介するために、1年間の学校行事の思い出について、楽しかったことや出かけたこと、食事をしたこと等を伝え合ったり、書いたりすることができる。
3	単元の評価規準	③ (1) 学校行事の名称や My best memory is ～ (学校行事の名称/I went to ～/I enjoyed～/It was～等の表現を理解し、1年間の学校行事の思い出について、それらの表現を用いて、自分の考えや気持ち等を伝え合う技能を身に付けている。また、終止符(.)について理解し、1年間の学校行事の思い出について、大文字及び小文字を正しく書き分けながら、例文を参考に書いている。【知識・技能】 (2) …【思考・判断・表現】 (3) …【主体的に学習に取り組む態度】
4	単元の指導計画 (全8時間)	
時間	主な学習活動 (主な言語活動◎と練習○)	めざす児童の姿 重点 ● 話す[やり取り] 書く 知 思 主 知 思 主
1	ALTの話を聞き、単元のゴールの活動を確認し、学習計画を立てる。 ○自分の感想 (fun, exciting等) を表す語句の練習をする。 ◎自分たちの学校行事を振り返り、感想を伝え合う。	It was ～.の表現を用いて、…
2	○英語の文章の書き方を学習する。 ◎例文を参考に、冬休みの思い出を書く。	終止符(.)について理解し、大文字及び小文字を正しく書き分けながら、…
3	○写真と共に、学校行事を表す言葉を学習する。 ◎心に残る学校行事を伝え合う。	学校行事の名称、It was ～.の表現を用いて、…
4	○運動会の思い出を伝えるために必要な語句や表現を練習する。 ◎運動会の思い出を伝え合う。 ・運動会の思い出を書く。	● 運動会の思い出について、I enjoyed ～. / It was ～.の表現を用いて、…
5	○修学旅行の思い出を伝えるために必要な語句や表現を練習する。 ◎修学旅行の思い出を伝え合う。 ・修学旅行の思い出を書く。 ➡ p.8	● 修学旅行の思い出について、I went to ～. / I saw ～. / I ate ～. / I enjoyed ～. / It was ～.の表現を用いて、…
6	○健康フェスティバルの思い出を伝えるために必要な語句や表現を練習する。 ◎健康フェスティバルの思い出を伝え合う。 ・健康フェスティバルの思い出を書く。	● 健康フェスティバルの思い出について、これまでに学習した表現を用いて、…
7	○自分が伝えたことを伝えるための語句や表現を練習する。 ◎My Best Memoryを伝え合う。	● 日本的小学校生活を紹介するために、My Best Memoryの名称と感想楽しかったこと等について表現を選んで、…
8	○過去形の表現を練習する。 ◎例文を参考に、My Best Memoryを書く。 ・アルバムの内容と書き方について交流する。 ・単元の学習を振り返る。	● 日本的小学校生活を紹介するために、1年間の学校行事の思い出について、例文を参考に自分の考えや気持ち等を書いている。

1 単位時間の授業づくりについて

1 単位時間の授業を構想する際にも前ページの内容を参考にしてください。さらに以下の点も考慮して授業をつくりましょう。

① 目標と評価の整合性を図る

右の例では、話すこと[やり取り]の「知識及び技能」の目標に対して、主たる言語活動における、資質・能力を身に付けている児童の姿を評価対象とし、評価規準を設定します。

外国語教育では、評価対象が聞いたり話したり読んだり音声中心になることが多いので、記録に残すため、評価場面、評価方法、評価対象を明確にして授業に臨むことが必要です。

② 言語活動と練習

言語活動においては、表現方法だけでなく、伝えたい内容も考えさせることが大切です。児童自身が伝えたい内容を主体的に表現するために、必要な言語材料の練習に取り組みるようにします。

③ 課題設定

児童自身が本時で何を学ぶかを理解し、目標を達成するために必要な活動へ主体的に向かえるよう、「問い」をもとに、質の高い学びにつながる「課題」を設定します。

<「本時の指導計画」の例>

- 1 本時の目標
 - ・ 修学旅行の思い出について、I went to/saw/ate～.等の過去形を含む表現を用いて、伝え合うことができる。【知識及び技能】
- 2 展開

学習活動	◎評価規準〈方法〉
1 挨拶をする。	
2 Small Talk	
3 本時の課題をつくる。③	
私の修学旅行の思い出は、I enjoyed ～./It was ～.の他にどんな英語を使えば伝えられるかな。	
4 修学旅行でしたことを伝える表現を練習する。←②	
5 修学旅行の思い出について伝え合う。←②	
T 1 : Let's talk about your school trip. What did you enjoy? → p.21	
S1とS2の挨拶	
S1 : I enjoyed Senso-ji. I saw a red lantern. It was wonderful.	
S2 : Oh, the red lantern. It was big.	
S1 : It was a big red lantern. How about you ?	
S2 : ……	
S1とS2の挨拶	
①◎ 修学旅行について、I [went to/saw/ate/enjoyed] ～./It was～.の表現を用いて、伝え合っている。	
<行動観察>	
6 本時の学習をまとめる。	
修学旅行の思い出を伝えるときに、I enjoyed～./It was～.の他に、I went to(行き先)/I saw(見学したもの)/I ate(食べ物)の英語も使えた。	
7 修学旅行の思い出として I[went to/saw/ate]～.の表現から1文程度を書く。	
8 本時の学習をふり返る。	
9 挨拶をする。	

評価場面での言語活動



ティーム・ティーチングを効果的に活用するためのポイント → ガイドp.108

- ① 単元のゴールとなる言語活動、目指す児童の姿、本時の活動のねらいなどを共有します。
- ② 児童の実情、興味・関心と単元の題材に合った言語活動を行います。
- ③ 児童の学習状況について気付いたことや発見したことを共有し、改善方法を話し合います。

小学校外国語教育における「Small Talk」 → ガイドP.84

Small Talkは、高学年で行う言語活動の1つです。

[主なねらい]

- ・ 既習語句や表現を繰り返し活用する
- ・ 対話を続けるための基本的な表現の定着を図る

[進め方の例]

- ① 指導者と児童で簡単なやり取り(話題、言い出し方を提供します)
- ② 児童と児童でやり取り(共通の話題のもと、まず、取り組ませてみます)
- ③ 指導(児童が言えなかったことについて、児童が既習表現と結び付けて考えられるようなヒントを出し、児童みんなでどう表現すればよいか考えさせます)
- ④ 相手を替えて、児童と児童でやり取り(改めて、既習表現を活用させます)

「活動(まず、児童に取り組ませてみる)→指導→活動(改めて、児童に取り組ませてみる)」という過程は、「Small Talk」に限らず外国語の授業を構想する上で大切にしていきます。

【育成を目指す資質・能力】[話すこと(やり取り)]〈知・技〉 ⇨ 解説 p.13, p.21

気持ちを伝える言葉を使う

【言語活動】

身近な友達と挨拶をし、感情や状態を尋ねたり答えたりします。

《目的》友達と仲良くなる

《場面》朝の挨拶

《状況》その日、同じクラスの友達と初めて会い、様子を尋ねる

S1: Hi,  さん. How are you?

 : I'm happy.

S1: どうして happyなの?

 : だってね、～

言語活動のポイント!

自分の感情や状態を伝え合うためには、その感情や状態に適した言葉を選ぶことが必要です。感情や状態に伴って表された表情やジェスチャーは、言葉を補い、より分かりやすく伝え合うことにつながります。



評価規準 (行動観察より)

感情や状態を尋ねたり、答えたりしている。

【言語活動に向かう学習活動】

How are you?に対して、自分の感情や状態を表す言葉(fine/happy/good/sleepy/sad/hungry/tired/great等)を習得します。

課題

どんな言葉を使うと自分の気持ちが伝えられるかな。

絵カード

T1: 今の自分の気持ちを表すカードはどれですか?



S1:  です。



S2:  です。



T1: Oh, you are hungry.

S1: Hungry!?

T1: Yes, hungry.

S1: Hungry.

T1: You are hungry,

too.

S2: Hungry.



T1: Hi, everyone. How are you?

S1: I'm hungry.

S2: I'm hungry.

T1: 友達の気持ちは伝わりましたか?

 : S1さんのhungryを聞いて、本当におなかですいているんだと思いました。だって、S1さんがしょんぼりして話していたからです。

指導のポイント!

感情や状態を表す絵カードを使い、意味と結び付けながら言葉と出会わせます。その際、感情や状態に伴って表された表情やジェスチャーも取り上げ、相手が伝えようとしていることの理解を助けていることに気付かせます。



【学びの接続】



中学年から英語でのコミュニケーションを体験し、英語で互いの気持ちを伝え合うことはとても楽しいことだなと感じました。高学年ではもっともっと英語を使ったやり取りができるようにしています。

⇨ 解説 p.25

【育成を目指す資質・能力】[聞くこと]〈知・技〉 ⇨ 解説 p.13, p.19

日本語と英語の音声やリズムの違いに気付く

【言語活動】

友達の好みを予想して好きな色を尋ねたり、自分の好きな色を答えたりします。

《目的》友達の好みをを知る

《場面》インタビュー

《状況》クラス替え後、友達と好みを尋ね合う

 : (黄色の筆入れや袋を持っているからな)
Do you like yellow ?

S1: Yes, I do. I like yellow.

T1:  さん、S1さんの好きな色は、どう聞こえましたか。

 : 「yellow(●●)」と聞こえました。
「イエロー(●●●●)」とは違いました。

言語活動のポイント!

英語には、日本語にはない強弱やリズム、イントネーションがあります。その違いに気付く体験を通して、言葉の面白さや豊かさに気付かせていくことが大切です。

そして、言語活動においてその気付きを大切にしながら聞いてまねる活動を継続していきます。

英語らしい音声やリズム等をまねることがまだ不十分でも、その気付きを表現できるように教師が聞き返すなどの働きかけも必要です。



評価規準 (行動観察より)

英語の音声やリズム等を聞き分けている。

【言語活動に向かう学習活動】

指導者の発話やデジタル教材の音声を聞いて、日本語と英語の音を比べます。

指導のポイント!

児童が英語の音声やリズム等に慣れ親しみ、日本語との違いに気付くことができるように、複数の語句を聞き比べさせます。

ここでは第3学年の初期の学習活動を想定し、簡単な語句を取り上げています。英語特有の音声やリズム等に触れられるよう扱う語句を考慮します。



課題 日本語と英語の音は、何がちがうのかな。

 : 英語のorangeの音は強いところがあるね。
日本語のオレンジの音は上げ下げがあるね。

S1 : 英語のorangeは●●で、日本語のオレンジは●●●●に聞こえます。他の色の音はどうかな?

	パープル	Purple	
	グリーン	Green	
	ホワイト	White	

S2 : 英語のwhiteは、なめらかにまとまって聞こえるな。日本語のホワイトは1つ1つの音が分かれているように聞こえるぞ。

S1 : White. 英語らしく聞こえた?

【学びの接続】



中学年では、ゆっくり、はっきり、たっぶり聞いて、簡単な言葉から分かるようになりました。高学年でもたっぶり聞いて、文も聞き取ることができるようにしています。

⇨ 解説 p.19

【育成を目指す資質・能力】[聞くこと]〈思・判・表〉 ⇨ 解説 p.14, p.19

話を聞いて、簡単な語句を聞き取る

【言語活動】

絵本(『Who are you?』)の読み聞かせを聞き、登場する動物を見つけます。

《目的》物語を楽しむ

《場面》読み聞かせを聞く

《状況》隠れている動物を聞いて推測する

T1 : I see something white.
I see something black.
I see something long.
Are you a …?

 : White …
見つけた! これは耳かな?

 : Rabbit!

言語活動のポイント!

絵本の読み聞かせを行い、Are you a…?の問いかけに対して、児童が隠れている動物を見つける等して物語を楽しみます。

動物を探す手掛かりとなるのは、色や形、状態等を表す語句です。これらの語句を聞き取らせ、絵と結び付けるようにします。その際、ICT機器等を用いることにより、一人一人の気づきが共有しやすくなります。



評価規準 (行動観察より)

物語を楽しむために、色や形、状態等を表わす語を手掛かりにし、隠れている動物を答えている。

【言語活動に向かう学習活動】

絵本の読み聞かせを聞き、色や形、状態等を表す語句に慣れ親しみます。

指導のポイント!

児童は、色や形、状態等を手掛かりとしながら隠れている動物を探します。児童がsquareに着目した際、実際の図形を使って語句の意味を確かめたり、他の形を表す語句に慣れ親しむ活動を取り入れたりすることもできます。また、scary等の状態を表す語句に着目した際には、表情やジェスチャーで示してその意味を推測させる等、簡単な語句に慣れ親しませながら読み進めるようにします。



課題 どの言葉に気を付けて聞くと隠れている動物が分かるかな。

読み聞かせをしながら

T1 : … square. Are you a …?

 : Square?

T1 : Square. (ジェスチャーで示す)

 : Square!

T1 : Where is the “square”?

S1 : Square! (指差しながら) It’s a cow.

T1 : Good! This is a square.

T1 : What’s this?



(circle)



(triangle)



(diamond)



(star)



【学びの接続】



中学年では、どうすれば相手に伝わるかを考えて、語句や表現を繰り返したり、英語に合わせて表情やジェスチャーを付けたり、実物を見せたりしました。高学年でも、相手や目的等を考えて一生懸命伝え合っています。

➡ 解説 p.27

【育成を目指す資質・能力】[話すこと(やり取り)]〈知・技〉 ⇨ 解説 p.13, p.22

相手に配慮しながら，文字を伝え合う

【言語活動】

言葉に含まれるアルファベットの文字を尋ね合い、友達の選んだ言葉を考えて答えます。

《目的》友達が選んだ言葉を当てる

《場面》言葉当てゲーム

《状況》言葉に含まれるアルファベットを友達から聞き出す

S1 : Do you have a "w"?

 : No, I don't. I don't have a "w".

S1 : Do you have a "b"?

 : Yes, I do. I have a "b".

言語活動のポイント!

S1のアルファベットの名称を表す読み方を聞いて、どのアルファベットかが分かり、選んだ言葉にその読み方をするアルファベットが含まれているかを判断して、I have~/I don't have~. で答えます。

確かに伝わっているか相手の様子を見て、繰り返したり、多様な方法でアルファベットを表したりしながら、やり取りをします。



評価規準 (発表, ワークシートより)

相手に配慮しながら、動作を交える等してアルファベットの文字について答えている。

【言語活動に向かう学習活動】

身の回りにある活字体の文字で表されているものを使い、小文字とその読み方に慣れ親しみます。

指導のポイント!

小文字と大文字の比較を通して、既習の大文字の名称を表す読み方で小文字を読んだり、形の共通点や相違点に気付いたりすることができるようにします。

また、小文字の特徴を捉えて指で表したり、示された文字を読んだりする等、多様な活動を通して、小文字とその読み方に慣れ親しませます。



課題 アルファベットの小文字は、大文字とどう違うのかな。

a	supermarket	SUPERMARKET	z
b	S1 : 小文字のplは、大文字のPと同じ形だね。		y
c	S2 : e, r, aは、E, R, Aの小文字か。		x
d	S3 : s, u, e, m, k, tは、大文字と似ている。		w
e	S1 : pを反対にすると、qになるね。		v
f	形を表わすと		u
g		はpで、qは	t
h		だよ。	s
i	S2:		r
j	は?	S3 : それは、d。	
k			
l			
m			
n			
o			
p			
q			
r			

【学びの接続】



中学年では、体験しながら大文字と小文字の違いを理解したり、日本語と英語との音声の違いに気付いたりしました。言葉の大切さや豊かさに気付くことは、高学年での聞く力や話す力につながっています。

⇨ 解説 p.13

【育成を目指す資質・能力】[話すこと(やり取り)]〈知・技〉 ⇨ 解説 p.13, p.21

言語の背景にある文化への理解を深める

【言語活動】

外国の遊びを知り、友達と一緒に遊びます。
 《目的》外国の遊びを楽しみ、異文化を知る
 《場面》遊び『Pin the Tail on the Donkey』
 (活動する場所に合わせて実施)
 《状況》ロバの尻尾の位置を、目隠ししている
 友達に指示する

S 1 : Right, right, right, stop.

 : Left, left, stop.

S 2 : Up, up, down.

S 3 : Here?

S 1, , S 2 : Please open your eyes.

T 1 : ALT の先生の国の遊びを体験して、どう
 でしたか。

 : 外国の遊びだけど、日本の「福笑い」に
 似ているなあと思いました。

言語活動のポイント!



簡単な語句を用いながら、外国や日本の文化等について体験的に理解を深めることが大切です。

『Pin the Tail on the Donkey』は、台紙に描かれたロバの絵に、目隠しをした児童が周りの児童の指示を聞いて、尻尾の切り抜きを合わせるゲームです。

外国の遊びやその中で用いる言語を ALT 等と相談し、効果的な教材を探してみましょう。



評価規準 (発表, ワークシートより)

日本と世界の生活等の共通点や相違点に気付いている。

【言語活動に向かう学習活動】

Go straight. /Turn [right/left].
 等の動作を伴って学習した基本的な表現を用いて、学校を案内します。

指導のポイント!

校舎の平面図等を使って案内する活動を通して、学習した基本的な表現に慣れ親しませていきます。
 示された方向をなぞらせる等して理解を確かめます。



課題 left や right を使うと学校を案内できるかな。

T 1 : You are at the entrance. Turn right and go straight.
 Turn right again and go straight. Then you can find my favorite room. I like this room.

 : It's the gym. I like the gym, too.

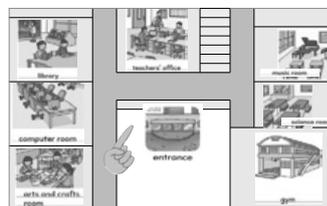
T 1 : Nice! What sports do you like?

 : I like basketball.

T 1 : Me, too. Next, let's go to the library. Let's guide your friend.

 : You are at the entrance. Turn left.

S 1 : OK. Turn left. And ?



【学びの接続】



中学年の外国語活動の「2 内容 [知識及び技能] (1)ア, イ」の項目に示された「知識及び技能」を体験的に身に付けることが、高学年で英語の特徴やきまりに関する事項を身に付けることにつながります。

⇨ 解説 p.24

【育成を目指す資質・能力】[話すこと(発表)]〈思・判・表〉 ⇨ 解説 p.14, p.23

自分の生活場면을、基本的な表現を用いて話す

【言語活動】

自分の生活の中から相手に伝えたい場面を選んで話します。

《目的》お互いの生活場面を知る

《場面》自己紹介

《状況》自分の生活場면을友達やALTに話す

 : I have breakfast.
I like rice and *miso* soup.

言語活動のポイント!

伝えたい生活場면을表す表現を選びます。2文目には既習の表現を用いて、その場面ですることや好きなこと・もの、状態・気持ち等を加え、相手に伝えたい生活場면을表現します。



評価規準 (行動観察より)

お互いの生活場面を知るために、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の生活場면을話している。

【言語活動に向かう学習活動】

1文目に選んだ生活場面で紹介したいことをどう表現するか、既習の表現から考えます。

指導のポイント!

本単元は第4学年の最終Unitを想定しています。外国語活動のまとめとして、これまでに慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて話す場면을意図的に設定しました。

自分の生活場면을紹介する際に用いるであろう語句や表現をあらかじめ把握し、必要に応じて提示したり想起させたりして、それらを使って話せるようにします。

既習の表現は、言語活動において繰り返し用いることで、生きて働く知識及び技能として身に付けさせることが大切です。



課題 どんな表現を使って、相手に知って欲しい生活場면을伝えようかな。

〈これまで使った表現〉絵カードも提示

すること I run/ walk/play/ sing/watch/ have～. など	好きなこと・もの I like 食べ物/ スポーツ/ 教科. など	状態・気持ち I'm happy/ tired/ sleepy/ sad. など
--	---	--

S1 : 毎朝走っていることを知って欲しいんだけど、どう言えばいいかな? 1文目は I wake up.

「走る」は run かな。だから、2文目は I run.

 : へえ、すごいね。何km走るの?

S1 : 2 kmだよ。そっか I run 2km. にしよう。

S2 : 1文目は I take out the garbage. にしよう。

T1 : S2さん感心だね。どんな気持ちになるの?

Tired? Happy?

S2 : 家族の役に立つから… I'm happy.

【学びの接続】



中学年では、好き嫌いや欲しいもの等、自分のことを話すことができました。高学年では、伝えたい内容を整理して、相手に分かりやすく話すことができるようにしています。

➡ 解説 p.23

学習活動例⑦(外国語) 文字の形の特徴を捉えて大文字を活字体で書く

【育成を目指す資質・能力】[書くこと]〈知・技〉 ⇨ 解説 p.69, p.81

大文字を活字体で書くことができる

【言語活動】

友達にあてたバースデーカードを書きます。
《目的》友達に祝う気持ちを伝える
《場面》誕生日プレゼントづくり
《状況》バースデーカードを書いて友達に贈る



言語活動のポイント!

バースデーカードを作って贈り、友達に気持ちを伝えるという目的をもって、書き写す活動を行います。

アルファベットの文字を組み合わせると語ができ、語を組み合わせれば、伝えたいことを英語で書くことができることに気付かせましょう。



評価規準 (行動観察, ワークシートより)

四線に HAPPY BIRTHDAY と、活字体の大文字で正しく書き写している。

【言語活動に向かう学習活動】

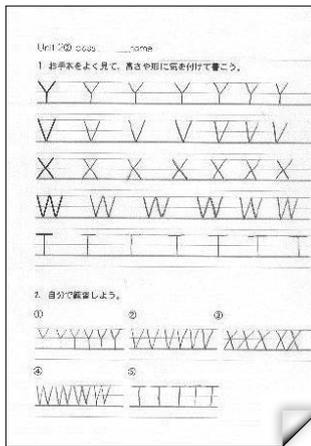
HAPPY BIRTHDAY を書き写すために、単元の帯活動として、アルファベットの大文字(A~Z)を活字体で書く練習を続けます。

指導のポイント!

一度に取り扱う文字の数や種類に配慮します。左右対称の文字、大文字と小文字の形がほぼ同じ文字、曲線を含む文字等、文字の形の特徴を捉えて指導します。単調な繰り返しの学習に終始しないよう、書く目的をもちます。



課題 どこに気を付けると正しく書けるかな。



- : 今日、直線だけのアルファベットの仲間だ。
- S 1 : 文字を真ん中から折ると、左右が同じ形だね。
- S 2 : この5つのアルファベットは、1番上の線と3番目の太い線の間に書くんだよね。
- S 3 : YとXは、上から2番目の線で交わるように書くぞ。
- T 1 : Let's write them.

: HAPPY BIRTHDAY の A, H, I, Y, T が書けるようになったね。あとは P, B, R, D か。バースデーカードを書くのが楽しみだね。

【学びの接続】



小学校では、語句や表現を書き写したり、例文を参考に自分のこと等について書いたりしました。この活動を踏まえ、中学校では、関心のある事柄や日常的・社会的な話題について、内容を整理してまとまりのある文章を書けるようにしています。 ⇨ 解説 p.81

【育成を目指す資質・能力】[話すこと(発表)]〈思・判・表〉 ⇨ 解説 p.71, p.81

第三者のことを，内容を整理して，話すことができる

【言語活動】

インタビューして分かった友達の「できること」を発表します。

《目的》友達のよさを伝える

《場面》他己紹介

《状況》友達の意外な一面を学級の別の友達に話す



: S1 is great.

She can play soccer well.

She can cook curry and rice.

言語活動のポイント!

友達に関心を持ち、理解を深めることをねらいとし、三人称単数の主語の中の he/she を用いて他己紹介をします。

can を用いた文について、音声で十分に慣れ親しませ、友達の「できること」を紹介できるようにします。



評価規準 (行動観察より)

友達のよさを伝えるために、その友達ができることについて、聞き取った内容を整理して、他の友達に伝えている。

【言語活動に向かう学習活動】

絵カード等を用いて友達の「できること」「できないこと」を予想した上で、Can you~? を用いて友達にインタビューを行い、話す内容を整理します。

指導のポイント!

友達の意外な一面を紹介するという、目的や場面、状況等に応じた課題をもたせるようにします。そうすることにより、友達に関心を寄せ、予想を立ててインタビューしたり、紹介したい内容を選んだりする際に、判断の拠り所を明確にもてたりするようになります。

友達ができることを認め合える学習集団へと高めましょう。



課題 何を紹介すると、友達の意外な一面が伝わるかな。

できること(予想)



play the recorder

swim

できないこと(予想)



cook

play soccer

sing well

: Can you play the recorder?

S1 : Yes, I can. I like music.

: I see. Can you swim?

S1 : Yes, I can. I can swim fast.

: Oh, I see. Can you cook?

S1 : Yes, I can. I can cook curry and rice.

: Oh, Really! Great! Can you play soccer?

S1 : Yes, I can. I can play soccer well.

: Wonderful !

S1さんがcookもplay soccerもできるなんて、知らなかった。みんなも知らないと思うな。この2つを選んで発表しよう。



【学びの接続】



高学年では、身近で簡単な事柄について、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、内容を整理して自分の考えや気持ち等を伝え合いました。この活動が、中学校での、日常的话题や社会的な話題について情報を捉え、自分の考えを深め、相手に分かりやすく伝えることにつながっています。

⇨ 解説 p.99

【育成を目指す資質・能力】[読むこと]〈思・判・表〉 ⇨ 解説 p.71, p.78

音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句の意味が分かる

【言語活動】

道案内を聞いて、地図上の情報を頼りに、宝物が隠されている場所を探します。

《目的》地図を使い、友達の宝物を探す

《場面》宝探しゲーム

《状況》友達の道案内を聞いて、地図を辿る

 : Where is your treasure?

S 1 : Go straight and turn left at the first corner. Walk for two blocks and turn right. You can see it on your left.

 : In the school?

S 1 : Yes.

言語活動のポイント!

道案内を聞く側の児童は、地図上の施設・建物の名称を読みながら、道を辿ります。途中、どこで曲がったかを尋ねる等しながら、児童が名称を読む機会を数多く設けるようにします。

道案内で使う地図には、前時までに音声で十分に慣れ親しんだ施設・建物の名称を明記します。その際、Go straight./Turn [right/left].等の既習の表現が使える道路や交差点も盛り込むようにします。



評価規準 (行動観察より)

友達の宝物を探すために、地図上の語の文字情報と慣れ親しんできた語や文字の音を結び付け、施設・建物の名称を推測しながら読んでいます。

【言語活動に向かう学習活動】

Jingleで初頭音を意識しながら単元で扱う語句に慣れ親しみます。

指導のポイント!

Jingle等を用い、音声を中心としながら「文字に触れること」を通して文字への認識を高めます。

このような活動を通して、次第に文字を追いながら発音できるようになることが期待できます。帯活動として継続しましょう。



課題 同じ音から始まる言葉はどれかな?


park


post

T 1 : Repeat after me.

/p/ /p/ "park"

S S : /p/ /p/ "park"

T 1 : /p/ /p/ "post"

S S : /p/ /p/ "post"

T 1 : "park" "post"

S S : "park" "post"

 : "police"も/p/から始まるね。

T 1 : Nice! /p/ /p/ "police"

S S : /p/ /p/ "police" "police"

【学びの接続】



高学年では、たくさん聞いたり話したりして慣れ親しんだ英語を見たとき、絵なども手掛かりにして読めるようになりました。中学校では、発音と綴りの関係を理解しながら、より多くの英語の語句や表現が読めるようにしています。 ⇨ 解説 p.78

【育成を目指す資質・能力】[書くこと]〈思・判・表〉 ⇨ 解説 p.71, p.82

英語の語順を意識しながら、例文を参考に、書くことができる

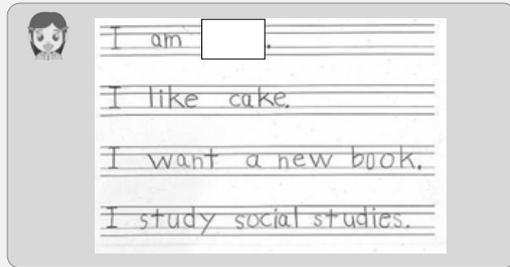
【言語活動】

自分が好きなもの、欲しいもの、よく食べるもの等についての文を書きます。

《目的》自分のことを知ってもらう

《場面》自己紹介

《状況》自分の特長を書いて掲示する



言語活動のポイント!

左の自己紹介文で示した[主語+動詞+目的語]の基本的な表現は、これまでに音声を通して十分に慣れ親しんできています。この活動では、書くことを通して、音声だけでは気付きにくい文の語順や、動詞と適切な目的語の組み合わせを意識させます。



評価規準 (行動観察・ワークシートより)

自分のことを知ってもらうために、like/want/eat/study等の動詞と適切な目的語を組み合わせ、語順を意識しながら、例文を参考に、自己紹介の文を書いている。

【言語活動に向かう学習活動】

絵カードを並べて作った英語の文を日本語の文と比べ、英語の文の語順[主語+動詞+目的語]に気付きませす。

指導のポイント!

動詞と名詞の二つの絵カードを並べる活動は、音声で十分慣れ親しんできた基本的な表現を可視化し、文を書き写す活動につなげることができます。また、文を構成する語句に着目させ、英語の文の語順を意識しながら表現できるようにします。



課題 英語と日本語では、文の語順はどう違うのかな。

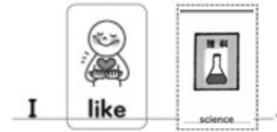
T1: どんな自己紹介の文が作れましたか。

S1:



私はケーキを食べます。

S2:



私は理科が好きです。

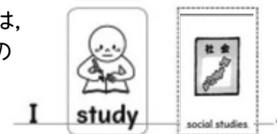
S3: 英語と日本語では、文の語順が違うんだね。

S1: 英語は「だれが」の後に、「どうする」の順番だ。

S2: 英語は「どうする」の後に、「なにを」があります。



今見つけた英語の文の語順は、
I study social studies. の
ときも同じだな。



【学びの接続】



高学年では、どのように語を並べると自分の伝えたいことが伝わるかを考えて英語を書きました。中学校では、英語で聞いたり読んだりして得た情報のうち、どの情報を取り上げるのか、どの表現が書く上で活用できるかを考えて事実や自分の考え等を書いています。 ⇨ 解説 p.99

【育成を目指す資質・能力】〔読むこと〕〈思・判・表〉 ⇨ 解説 p.71, p.78

音声で十分に慣れ親しんだ基本的な表現を読んで意味が分かる

【言語活動】

日本文化について書かれた文章を読み、内容を理解します。

《目的》日本文化を紹介する

《場面》外国人との交流の準備

《状況》友達の紹介文を読み、伝えたいことを知る

— S1が書いた紹介文 —

Welcome to Japan.
We have *imonikai* in autumn.
It's an outdoor party.
You can enjoy cooking *imoni*.
It's fun.



— S1が書いた紹介文を読んでいる児童 —



: We have *imonikai* in autumn. だから、
「秋の芋煮会」の紹介か。You can enjoy
cooking *imoni*. だから、芋煮作りは楽しい
ということ伝えていたんだね。

言語活動のポイント!

外国人の観光客に日本文化を紹介する文章を友達同士で読み合います。これまでに聞いた話したりして慣れ親しんできた You can enjoy *hanami*. 等の表現を想起しながら、友達の紹介文を読んでいる児童は You can enjoy cooking *imoni*. と音声化し、その意味を推測します。

その際、書かれた内容を理解するための手掛かりにできるよう、紹介文に写真や絵等の情報も盛り込んでおくようにします。



評価規準 (行動観察より)

日本文化を紹介するために、We have ~./You can ~. の表現の意味を理解し、書かれていることを推測しながら読んでいる。

【言語活動に向かう学習活動】

We have ~./You can ~. の表現を使い、日本文化を紹介します。

指導のポイント!

日本文化を紹介する際、活用できる既習表現を想起させたり、必要に応じて新しい表現と出会わせたりしながら、2~3文程度を書くことができるようにします。



課題 日本文化の魅力をどんな言葉で伝えようかな。

S2 : We have the Hanagasa Festival. だったら、どう?

S1 : You can dance. は、使えるね。

S3 : It's exciting. は、どうかな?

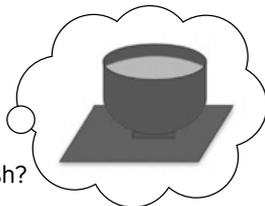
S1 : 使える言葉がいろいろあるね。

私: 私は日本の「お茶」を紹介したいな。
Welcome to Japan.
We have *matcha*. T1先生,
How do you say *nigai* in English?

T1 : お茶の「味」を紹介したいのですね。

Matcha is bitter.

: I see. *Matcha is bitter.*



【学びの接続】



高学年では、中学年から聞いた話したりして、音声で十分に慣れ親しんだ英語の語句や表現を見たときに、声に出して読み、その意味が分かるようになりました。中学校では、書かれた英語の文章を読んで、日常的な話題について、必要な情報を読み取ったり、大まかな内容を捉えたりすることができるようにしています。

⇨ 解説 p.78

【育成を目指す資質・能力】[話すこと(発表)]〈思・判・表〉 ⇨ 解説 p.71, p.81

身近で簡単な事柄を、内容を整理して、話すことができる

【言語活動】

まちのよさや、まちに欲しいものを外国人に伝えます。

《目的》お互いの住むまちの様子や、まちへの思いを知る

《場面》外国人との交流

《状況》まちに来たALTに自分のまちのよさや、まちへの思いを話す



: Yamagata is nice.

We have Zao mountain.

We can see big ice monsters.

We don't have a department store.

I like shopping.

I want a department store.

言語活動のポイント!

自分の考えや気持ちだけでなく、その理由となる事実を挙げることで、相手に考えや気持ちがより伝わりやすくなります。

まちの特徴として挙げる施設や建物等は、We [have/don't have] ~. / We can ~. を用い、自分の考えや気持ちは I like ~. / I want ~. を用いて、表現するようにします。



評価規準 (行動観察, ワークシート等より)

お互いの住むまちの様子や、まちへの思いを知るために、伝える内容や順番を考え、既習の語句や表現を用いて発表する文を組み立て、伝えている。

【言語活動に向かう学習活動】

これまで書きためてきた文を並べ替え、自分が伝えたいことが伝わるように組み立てます。

指導のポイント!

伝えたいことが伝わるように、文の順番を決めたり、選んだりして整理する活動を行います。その際、国語科で学習した「相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考える」ことを生かすようにします。



課題

文をどう組み立てると、まちのよさや、まちへの思いや気持ちが伝わるかな。

話す文を決め、順番を考えよう

Yamagata is nice.

We have Zao mountain.

We can enjoy hiking.

We can enjoy hot springs.

We don't have an aquarium.

I like seeing fish.

I want a big aquarium.

蔵王には温泉もあるけど、ハイキングが好きだからWe can enjoy hiking.を伝えたいな。

水族館が欲しいと思うのは、魚が見ることが好きだからなので、I like seeing fish.は前に持っていったほうがいいかな。

【学びの接続】



高学年では、学校生活や地域に関する事実などを発表するだけでなく、自分の考えや気持ち等を整理して話すことができるようになりました。中学生になると、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ち等を整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話しています。

⇨ 解説 p.81

【育成を目指す資質・能力】[話すこと(やり取り)]〈知・技〉 ⇨ 解説 p.69, p.79

過去形を含む表現を使うことができる

【言語活動】

外国の友達に紹介する修学旅行について、思い出や感想を友達と伝え合います。
 《目的》お互いの国の小学校生活を知る
 《場面》外国の友達との交流の準備
 《状況》お互いの修学旅行の思い出を伝え合う

T1 : What did you enjoy ?

 : I enjoyed Senso-ji.
I saw a red lantern.
It was wonderful. 

S1 : Oh, the red lantern. It was big.

 : Yeah, it was a big red lantern.
I saw a big waraji, too.

言語活動のポイント!

本単元で取り扱う過去形を含む表現を用いることが必然となる思い出を伝え合う言語活動を設定します。

外国の友達に日本の学校生活を紹介するに当たり、修学旅行の思い出をどのような表現で伝えるのか、お互いの感想をやり取りし、紹介する内容や表現を確かめます。



評価規準 (行動観察より)

I [went to/saw/ate/enjoyed] ~./It was ~. の表現を用いて、伝え合っている。

【言語活動に向かう学習活動】

went to/saw/ate 等の過去形を含む表現から、絵カードに示された思い出を伝えるのに適した表現を選ぶ。

指導のポイント!

上記の【言語活動】は、既習である過去形を含む表現の活用場面として設定しています。

児童が過去形の表現に出会い、習得する際には、右のような学習活動が考えられます。指導者同士のやり取りで新出となる過去形を含む表現を提示し、それらの表現と絵カードの語をつなげて考える活動を通して、どのような思い出を伝えるときに適した表現なのか、用いる場面や状況を理解できるようにします。



T1 : Did you have a good time during summer vacation ?

ALT : Yes, I went to the sea.

I enjoyed swimming.

I ate shaved ice.

It was very nice.

T1 : I see.



課題 思い出はどのような表現で伝えられるかな。

I went to ~. I ate ~. I saw ~. I enjoyed ~.



S1 : mountainは、I went to a mountain. で伝えられるね。

S2 : watermelonは、I ate watermelon. かな。

 : I ateは、I ate ice cream. のときも使えるね。

S3 : fishingは、I enjoyed fishing. だね。

【学びの接続】



高学年では、過去の出来事や思い出を振り返って表現するために、聞き慣れた表現を用いていました。中学校では「文法事項」として使い方の理解を深めています。⇨ 解説 p.95

【育成を目指す資質・能力】[聞くこと]〈思・判・表〉 ⇨ 解説 p.71, p.76

話を聞いて、自分の考えを再構築できる

【言語活動】

中学校で入りたい部活動について聞き合い、発表内容を再構築します。
 《目的》お互いの「中学校生活への抱負」を知る
 《場面》「中学校生活への抱負」発表会
 《状況》友達の入りたい部活動とその理由を聞く

S1 : I want to join the chorus.
 I want to be a singer.
 I'm good at singing.

 : 得意なことを生かしたいということが伝わってくるな。好きだということだけでなく、わたしも I'm good at ~. の表現を使おうかな。

 : I want to join the brass band.
I like music.
I'm good at playing the recorder.

言語活動のポイント!

相手の考えと比較したり、新たな考えを取り入れたりしながら、自分の考えを再構築します。

I want to be a ~. や I'm good at ~. を聞き、自身の伝える内容や表現を改めて考え、再度話し、自己の変容を実感させることが大切です。



評価規準 (発表, ワークシートより)

お互いの中学校生活への思いを知るために、友達等の考えと比較し、新たな考えを取り入れたりしながら、自分の考えを整理している。

【言語活動に向かう学習活動】

中学生のスピーチを聞き、発表する内容と表現を考えます。

指導のポイント!

中学生の英語のスピーチを聞かせることで、中学生や中学校生活へ実感を伴った憧れをもたせたり、自分が発表する表現の参考にさせたりすることができます。

中学生にとっても、目的や相手に応じて内容や表現を選択して伝える実践の場となります。



Hello, everyone. (中略) At our school, you can enjoy club activities. We have a dance team, a basketball team, I am in the softball team. We always practice hard, but it's fun. We want to be the Yamagata champions next year! (以下、省略)

課題

入りたい部活動とその理由を、どのように発表しようかな。

S2 : I want to join the dance team. I enjoyed dancing at a festival. It's fun.



: I want to join the brass band. I like music. I like the recorder.

【学びの接続】



高学年では、英語の文を聞いて日常生活と密接に関連した具体的な情報を聞き取れるようになりました。中学校では、目的や場面、状況等から判断して必要な情報が聞き取れることを目指しています。 ⇨ 解説 p.77



小中連携を進める上では、小学校・中学校で目指す子供像を互いに理解することが重要です。そのために、互いの授業を参観したり教材を見せ合ったりしましょう。
 中学生の英語のスピーチは、中学校では目標「話すこと[発表]イ」を目指した言語活動として行うことができます。小学生に聞かせる際は、相手意識をもたせ視覚情報を持ったスピーチをさせる等の配慮が必要です。中学校の先生方と話し合い、実施にあたっては、小学校・中学校双方の年間計画に位置付けると効果的です。

Classroom English

➡ ガイド p.118

活動の始まり

始めましょう。	Let's begin./ Let's get started.		
ゲームをしましょう。	Let's play a game.	準備はいいですか。	Are you ready?

活動中

指示を出す際には文頭や文末にpleaseを加える。

ペアになりましょう。	Make pairs.	向かい合いましょう。	Face each other.
5人のグループをつくりましょう。	Make groups of five.		
4列になって。	Make four lines.	ここに並びましょう。	Line up here.
円になりましょう。	Make a circle.	相手を代えましょう。	Change your partner.
終わりです。	Time's up.	やめましょう。	Let's stop now.
質問はありますか。	Any questions?	やりたい人はいますか。	Any volunteers?

児童への指示

指示を出す際には文頭や文末にpleaseを加える。

[私/黒板/スクリーン/これ]を見ましょう。	Look at [me / the blackboard / the screen / this].		
一緒に言いましょ。	Let's say it together.	私の話を聞いてください。	Listen to me.
[私/〇〇先生]の後について繰り返しましょう。	Repeat after [me/〇〇-sensei].		
手を挙げて下さい。	Raise your hands.	手を下ろしてください。	Put your hands down.
話をやめましょう。	Stop talking.	もう一度言ってください。	Can you say that again?
こちらに来てください。	Come here.	席に戻ってください。	Go back to your seat.
鉛筆を置きましょう。	Put your pencil down.	片付けましょう。	Put your things away.

ほめる/励ます

よくできました。	Good! / Great! / Good job! / Well done!		
素晴らしい。/いいね。	Wonderful! / Excellent! / Fantastic! / Perfect! / Nice!		
正解です。	That's right.	おいしい!	Close! / Almost!
おめでとう。	Congratulations.	君ならできよ!	You can do it!
(彼/彼女)に拍手しましょう。	Give [him/her] a big hand.		
あきらめないで。	Don't give up.	恥ずかしがらないで。	Don't be shy.

発表を促す

それについて考えましょう。	Think about it.	君の考えを伝えよう。	Let's share your idea.
もう一度[やってみましょう/言いましょ]。	Try again. / Once more. / One more time. / Say it again.		

やり取りを促す

どうしてですか。	Why?	もっと聞かせて。	Please tell me more.
どうしてそうではないのですか。	Why not?	私もそう思います。	I think so, too.
私はそう思いません。	I don't think so.	[彼/彼女]は何と言いましたか。	What did [he/she] say?
[彼/彼女]の話を聞きましょう。	Let's listen to [him/her].		

振り返り

振り返りカードを取り出してください。	Take out your [reflection sheet / furikaeri card].
今日は何を勉強しましたか。	What did you study today?
今日の授業は楽しかったですか。	Did you enjoy today's class?

活動の終わり

今日はこれで終わります。	That's all for today.
--------------	-----------------------

【監修協力】

国際教養大学 准教授 町田智久 氏
文部科学省初等中等教育局教育課程課情報教育・外国語教育課 教科調査官 山田誠志 氏

県教育センターHPから本ハンドブックと研究報告書を閲覧することができます。

<http://www.yamagata-c.ed.jp/>

令和2年3月発行 ●企画・発行／山形県教育センター
TEL:023-654-2155 FAX:023-654-2159



2 ハンドブックの普及に向けて

ハンドブックを県内の小学校・義務教育学校（前期）の全教員等と中学校・義務教育学校（後期）の英語科担当教員等、特別支援学校（小学部・中学部）の教員等に配付する。

主として児童の指導に当たる学級担任が個々の授業実践に活用するに留まらず、全教員等による校内研修等での活用も想定し、配付した。さらに、小学校・中学校の円滑な接続を目指し、中学校教員にもさらに小学校英語教育への理解を深めてほしいと考える。その際にもハンドブックが一助になれば幸いである。

また、ハンドブックは研修プログラムにおいても活用していく。その一端である県教育センターにおける専門研修でもハンドブックを用い、直接、教員に伝えたり教員の質問に答えたりする等、双方向のやり取りを通し、さらに内容の深化を図ることを目指していく。

ハンドブックが、教員の共通の情報となり、小学校英語教育についての活発な協議が校内外でなされ、授業実践が充実されていくことを期待している。ハンドブックを介し、さらに山形県の小学校英語教育を推進していきたいと考える。

第4章 研修講座による支援

本研究では、学習活動例の開発と実践、検証を踏まえ、ハンドブックを作成した。さらに、それを活用した研修プログラムを開発・実施し、学校ニーズへ対応したいと考えた。

県教育センターにおける専門研修「小学校外国語活動・外国語の授業づくり講座」(以下、研修講座とする)を、研修プログラム的一端と位置付け、本研究の2年次、3年次は、ハンドブックの作成を進めると同時に、その内容を踏まえた研修プログラムの開発を行った。研修講座での受講者の様子やアンケート等を今後の研修プログラムの改善、実施につなげていく。

研修講座は、新学習指導要領における小学校外国語教育の目標や内容について周知し、新教材を用いた授業づくりを通して指導力の向上を図ることを目的に、平成30年度と令和元年度に実施した。円滑な小中接続の重要性を鑑み、講座の対象者は、小学校・中学校・義務教育学校・特別支援学校(小学部、中学部)の教員とした(参加者の詳細は、第1章1-(2)を参照)。

講座の前半は、小学校外国語教育について理解を深めるために、小学校外国語教育に精通した外部講師による講義・演習が行われた。後半は、実践的な指導力の向上を目指し、ハンドブックの内容を踏まえた授業づくりのワークショップを行った。教員の指導力と英語力の向上に向け、バランスの取れた研修内容となるよう配慮した。

1 小学校外国語活動・外国語の授業づくり講座(平成30年度)

(1) 講座の概要と構成について

① 期日、日程等

平成30年7月11日(水)

日 時	研 修 内 容	方 法
10:00～10:10	開講式・オリエンテーション	
10:10～12:00	新学習指導要領の趣旨を踏まえた小学校外国語活動・外国語の授業づくりについて	講義・演習
13:00～16:10	小学校外国語活動・外国語の授業づくりワークショップ	演習
16:10～16:30	振り返り・閉講式	

② 講義の概要

【講師】 文教大学 教授 金森 強 氏

金森氏は、指導するに当たり大切なこととして、外国語教育を通してどんな児童を育てるのか、どんな言葉を使う児童を育てたいかという視点を示した。目指す児童の姿は、丁寧なコミュニケーションのできる児童、温かいコミュニケーションのできる児童であり、「英語」という道具をどう使うか、どう使って何をするかを教えることが大事であると説いた。また、言語活動とは、相手を知ることであり、「言葉」は何のためにあるのかをまず指導者が考えることが重要であるとも述べた。これまでは、よい話し手の育成に目が向きがちであったが、まず、よい聞き手を育てることが大切であり、よい聞き手が育てば、よい話し手も育つと講義した。これからの外国語活動・小学校外国語科を指導するに当たり、まず明確な目標設定が重要であり、指導観の転換を図っていくことの必要性を話された。実際に英語を用いた

演習も取り入れられ、受講者が実感をもって理解できるような講義であった。

③ 演習の概要

平成 30 年度より移行期間となり、全小学校に教材（『Let's Try!1、2』『We Can!1、2』）が配付された。この新教材を使用した授業づくりの演習を行った。新教材の内容を知るとともに、目指す資質・能力の育成に向けた単元・授業をグループごとに構想した。

④ 演習で扱う単元とグループ編成

新教材の内容の周知、系統性への理解を念頭に、講座以降に学校で実践される（であろう）単元で、且つ共通する領域（「話すこと [やりとり]」）の単元を選定した。平成 30 年度の研修講座は、調査研究協力校における実践、検証の開始直後であり、開発予定の学習活動例と可能な限り関連を図りながら、先の選定理由を第一とした。『Let's Try!1、2』では 3 時間目を、『We Can!1、2』では 6 時間目を本時とし、単元のゴールとなる言語活動に向かう過程の授業を考えることとした。

現在の担当学年ごとに 4～5 名ずつの 5 班編成で行った。

受講者の担当学年等	演習で扱う単元	ハンドブックとの関連
1～3 年(2 班編成)	Let's Try!1 Unit8	
4 年	Let's Try!2 Unit8	学習活動例⑤
5 年	We Can!1 Unit7	学習活動例⑨
6 年*	We Can!2 Unit3	学習活動例⑩

※高学年複式学級担任を含む

⑤ 演習の流れ

1. 単元計画を見直す (75 分)

- ・各自で単元計画を見直す (15 分)。
- ・グループの考えを A3 版にまとめる (60 分) (図 4-1-1)。

資料「学習指導要領」（平成 30 年文部科学省）
 『移行期間における学習内容例』（平成 29 年 9 月 2 日 文部科学省）
 資料 1-1 ④

4 年 Unit 8
 4 年 Unit 8 単元名 This is my favorite place. お気に入りの場所をしようかいしよう

1. 単元目標
 ・通して、自分が気に入っている場所を伝えようとする。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
 ・絵本や動画など、案内の表現を理解した。(外国語への理解・意欲)
 ・世界と日本の学校生活の共通点や相違点を通して、多様な考え方が存在することを知り、(異文化に関する理解)

2. 学習材料
 ○ On straight, Turn right / left Stop. This is (the music room). This is my favorite place. What? I like (music).
 ○ favorite, place, my, our, go, why, straight, 学校・教室等 (classroom, restroom, lecture / music / arts and crafts / computer / cooking room, school nurse's / school principal's / teacher's office, entrance, library, gym, playground)
 [読書] 絵本、雑誌、マンガ、ウェブサイト、This is for you. Do you like (what)? Yes, I do / No, I don't. turn, right, left, bench, school

3. 関連する学習指導要領における領域目標
 聞くこと イ ゆっくりはっきりと話し合った際に、必要で簡単な事例に関する基本的な表現の意味が分かるようにする。
 話すこと ウ サブトを定めて、自分や相手のこと及び身の周りの状況に関する事項について、簡単な語句や表現の表現を用いて質問をしたり質問に答えたりできるようにする。
 読むこと イ 自分のことについて、人前で説明などを発表しながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。

4. 単元計画 (4 時間)
 時 目標 (★) と主な活動 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19) (20) (21) (22) (23) (24) (25) (26) (27) (28) (29) (30) (31) (32) (33) (34) (35) (36) (37) (38) (39) (40) (41) (42) (43) (44) (45) (46) (47) (48) (49) (50) (51) (52) (53) (54) (55) (56) (57) (58) (59) (60) (61) (62) (63) (64) (65) (66) (67) (68) (69) (70) (71) (72) (73) (74) (75) (76) (77) (78) (79) (80) (81) (82) (83) (84) (85) (86) (87) (88) (89) (90) (91) (92) (93) (94) (95) (96) (97) (98) (99) (100)

1. ● 教材名や教科書の表紙の読み、授業の仕方に慣れ親しむ。
 ○ チェックイン What do you want? (Unit 8)
 ○ 学校クイズの導入。
 ・ 教科書の内容と自分の生活の共通点や相違点の発見を通して、それぞれの、どこかの教科書を見て発表する。
 ・ 教科書の読み方を教える。
 ○ 授業内容の紹介。
 ・ 教科書の内容を、行かせる。
 [Let's Play 1] School Chant p.32
 ○ 歌 Goodbye Song (3 年 Unit 8)

2. ● 教材名や教科書の表紙の読み、授業の仕方に慣れ親しむ。
 [Let's Play 2] School Chant p.32
 [Let's Play 3] School Chant p.32
 [Let's Play 4] School Chant p.32
 [Let's Play 5] School Chant p.32
 [Let's Play 6] School Chant p.32
 [Let's Play 7] School Chant p.32
 [Let's Play 8] School Chant p.32
 [Let's Play 9] School Chant p.32
 [Let's Play 10] School Chant p.32
 [Let's Play 11] School Chant p.32
 [Let's Play 12] School Chant p.32
 [Let's Play 13] School Chant p.32
 [Let's Play 14] School Chant p.32
 [Let's Play 15] School Chant p.32
 [Let's Play 16] School Chant p.32
 [Let's Play 17] School Chant p.32
 [Let's Play 18] School Chant p.32
 [Let's Play 19] School Chant p.32
 [Let's Play 20] School Chant p.32
 [Let's Play 21] School Chant p.32
 [Let's Play 22] School Chant p.32
 [Let's Play 23] School Chant p.32
 [Let's Play 24] School Chant p.32
 [Let's Play 25] School Chant p.32
 [Let's Play 26] School Chant p.32
 [Let's Play 27] School Chant p.32
 [Let's Play 28] School Chant p.32
 [Let's Play 29] School Chant p.32
 [Let's Play 30] School Chant p.32
 [Let's Play 31] School Chant p.32
 [Let's Play 32] School Chant p.32
 [Let's Play 33] School Chant p.32
 [Let's Play 34] School Chant p.32
 [Let's Play 35] School Chant p.32
 [Let's Play 36] School Chant p.32
 [Let's Play 37] School Chant p.32
 [Let's Play 38] School Chant p.32
 [Let's Play 39] School Chant p.32
 [Let's Play 40] School Chant p.32
 [Let's Play 41] School Chant p.32
 [Let's Play 42] School Chant p.32
 [Let's Play 43] School Chant p.32
 [Let's Play 44] School Chant p.32
 [Let's Play 45] School Chant p.32
 [Let's Play 46] School Chant p.32
 [Let's Play 47] School Chant p.32
 [Let's Play 48] School Chant p.32
 [Let's Play 49] School Chant p.32
 [Let's Play 50] School Chant p.32
 [Let's Play 51] School Chant p.32
 [Let's Play 52] School Chant p.32
 [Let's Play 53] School Chant p.32
 [Let's Play 54] School Chant p.32
 [Let's Play 55] School Chant p.32
 [Let's Play 56] School Chant p.32
 [Let's Play 57] School Chant p.32
 [Let's Play 58] School Chant p.32
 [Let's Play 59] School Chant p.32
 [Let's Play 60] School Chant p.32
 [Let's Play 61] School Chant p.32
 [Let's Play 62] School Chant p.32
 [Let's Play 63] School Chant p.32
 [Let's Play 64] School Chant p.32
 [Let's Play 65] School Chant p.32
 [Let's Play 66] School Chant p.32
 [Let's Play 67] School Chant p.32
 [Let's Play 68] School Chant p.32
 [Let's Play 69] School Chant p.32
 [Let's Play 70] School Chant p.32
 [Let's Play 71] School Chant p.32
 [Let's Play 72] School Chant p.32
 [Let's Play 73] School Chant p.32
 [Let's Play 74] School Chant p.32
 [Let's Play 75] School Chant p.32
 [Let's Play 76] School Chant p.32
 [Let's Play 77] School Chant p.32
 [Let's Play 78] School Chant p.32
 [Let's Play 79] School Chant p.32
 [Let's Play 80] School Chant p.32
 [Let's Play 81] School Chant p.32
 [Let's Play 82] School Chant p.32
 [Let's Play 83] School Chant p.32
 [Let's Play 84] School Chant p.32
 [Let's Play 85] School Chant p.32
 [Let's Play 86] School Chant p.32
 [Let's Play 87] School Chant p.32
 [Let's Play 88] School Chant p.32
 [Let's Play 89] School Chant p.32
 [Let's Play 90] School Chant p.32
 [Let's Play 91] School Chant p.32
 [Let's Play 92] School Chant p.32
 [Let's Play 93] School Chant p.32
 [Let's Play 94] School Chant p.32
 [Let's Play 95] School Chant p.32
 [Let's Play 96] School Chant p.32
 [Let's Play 97] School Chant p.32
 [Let's Play 98] School Chant p.32
 [Let's Play 99] School Chant p.32
 [Let's Play 100] School Chant p.32

● コミュニケーションを促す目的の授業。
 休み時間にいろいろな友達と話をしよう。
 お気に入りの場所を紹介することを通して、
 友達のことを知って、学校生活での関わりを
 深めていこうとする姿。

休み時間に、
 ・一緒にいこう。
 あそびと話す姿
 ・おもしろく友達のことを
 知ろうとする姿 (裏面)

図 4-1-1

グループ協議で活用した A3 版ワークシート 32)

2. 主たる言語活動の指導過程を考える (45分)
3. 指導者役と児童役に分かれ、言語活動を実践しながら発表する (30分)
(図4-1-2)
4. 振り返り (10分)
5. 講師による指導・助言 (30分)

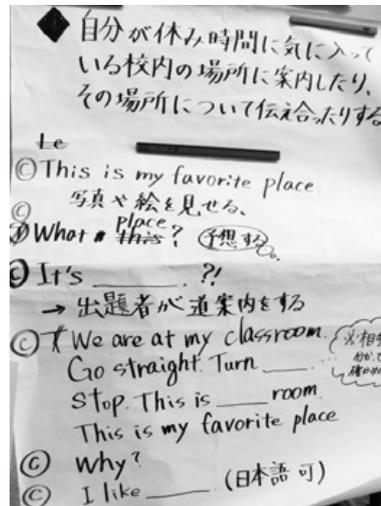


図4-1-2
デジタル教材も活用しながらの
グループ発表

(2) 講座における振り返りから

以下は、研修講座の振り返りシート【A】における記述内容の主なものである。(記述は受講者が記述したまま。)

受講前の課題	研修の成果と課題、自己の変容等
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが必要感をもてるような、授業の構成を学びたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段、ここまで深く単元構成について考えることがなかったので、大変良い機会となった。「チャンツはピンチ」という言葉に、ドキツとしたが、子どもが自分の言いたいことを、自分の言葉で伝えられるように指導していきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の組み立て方や、流れをどうすればいいか悩んでいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに考えさせる活動を多く入れることが大切だと感じた。また、絵を多く使い、思考を助けることも大切だと学んだ。
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが楽しく英語に触れるにはどんな活動があるのかを学びたかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達にとって意味のある活動を考える大切さを強く感じた。今までの自分の実践を思い返し反省する点がたくさん出てきた。英語を教えるのではなく英語を通して考えたり、相手のことを考えたりできる子どもを育てたいと感じた。
<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の授業で、何に重点を置いて授業を進めるべきか悩んでいた。自分の発音や英会話力に自信がなく、言葉のリピートをさせたり、言えたことに対してほめたりすることしかできていなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・反復練習をして正しく言えるようになることを求めるのではなく、相手意識をもたせて反応しながら会話を楽しむことができるようになってほしいと思うようになった。チャンツは効果的なものであると思っていたが、気持ちを丁寧に表すという意味では、むしろ障害となってしまうと初めて知った。

<ul style="list-style-type: none"> ・授業のリズムよく、テンポよく、子どもに技能を身に付けさせるには？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の伝えたいことを、しっかり友達などに伝えることが大事。子どもの思いを大事にした、伝える活動を組む。
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが外国語に親しみ、いきいきとコミュニケーションをとることができる授業を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの考えや気持ちを伝え合う、心をこめてコミュニケーションをとる機会を充実させるような授業をつくり、子どもたちが楽しく学べるようにしたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の授業力 ・英語を使用する場の設定方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの反応を引き出す手立てを考える。 ・すらすら言うことが大切ではなく、ゆっくり考える時間を与えることが必要だとわかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・外国語活動や外国語を授業する上で必要な知識や子どもの姿を踏まえて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の一声が子どもの英語嫌いにつながると考えると、どのように工夫をすればよいかを考えさせられた。単元全体でコミュニケーションをする目的や目指す子どもの姿を考えて授業を考えていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい英語の定着を意識し過ぎていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの思いや考え（聞きたい話したい）を大切にしたい授業づくりに心掛けたいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・授業づくり ・外国語の本質にせまる課題設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・育成すべき能力、大切にすべきことが明確になったような気がする。

研修講座の振り返りシート【A】、【B】における演習についての感想・要望は次の通りである（記述は受講者が記述したまま）。

<ul style="list-style-type: none"> ・考えたり話し合ったりと、お互いに高め合える時間を設定していただきありがとうございました。 ・演習で実際に指導内容を考えるなど、実践に役立つ内容だったが、今年度から始まった部分も多いのもっと時間をとってじっくり研修したいと思いました。 ・同じ学年のグループになり効果的に話し合いができた。午後の持ち時間は同じ単元を全員考え、発表した方が深まりがあったと思う。 ・授業づくりにもっと時間がほしかった。 ・演習については、その後のご指導や振り返りによって授業改善ができると思います。具体的にご指摘をいただいて、学びたかったと思います。

目標を明確にした授業づくりの大切さについての理解を図ることができた。しかし、限られた演習時間の中で受講者が考える内容を多く盛り込みすぎ、熟考するために必要だと感じる時間を十分に確保できなかった。また、新教材であり、自分が担当する学年を含めた系統性を知る機会になればと考えたが、初めて目にする単元ばかりであり、学年の枠を越えて受講者同士でじっくりと理解を深めることを望む声が大変多かった。そこで、本研究を踏まえ、演習の内容を精選し、焦点化して次年度の講座を行うことにした。

2 小学校外国語活動・外国語の授業づくり講座(令和元年度)

(1) 講座の概要と構成について

① 期日、日程等

令和元年9月25日(水)

日時	研修内容	方法
10:00～10:10	開講式・オリエンテーション	
10:10～12:00	新学習指導要領の趣旨を踏まえた小学校外国語活動・外国語の授業づくりについて	講義・演習
13:00～16:10	小学校外国語活動・外国語の授業づくりワークショップ	演習
16:10～16:30	振り返り・閉講式	

② 講義の概要

【講師】 国際教養大学 准教授 町田智久 氏

町田氏は、「新学習指導要領の趣旨を踏まえた外国語活動・外国語の授業づくり」と題して、第一部と第二部に分けて講義を行った。第一部では、新しい英語教育の方向性について、グローバル社会の教育、21世紀型スキル、CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)、新学習指導要領等についての内容に触れた。具体的には、子供たちの英語力を育てるために、英語を用いて指導することが必要であり、英語のリズム・イントネーション・ストレス等の英語の音の特性や型を教えるとともに、子供たちの創造性をいかすコミュニケーション活動をスパイラルに行う指導を奨励した。さらに、第二部では、スモールトークの活用法、MERRIERアプローチによるティーチャートークの手法、クラスルームランゲージの例などについて取り上げ、教師の教室での具体的な英語の使用のモデル等を示した。小学校英語教育での指導者の役割は、英語学習の先輩として児童に伴走することであり、そして、英語を話す日本人のロールモデルとなることであると説いた。

③ 演習の概要

移行期間の2年目となる令和元年度も新教材を使用し、演習を行った。目指す資質・能力の育成に向けた単元のゴールとなる言語活動を設定し、そこに向かう効果的な単元構成や本時の展開をグループごとに構想した。

④ 演習で扱う単元とグループ編成

全員で同一教材を扱うこととした。演習において、育成を目指す資質・能力を「聞くこと」の「思考力、判断力、表現力等」とした。「聞くこと」は外国語教育において基礎となる重要な領域でありながら、評価規準の設定や評価方法等が難しい領域である。また、移行期間は現行学習指導要領の外国語活動で授業を行うことになっており、「思考力、判断力、表現力等」の育成についてイメージをもちにくい受講者もいると考えた。手応えがあるからこそ、意見交流が促進されるものと考え、演習で扱う単元を決定した。この単元は、ハンドブックにおいては学習活動例③で取り上げたものである。

受講者同士が協働的に取り組めるように、また、情報交流の機会にもしてほしいと考え、現在の担当学年や校種、教歴や所属校の地域などを考慮し、3～4名ずつの3班編成で行った。

受講者の担当学年等	演習で扱う単元	ハンドブックとの関連
全受講者	Let's Try!1 Unit9	学習活動例③

⑤ 演習の流れ

1. 演習のねらい

2. 演習のポイント（5分）

3. 演習（125分）

- ・ 単元について「Let's Try! 1 Unit9」

（単元のゴールとなる言語活動を運営担当者が実演し、イメージの共有化を図った。）

- ・ 演習 1－主たる言語活動を位置付けた単元計画を作成する（図4-2-1）。

資料 1

令和元年度小学校外国語活動・外国語の授業づくり講座

第3学年 外国語活動 活動事例案

1 単元名 きみはだれ?
(Let's Try! 1 Unit 9 Who are you? きみはだれ?)

2 単元の目標

(1) 色や形、状態、動物 (dragonを含む) を表す単語を繰り返し聞いたり、発音したりすることで、日本語と英語の音声やリズムなどの違いに気づく。 【知識及び技能】

(2) 絵本などの短い話を聞いて、色や形、状態などを表す語を手がかりとしておおよその内容が分かり、伝えたい動物について、色や形、状態などを表す語や、誰かと尋ねたり答えたりする言い方を用い、表現する。 【思考力、判断力、表現力等】

(3) 短い話などに反応しながら聞くとともに、相手に伝わるように、ジェスチャー等を用いながら、伝えたいことを言おうとする。 【学びに向かう力、人間性等】

3 該当する学習指導要領における領域別目標

聞くこと	イ 砂つくりははっきりと話された際に、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味が分かるようにする。
話すこと 【やり取り】	ウ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問したり質問に答えたりするようにする。

4 言語材料

○ Are you (a dog)? Yes, I am. / No, I'm not. Who are you? I'm (a dog). Who am I?
Hint, please.

○ who, 動物 (cow, dragon, snake, tiger, sheep, chicken, wild boar), 状態・気持ち (long, shiny, scary, round, furry), 身体の部位 (head, eyes, ears, nose, mouth, shoulders, knees, toes)

【既出】挨拶・自己紹介。I like (blue). Do you like (blue)? Yes, I do. / No, I don't. What (sport) do you like? How many (apples)? are, not, 色, 形, 状態・気持ち, 動物, 果物・野菜, 飲食物, 数(1-30)

5 言語活動

*Who am I?クイズ

<目的>隠れている動物の特徴を見つけ、表現する

<場面>森の中

<状況>森の中に隠れている動物の体の一部が見える

令和元年度小学校外国語活動・外国語の授業づくり講座

【 演習 1 】

6 単元の指導計画（全4時間）

時間	◆目標	・主な学習活動	評価（評価方法）重点の							
			聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと	総合的			
1										
2										
3										
4	◆色や形、状態などを表す語や誰かと尋ねたり答えたりする表現を使い、伝えたい動物を表現する。 ◆反応しながら聞き、相手に伝わるように、ジェスチャー等を用いながら、伝えたいことを言おうとする。	・台詞をまねながら、絵本の読み聞かせを聞く。 ・Who am I?クイズをする。 ・学習を振り返る。								

図4-2-1 演習1で用いたワークシート



- ・ 演習 2 - 本時の展開を作成する (図 4 - 2 - 2)。

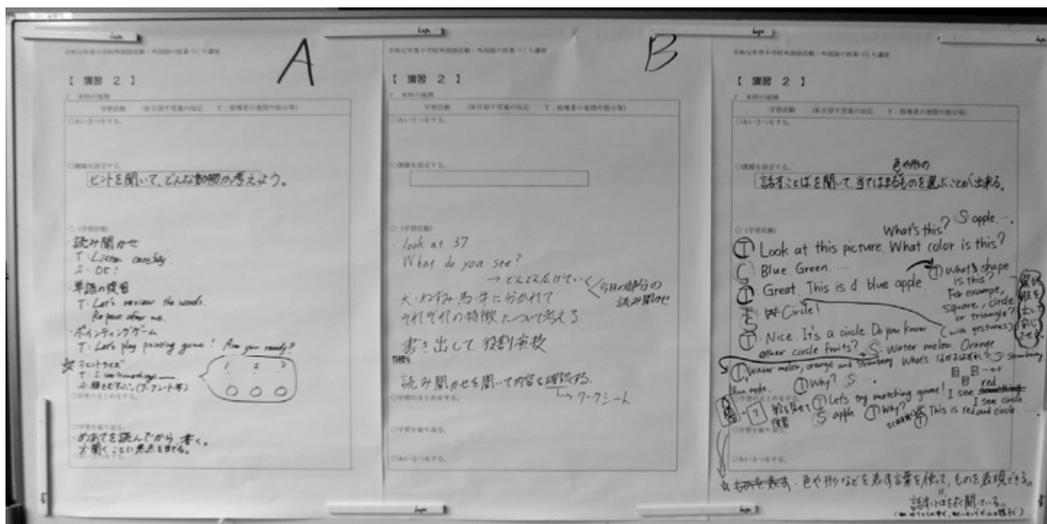


図 4 - 2 - 2

4. 講師による指導・助言 (40分)

(2) 講座における振り返りから

以下は、研修講座の振り返りシート【A】における記述内容の主なものである (記述は受講者が記述したまま)。

受講前の課題	研修の成果と課題、自己の変容等
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 時間の組み立てのポイントがわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元の見通しを持ち、毎時間の重点を考える。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語の授業を英語で行いながら、学習内容に広がりをもたせるにはどうしたらよいか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知識を問うだけではつまらない。いかに複合させるか。またゲームや言語活動の時に、児童生徒に何を説明させるかということが学びにつながることを学んだ。それが広がりにつながることも感じた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ どうしても指導書通りのマンネリ化した授業になってしまう。 ・ 子供とのやり取りが英語だとなかなか続かない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人とコミュニケーションができた、伝わったという達成感を子供達に味わってもらうため、英語を使ったやり取りを楽しみながら授業作りを行いたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 構造的な授業づくりの方法がわからない。 ・ ALT の活かし方もわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ALT は子供が学んだことを練習するためにいることがわかった。外国語でも、めあて→活動→振り返りの流れが大切だとわかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語が話せないからどのように授業をしたらいいのかわからない。 ・ 同じようなパターンになってしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 完璧ではなくても、話そうとすればいいのだと知り、オールイングリッシュでやってみようと思えた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国語活動で子供たちの目指すべき姿を知ること (取り組 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講師の先生の「完璧」を求めず、スパイラルを作って学習するという言葉がとてもわかり

ませ方、意欲をもち学習する方法)。	やすく、今後の実践で意識したいポイント。
<ul style="list-style-type: none"> ・外国語（英語）が話せない、授業の展開の仕方がよくわからない。 ・子供たちに楽しさをうまく伝えられない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入で What do you see?で幅を広げていくこと、繰り返すことで単語に必然的に触れることになっていることなど、たくさんを学べました。ただ、自分の中での語彙力がまだまだなので勉強したいと思いました。
<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の授業力 ・英語を使用する場の設定方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの反応を引き出す手立てを考える。 ・すらすら言うことが大切ではなく、ゆっくり考える時間を与えることが必要だとわかった。

研修講座の振り返りシート【A】、【B】における演習についての感想・要望は次の通りである（記述は受講者が記述したまま）。

<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の目標や内容、これから授業をする上で大切にしなければならないことについて詳しく知ることができ、とても充実していた。ワークショップがもう少し考えやすい Unit だと良かった。 ・校種が中学校であっても役立つ考え方や指導のポイントが多くあり、授業を英語で実践していく上で、自分が見落としていた点が多くあり、勉強になった。 ・演習の場があり、他の先生方と意見交換し合いながら授業づくりについて学ぶ機会があり、大変良かった。 ・知りたいことがほぼ網羅されていたようで、聞いていてとても面白かったです。ぜひ評価についても知りたいと思いました。授業づくりも悩みましたが良かったです。少人数でとても学びやすかったです。 ・外国語活動のねらいから具体的な指導法まで詳しく実践も交え演習することで大変勉強になりました。 ・講座だけでなくワークショップもあって交流しながら学ぶことができた。

令和元年度は、言語活動を通して、目指す資質・能力を育成するために、具体的にどのような単元・授業を構想すればよいかに焦点化して実施した。「言語活動」の定義を確認し、モデルを示したり授業者実際に体験してもらったりした後、グループでの単元構想に取り組んだことで、単元のゴールの児童の姿を共有して演習を行うことができた。ただし、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等の設定については改善の必要があった。研修講座後の協議では、絵本の話の中の「場面」とコミュニケーションを行う「場面」を混同して示していたことが要因だと考え、適切な示し方をすることで、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確に設定した上で、それらに応じた効果的な学習活動をさらに深く考える機会にすることができたのではないかと考えた。受講者と共に授業づくりを行う過程で、本研究におけるコミュニケーションを行う「目的」「場面」「状況」についての捉えがより明確になった。こうした見直しを重ねながら、研修プログラムの開発を今後も行い、実施していきたいと考える。

今後、本研究をまとめたハンドブックを配付する。次年度は、ハンドブックを活用した研修プログラムを実施し、教員、学校のニーズに応えられる、より充実したものとしていきたい。

3 研修講座による支援を通して明らかになったこと

研修講座を踏まえ、今後の研修プログラムの開発・実施に反映させたいことは、次の通りである。

(1) 育成を目指す資質・能力の明確化について

- ・育成を目指す資質・能力を明確にすることで、小学校外国語教育への理解も深まり、単元・授業構想において学習活動を精選し考えることができる。
- ・校内研修の授業研修においては、事後研修会で、再度、育成を目指す資質・能力の設定が適切であったかを検証する必要がある。外国語活動の目標、小学校外国語科の目標に即していたか、児童の実態に応じていたかを児童の具体的な姿で確認し合うことで、育成を目指す資質・能力への理解はより深まり、各学校の学習到達目標の共有化も図ることができる。

(2) 評価場面、評価の在り方について

- ・どの場面で、どのような英語を用いているか、育成を目指す資質・能力を身に付けている児童の姿を具体的に想定して、評価規準を設定することが必要である。
- ・校内研修の授業研修においては、実際に、評価規準や評価方法が適切であったかを検証するとともに、どのような指導が求められるかを検討し、学習や指導の改善につなげていくことが重要である。

(3) 言語活動とそれにつながる学習活動について

- ・外国語教育において、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確に設定した言語活動がいかに重要かを、受講者に理論と実践から理解してもらうことが重要である。実際の児童の姿を共有しにくい研修講座等においては、言語活動を具体的に体験する機会を設けたい。
- ・児童に単元のゴールをどのように理解させるか、モデルの提示等の導入時の工夫を考えることも重要である。
- ・単元のゴールに向かい、どの時間にどのような学習活動を展開するか、ゴールから逆算して構想できるようにしていく。既習事項を繰り返し活用するという視点も大事にしたい。
- ・児童への発問や児童とのやり取りを重視して授業を構想できるように、受講者に働きかける。外国語教育で目指す資質・能力の育成のために必要なことであり、学習において児童の課題意識が重要であることは、他教科等と同じである。

(4) ALT等との連携について

- ・県教育センターでは、県内のALT等の研修を実施しており、ティーム・ティーチングに関する内容も含んでいる。そうした研修とも関連付けながら、研修プログラムの在り方をさらに研究していく。

今後、外国語活動・小学校外国語科が全面実施となり、各教員が実践を重ねる中で、学校ニーズも変化していくと考えられる。教員の声に耳を傾け、指導者としての喜びや困り感、悩みに寄り添いながら、小学校外国語教育の実践的指導力を図ることができるように研修プログラムの内容、進め方をこれからも検討していく必要がある。

今後に向けて

Society5.0 の社会では、定型的業務や数値的に表現可能な業務は、AI（人工知能）により代替が可能になるという。では、そうした社会において、翻訳アプリがあれば外国語の勉強はいらなくなるのか。オンラインの授業動画があれば学校の授業はいらなくなるのか。そのとき教師の役割とは何であり、外国語教育はどうあるべきなのか。答申³³⁾では次のように述べられている。

- 人工知能がいかに進化しようとも、それが行っているのは与えられた目的の中での処理である。一方で人間は、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え出すことができる。多様な文脈が複雑に入り交じった環境の中でも、場面や状況を理解して自ら目的を設定し、その目的に応じて必要な情報を見だし、情報を基に深く理解して自分の考えをまとめたり、相手にふさわしい表現を工夫したり、答えのない課題に対して、多様な他者と協働しながら目的に応じた納得解を見だしたりすることができるという強みを持っている。

（下線部は引用者による。）

翻訳アプリやオンラインコンテンツは、外国語学習や授業そのものを代替できるものではなく、教師が行う授業の質を高めるツールであって、児童生徒の学習を個別に最適化することに活用するなど手段と捉えるのが妥当である。外国語教育に取り組みせる目的のひとつに、人間としての強みを伸ばして、自立した外国語学習者を育成することが挙げられる。手段が目的化すると目指すゴールが変わってしまうため、本研究では、研修講座やハンドブックによる支援の目的を明確に設定している。

令和2年度の小学校学習指導要領の実施に向けて、小学校教員に求められることはプログラミング教育の必修化をはじめ多岐にわたっている。昨今の働き方改革のもと、外国語教育の推進に関わって、本研究で期待される県教育センターの役割と今後の展望について触れたい。

1 小学校英語教育に係る学校ニーズへの対応

(1) 本研究において期待される山形県教育センターの役割

県教育センターは本県における教育のシンクタンク機能を有している。したがって、子供たちにどのような力を付けたいのかという願いと、それを実現するために考えている策を踏まえて、これまでに得た情報や理解したことを整理し、自身の言葉で直接、あるいは間接的に確実に各学校に伝える必要がある。

ハンドブックは、理論編と実践編で構成されている。そもそも「理論」とは何か。広辞苑（第四版）³⁴⁾では、「理論」の項目に **theory** という英語を入れた上で、最初に「個々の事実や認識を統一的に説明することのできる体系的な知識」という語義を挙げている。次に「実践を無視した純粋な知識」という定義を出し、「この場合、一方的で高尚な知識の意でもあるが、他方では無益だという意味のこともある」と説明が加えられている。デジタル大辞泉³⁵⁾では「個々の現象を法則的、統一的に説明できるように筋道を立てて組み立てられた知識の体系」と定義し、「実践に対応する純粋な論理的知識」との説明を加えている。ここで重要なことは、理論と実践は対立する概念ではなく、実践から理論、理論から実践へと往還させるものとして捉えることである。

ハンドブックを作成することが本研究のねらいではない。ハンドブックを通して、教員の指導力を高め、児童生徒の確かな学力を育成することがねらいである。そし

てこのことは、本県における「第6次山形県教育振興計画」に位置付けられている「探究型学習」のねらいでもある。

(2) 今後の展望

山形県では、教育公務員特例法第22条に基づき、平成30年1月、本県教員が高度専門職としての職責、経験、及び特性に応じて身に付ける資質を明確にした山形県教員「指標」を定め、同年2月、この「指標」を踏まえた「山形県教員研修計画」を策定した。

指標³⁶⁾が対象とする教員等の範囲については、次のように述べられている。

県教育委員会が任命権者となる県立学校、市町村立小・中学校・義務教育学校の校長、副校長・教頭、主幹教諭、教諭（常勤講師及び短時間勤務教諭を含む）、助教諭、養護教諭、養護助教諭、栄養教諭とする。

小学校における外国語教育の推進に向けて、各学校においては個々の教員の力量に頼るのではなく、自立した外国語学習者の育成を目指し、学校全体として取り組む必要がある。具体的には、実情に応じて最適な役割分担を行ったり校内研修に学校全体で取り組む風土を醸成したりする「校長」、児童のコミュニケーション意欲や学習意欲の向上を担う「ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材」、一定の英語力を有した「専科教員」、そして、互いに高め合う学習集団づくりに長けた「学級担任」などが、小学校の外国語教育の特性を踏まえた、質の高い授業の実施を目指すことが重要である。

県教育センターとしては、今後も、ハンドブックを活用した校内研修の在り方や、出前サポートにおける活用、さらには専門研修における授業づくりの演習等において、参加した教員が学びを深めることを目指し、研究を進めていきたいと考えている。

引用文献

- 1) 文部科学省 2019「都道府県・指定都市 教育課程研究協議会小学校外国語部会」資料
- 2) 文部科学省 2008『小学校学習指導要領解説外国語活動編』東洋館出版 p. 7
- 3) 文部科学省 2017『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説外国語活動・外国語編』開隆堂出版 pp. 11-15
- 4) 同前 p. 78
- 5) 同前 p. 81
- 6) 同前 p. 18, p. 75
- 7) 文部科学省 2018『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 外国語編』p. 306 開隆堂出版
- 8) MEXT64 『初等教育資料 1 月号（通巻 976 号）』東洋館出版社
ただし、ここでの引用は、直山木綿子「特集 I 論説 新小学校学習指導要領における外国語教育の在り方ー変わるごとと変わらないことー」p. 6 による。
- 9) 文部科学省 2017『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』p. 23
- 10) 前掲 8) p. 7
- 11) 前掲 3) p. 11, p. 67
- 12) 前掲 3) p. 11, p. 67
- 13) 文部科学省 2017『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説外国語編』開隆堂出版 p. 14
- 14) 大城賢 2017『平成 29 年度版小学校新学習指導要領ポイント総整理 外国語』東洋館出版社
ただし、ここでの引用は、酒井英樹「「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」とは」p. 55 による。
- 15) 前掲 9)
- 16) 前掲 3) p. 19
- 17) 前掲 3) p. 28
- 18) 前掲 3) p. 30
- 19) 前掲 16)
- 20) 前掲 3) p. 22
- 21) 前掲 17)
- 22) 前掲 3) p. 32
- 23) 前掲 3) p. 21
- 24) 前掲 3) p. 79, p. 81
- 25) 前掲 3) p. 87, p. 94, p. 99
- 26) 前掲 3) p. 110
- 27) 前掲 3) p. 81
- 28) 前掲 3) p. 81
- 29) 前掲 3) p. 99
- 30) 前掲 3) p. 109
- 31) 前掲 3) p. 125
- 32) 文部科学省 2018「第 4 学年 学習指導案例 Unit 8」
https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2018/08/22/1395223_0408.pdf
- 33) 中央教育審議会 2016「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」

- 34) 新村出 1991『広辞苑（第四版）』岩波書店
- 35) 「デジタル大辞泉」小学館
- 36) 山形県教育委員会 2019『平成 31 年度山形県教員研修計画』 p. 1

参考文献

- 1) 文部科学省教育課程企画特別部会 2015「英語教育の在り方に関する有識者会議報告書」資料
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/siryo/icsFiles/afielldfile/2015/05/25/1358061_03_04.pdf
- 2) 文部科学省 2017「平成 28 年度英語教育実施状況調査」
https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1384230.htm
- 3) 文部科学省 2018「平成 29 年度英語教育実施状況調査」
https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1403468.htm
- 4) 文部科学省 2019「平成 30 年度英語教育実施状況調査」
https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1415042.htm
- 5) MEXT64 『初等教育資料 12 月号（通巻 974 号）』「特集Ⅱ外国語活動・外国語 移行期間中における外国語活動の授業づくりのポイント」東洋館出版社
- 6) MEXT64 『初等教育資料 1 月号（通巻 976 号）』「特集Ⅰ新学習指導要領全面实施を見据えた小学校外国語教育の在り方」東洋館出版社
- 7) MEXT64 『初等教育資料 1 月号（通巻 989 号）』「特集Ⅱ外国語活動・外国語 中学年外国語活動，高学年外国語科導入直前に押さえないポイント」東洋館出版社
- 8) 阿野幸一／太田洋 2019「担任の先生だからこそできる 必然性のある外国語・外国語活動の授業」『英語教育 7 月号』大修館書店
- 9) 金森強／本多敏幸／泉恵美子 2017『主体的な学びをめざす小学校英語教育－教科化からの新しい展開－』教育出版
- 10) 文部科学省 2018『Let's Try! 1』『Let's Try! 1（指導編）』『Let's Try! 2』『Let's Try! 2（指導編）』『We Can! 1』『We Can! 1（指導編）』『We Can! 2』『We Can! 2（指導編）』
- 11) 文部科学省 2011『Hi, friends! 1』『Hi, friends! 1（指導編）』『Hi, friends! 2』『Hi, friends! 2（指導編）』
- 12) 文部科学省 2018「第 3 学年から第 6 学年 学習指導案例」
- 13) 国立教育政策研究所 2011『小学校外国語活動における評価方法等の工夫改善のための参考資料』教育出版
- 14) 国立教育政策研究所 2019『「評価と指導の一体化」のための学習評価に関する参考資料（案）（小学校・中学校）』
- 15) 吉田研作 2017『小学校英語教科化への対応と実践プラン』教育開発研究所
- 16) 酒井英樹／滝沢雄一／亙理陽一 2017『小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズ 小学校外国語科内容論』三省堂出版
- 17) 吉田研作 2017『小学校新学習指導要領の展開 外国語活動編』明治図書出版
- 18) 吉田研作 2017『小学校新学習指導要領の展開 外国語編』明治図書出版
- 19) 菅正隆 2017『アクティブ・ラーニングを位置づけた小学校英語の授業プラン』明治図書出版
- 20) 山田誠志 2018『「考えながら話す」小学校英語授業－使いながら身に付ける英語教育の実現－』日本標準
- 21) 国際教養大学／秋田県教育委員会「Quick Reference」
- 22) 鳥飼玖美子／刈谷夏子／刈谷剛彦 2019『ことばの教育を問いなおす』筑摩書房

調査研究協力校

(2年次)

山形市立南小学校
新庄市立沼田小学校
南陽市立沖郷小学校

(3年次)

酒田市立南平田小学校

ハンドブック監修協力者

国際教養大学 准教授 町田智久

文部科学省初等中等教育局教育課程課情報教育・外国語教育課 教科調査官 山田誠志

調査研究担当者

(1年次)

研修課主任指導主事	太田 千春
指導主事	渡會 美和
指導主事	東海林陽子
指導主事	宮舘 新吾

(2年次)

研修課主任指導主事	太田 千春
指導主事	渡會 美和
指導主事	舟山 知美
指導主事	宮舘 新吾
指導主事	峯田 一哉
指導主事	早坂由紀子
長期研修生	山田 奈美

(3年次)

研修課主任指導主事	太田 千春
指導主事	渡會 美和
指導主事	舟山 知美
指導主事	宮舘 新吾
指導主事	早坂由紀子

発行	令和2年3月
発行者	山形県教育センター 天童市大字山元字犬倉津 2515 TEL 023 (654) 2155 URL http://www.yamagata-c.ed.jp/
印刷	株式会社 大風印刷 天童営業所 天童市東久野本 1-1-45